

# 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部・学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホクゾウ ヒガシチクガクエン 学校法人 東筑紫学園								
フリガナ大学の名称	キョウシユウエイヨクフクシダイガク 九州栄養福祉大学 (Kyushu Nutrition Welfare University)								
大学本部の位置	福岡県北九州市小倉北区下道津五丁目1番1号								
大学の目的	九州栄養福祉大学は教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、建学の精神と教育理念に基づいて高等学校教育の基礎の上に広く知識を授けると共に人格の完成をはかり、専門知識技能を教授研究し人類社会の福祉に貢献する人材の養成を目的とする。								
新設学部等の目的	<p>本学の建学の精神「勇気・親和・愛・知性」を基に、AI・データサイエンスを地域社会や人類の福祉のために活用するという信念を有し、食環境・健康分野の深い専門知識とAI・データサイエンスのスキルを合わせ持つことにより、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を実現する持続可能な社会に貢献するグローバル人材を育成することを教育上の目的とする。基礎から応用に至るまでのAI・データサイエンス技術の習得、食環境問題に対する深い洞察、実践的な問題解決能力の育成、倫理的・社会的責任感の高い専門家の養成に重点を置き、異なる分野の知識を統合して新たな視点から問題にアプローチできる人材を育成する。そのために、食料や食品の生産・流通、医療・福祉、環境への影響に関連する広範なデータを収集・分析し、科学的根拠に基づいた社会の持続可能な発展に寄与するデータ駆動型の専門家を養成するための教育研究を行う。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	食物栄養学部 (Faculty of Food and Nutrition) 食環境データサイエンス学科 (Department of Food Environment Data Science) 計	年 4	人 50 50	年次人 - -	人 200 200	学士 (食環境データサイエンス)  (Bachelor of Food Environment Data Science)	家政関係	年 月 第 年次 令和7年4月 第1年次	福岡県北九州市小倉北区下道津五丁目1番1号
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	九州栄養福祉大学 こども教育学部こども教育学科 (50) (令和6年3月認可申請) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 [定員減] (△20) (令和6年6月届出予定) 保育学科 [定員減] (△80) (令和6年6月届出予定)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	食物栄養学部 食環境データサイエンス学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
		53科目	25科目	0科目	78科目				
新	学部等の名称	食物栄養学部 食環境データサイエンス学科				基幹教員		助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)
		教授	准教授	講師	助教	計			
		4人 (4)	2人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	6人 (5)	0人 (0)	24人 (9)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計 (a～b)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)				

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 5人

設	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	/	/			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			1 (0)		
	計（a～d）	4 (4)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			6 (5)		
	こども教育学部 こども教育学科	7 (6)	6 (4)	1 (0)	0 (0)	0 (0)			14 (10)	0 (0)	29 (17)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (5)	4 (2)	1 (0)	0 (0)	0 (0)			11 (7)	/	/
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			0 (0)		
	小計（a～b）	6 (5)	4 (2)	1 (0)	0 (0)	0 (0)			11 (7)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			3 (3)		
	計（a～d）	7 (6)	6 (4)	1 (0)	0 (0)	0 (0)			14 (10)		
計	11 (10)	8 (5)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (15)	0 (0)	53 (26)			
既	食物栄養学部 食物栄養学科	13 (13)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	6 (6)	21 (21)		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	13 (13)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	/	/		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	13 (13)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	19 (19)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	13 (13)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	19 (19)				
	リハビリテーション学部 理学療法学科	6 (6)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			0 (0)	56 (56)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			/	/
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	6 (6)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	14 (14)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）	6 (6)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	14 (14)					
設	計	11 (10)	8 (5)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (15)	0 (0)	53 (26)		
	食物栄養学部 食物栄養学科	13 (13)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	6 (6)	21 (21)		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	13 (13)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	/	/		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	13 (13)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	19 (19)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	13 (13)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	19 (19)				
	リハビリテーション学部 理学療法学科	6 (6)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			0 (0)	56 (56)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a～b）	6 (6)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	14 (14)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）	6 (6)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	14 (14)					

令和6年3月  
認可申請

大学設置基準別  
表第一イに定め  
る基幹教員数の  
四分の三の数  
6人

大学設置基準別  
表第一イに定め  
る基幹教員数の  
四分の三の数  
7人

大学設置基準別  
表第一イに定め  
る基幹教員数の  
四分の三の数  
6人

リハビリテーション学部 作業療法学科		4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	57 (57)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 6人
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	/	/	
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)			
分 計		23 (23)	12 (12)	3 (3)	3 (3)	41 (41)			6 (6)
合 計		34 (33)	20 (17)	4 (3)	3 (3)	61 (56)	6 (6)	187 (160)	
職 種		専 属		そ の 他		計			
事 務 職 員		9 (9)		37 (37)		46 (46)			
技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
図 書 館 職 員		1 (1)		4 (4)		5 (5)			
そ の 他 の 職 員		0 (0)		6 (6)		6 (6)			
指 導 補 助 者		0 (0)		3 (3)		3 (3)			
計		10 (10)		50 (50)		60 (60)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	29,681.70㎡	25,833.93㎡	0㎡		55,515.63㎡			
	そ の 他	47,061.14㎡	3,526㎡	0㎡		50,587.14㎡			
	合 計	76,742.84㎡	29,359.93㎡	0㎡		106,102.77			
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	28,535.20㎡ ( 28,535.20㎡)	17,200.62㎡ ( 17,200.62㎡)	5,136.40㎡ ( 5,136.40㎡)		50,872.22㎡ ( 50,872.22㎡)				
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	98室	教 員 研 究 室		119室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕		学 術 雑 誌 〔うち外国書〕		機 械 ・ 器 具 点	標 本 点		
		冊	電 子 図 書 〔うち外国書〕	種	電 子 ジャーナル 〔うち外国書〕				
	食物栄養学部 食環境データサイエンス学科	550〔 7 〕 ( 550〔 7 〕)	17〔 3 〕 ( 17〔 3 〕)	16〔 5 〕 ( 16〔 5 〕)	4〔 4 〕 ( 4〔 4 〕)	687 ( 687 )	0 ( 0 )		
計	550〔 7 〕 ( 550〔 7 〕)	17〔 3 〕 ( 17〔 3 〕)	16〔 5 〕 ( 16〔 5 〕)	4〔 4 〕 ( 4〔 4 〕)	687 ( 687 )	0 ( 0 )			
ス ポー ツ 施 設 等	ス ポー ツ 施 設		講 堂		厚 生 補 導 施 設				
	2,683.78㎡		2,683.78㎡		1,392.84㎡				
大学全体 (東筑紫短期大 学と共用) スポーツ施設 (体育館)と講 堂は兼用									

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナル・データベースを含む
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	550千円	550千円	550千円	550千円	－千円	－千円	
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円		
	図書購入費	2,878千円	1,656千円	1,834千円	2,034千円	2,258千円	－千円	－千円	
	設備購入費	85,728千円	12,437千円	3,289千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,450千円	1,220千円	1,220千円	1,220千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金、手数料、寄付金、資産運用収入等							
既設大学の状況	大学等の名称	九州栄養福祉大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	食物栄養学部 食物栄養学科	4	100 100	3年次 10	420 420	学士 (食物栄養学)	0.99 0.99	平成13年度	北九州市小倉北区下道津五丁目1番1号
	リハビリテーション学部 理学療法学科	4	120 80	－ －	480 320	学士 (理学療法学)	0.94 1.04	平成23年度	北九州市小倉南区葛原高松一丁目5番1号
	作業療法学科	4	40	－	160	学士 (作業療法学)	0.73	平成23年度	同上
	健康科学研究科 健康栄養学専攻	2	4	－	8	修士 (健康科学)	0.12	平成17年度	北九州市小倉北区下道津五丁目1番1号
	大学等の名称	東筑紫短期大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
保育学科	2	150	－	300	短期大学士 (保育学)	0.67	昭和29年度	北九州市小倉北区下道津五丁目1番1号	
食物栄養学科	2	70	－	140	短期大学士 (食物栄養学)	0.82	昭和33年度	同上	
令和7年度入学定員減(80人)									
令和7年度入学定員減(20人)									
附属施設の概要	該当なし								

教育課程等の概要																		
(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員		
基礎 教養 科目	キャリアガイダンスⅠ	1前	○	1						4	1						オムニバス	
	キャリアガイダンスⅡ	1後	○	1						4	1						オムニバス	
	キャリアガイダンスⅢ	2前	○	1						4	1						オムニバス	
	キャリアガイダンスⅣ	2後	○	1						4	1						オムニバス	
	食環境データサイエンス概論	1前	○	2			○			4	1						オムニバス	
	食環境イノベーションデザイン	1後	○	2			○			1					1		オムニバス	
	農園演習	1通				1		○								2		
	食と経済	1前				2		○								1		
	人間関係の心理	2前				2		○								1		
	基礎生物学	1前				2		○								1		
	基礎化学	1前				2		○			1							
	化学	1後			2			○			1							
	リハビリテーション概論	2前				2		○								3		
	コンピュータリテラシー	1前	○	1					○		1							
	AI・データサイエンス入門	1後	○	1					○		1							
	実用英語の基礎Ⅰ	1前	○	1					○								1	
	実用英語の基礎Ⅱ	1後	○	1					○								1	
	実用英語	2前				1			○								1	
	国際理解（海外研修）	2前・2後				1			○								2	
	健康スポーツ科学Ⅰ	1前				1			○								1	
	健康スポーツ科学Ⅱ	1後				1			○								1	
	健康スポーツ科学Ⅲ	2前				1			○								1	
	健康スポーツ科学Ⅳ	2後				1			○								1	
小計（23科目）		—	—	16	15			—		4	1	0	0			10		
専門 教育 科目	食と健康 科目	解剖生理学	1前					○									1	
		生化学	1後	○	2			○			1						1	
		疾病の成り立ちと病態	2後				2		○								1	
		運動生理学	3後				2		○								1	
		食品分子機能学	2後	○	2				○		1							
		微生物学	1前	○	2				○			1						
		食品学総論	1後	○	2				○								1	
		食品衛生学	1前	○	2				○			1						
		食品加工学	3前	○	2				○								1	
		基礎栄養学	2前	○	2				○		1							
		応用栄養学	2前				2			○								1
		臨床栄養学	2後				2			○								1
		公衆栄養学	2後				2			○								1
		スポーツ栄養学	3後				2			○								1
小計（14科目）		—	—	14	14	0		—		2	1	0	0			7		
専門 教育 科目	データサイエンス 科目	微積分学基礎	1前			2		○			1							
		データサイエンスのための微積分学	1後	○	2			○			1							
		線形代数基礎	1後				2		○								1	
		データサイエンスのための線形代数	1後	○	2				○								1	
		確率統計学基礎	1後				2		○			1						
		データサイエンスのための確率統計学	2前	○	2				○			1						
		データサイエンスのための応用数学	2前	○	2				○			1						
		プログラミング基礎	1前	○	2				○			1						
		プログラミング演習	1後	○	1					○		1						
		情報ネットワーク	1後	○	2				○			1						
		データベース入門	2前	○	2				○			1						
		センシングと信号処理	2後				2			○							1	
		機械学習基礎	2前				2			○							1	
		機械学習演習	2前				1			○							1	
		データ解析基礎	2後	○	2					○			1					
		データ解析演習	2後	○	1					○			1					
		ニューラルネット基礎	3前	○	2					○			1					
ニューラルネット演習	3前	○	1					○			1							
マルチモーダルAI技術と応用	3後				2			○							1			
データ駆動型意思決定と可視化	3前				2			○							1			
食農健康データサイエンス	3前	○	2					○			1							
先端AI論	3後	○	2					○			1							

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(除く)の教員		
	フードウェルネスデータサイエンス	3前	○	2			○			1	1							
	バイオインフォマティクス	2後	○	2			○			1	1							
	先端ロボティクス論	3後		2			○											
	マーケティングとデータサイエンス	3前	○	2			○			1								
	マネジメントとデータサイエンス	3後	○	2			○			1								
	人間とAI	3前		2			○										1	
	小計 (28科目)	—	—	48	4	0	—	—	—	4	2	0	0				4	
専門教育科目	食環境マネジメント科目	マーケティング論		2後			○											1
		マーケティングリサーチ		3前			○											1
		流通システム論		2後			○											1
		消費者行動論		3前			○											1
		サプライチェーンマネジメント学		3前	○	2			○									5
		アグリビジネスマネジメント学		3後	○	2			○									5
		食環境地域連携演習		2後					○		1							2
		インターンシップ		3前・3後					○		1							1
		アントレプレナー論		2前	○	2			○									5
		アントレプレナー演習		2後		1			○									5
	小計 (10科目)	—	—	7	10	0	—	—	—	2	0	0	0				9	
専門教育科目	卒業研究	データサイエンス基礎演習		3前	○	1			○		4	1						
		データサイエンス実践演習		3後	○	1			○		4	1						
		卒業研究		4通	○	8			○		4	1						
		小計 (3科目)	—	—	10	0	0	—	—	—	4	1	0	0				0
合計 (78科目)		—	—	95	43	0	—	—	—	4	2	0	0				26	
学位又は称号		学士 (食環境データサイエンス)			学位又は学科の分野			家政関係										
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等											
「基礎教養科目」から必修科目16単位を含む24単位以上、「専門教育科目」から必修科目79単位を含む100単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：48単位 (年間))							1 学年の学期区分				2期							
							1 学期の授業期間				15週							
							1 時限の授業の標準時間				90分							

教 育 課 程 等 の 概 要

（食物栄養学部食物栄養学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 （助手を除く）	
基礎 教養 科目	キャリアガイダンスⅠ	1通	○	2				○		2	1						
	キャリアガイダンスⅡ	2通	○	2				○		1	2						
	食と哲学	1前	○	2			○			1							
	倫理学	1後	○	2			○			1							
	栄養士のための農園演習	1通			1			○			1					1	
	食環境地域連携演習	1通			1			○		3	1						
	人間関係の心理	1前			2			○		1							
	日本国憲法	1後			2			○								1	
	栄養士の法制度論	1前			2			○								1	
	食と経済	1後			2			○								1	
	基礎生物学	1前			2			○		1							
	食物と薬	1後			2			○								1	
	基礎化学	1前			2			○			1						
	化学	1後	○		2			○		1		1					
	基礎統計学	1後	○		2			○		1							
	コンピュータリテラシーⅠ	1前			1				○	1							
	コンピュータリテラシーⅡ	1後			1				○	1							
	実用英語の基礎Ⅰ	1前	○		1				○		1						
	実用英語の基礎Ⅱ	1後	○		1				○		1						
	実用英語Ⅰ	2前			1				○		1						
	実用英語Ⅱ	2後			1				○		1						
	フランス語の基礎	1前			1				○							1	
	料理とフランス語	1後			1				○							1	
	中国語の基礎	1前			1				○							1	
	料理と中国語	1後			1				○							1	
	国際理解（海外研修）	1前・1後			2				○		1	1					
	健康スポーツ科学Ⅰ	1通	○		2				○		1						
	健康スポーツ科学Ⅱ	2通			2				○		1						
	スポーツ栄養学	3後			2				○			1					
小計（29科目）	—	—	—	16	30			—		9	5	0	0			7	
専門 教育 科目	健康管理概論	2後		2	2				○								1
	公衆衛生学Ⅰ	3前	○	2					○								2
	公衆衛生学Ⅱ	3後			2				○								2
	社会福祉論	2前	○	2					○		1						
	解剖生理学Ⅰ	1前	○	2					○		1						
	解剖生理学Ⅱ	1後		2					○		1						
	生化学Ⅰ	1後	○	2					○		1						
	生化学Ⅱ	2前		2					○		1						
	病態生理学	3前	○	2					○		1						
	疾病の成り立ちと病態	2後	○	2					○		1						
	運動生理学	3後	○	2					○		1						
	微生物学	1前	○	2					○			1					
	生化学実験	2後		1						○	1		1				
	解剖生理学実習	1後		1						○	1						
	解剖生理学実験	2前		1						○	1						
	食品学総論	1後	○	2					○			1					
	食品衛生学	1前	○	2					○			1					
	食品加工学	3前	○	2					○		1						
	調理学	1前	○	2					○		1						
	食品学実験Ⅰ	2前		1						○	1	2					
	食品学実験Ⅱ	3後		1						○		1					
	食品加工学実習	3後		1						○	1						
	食品衛生学実験	2後		1						○		1					
	調理学実習Ⅰ	1前		1						○						1	
	調理学実習Ⅱ	1後		1						○						1	
	調理学実習Ⅲ	2前		1						○		2					
小計（26科目）	—	—	—	38	4	0		—		6	5	0	0			4	

集中実験

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(食物栄養学部食物栄養学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
専門教育科目 管理栄養士基本科目(専門分野)	基礎栄養学	2前	○	2			○			1						1	
	基礎栄養学実験	2前		1				○									
	応用栄養学Ⅰ	2前	○	2			○			1							
	応用栄養学Ⅱ	2後	○	2			○			1							
	応用栄養学Ⅲ	4前			2		○			1							
	応用栄養学実習	2後		1				○			1						
	栄養教育論Ⅰ	2前	○	2			○				1						
	栄養教育論Ⅱ	2後	○	2			○				1						
	栄養教育論Ⅲ	4前			2		○				1						
	栄養教育論実習Ⅰ	2後		1				○			1	1					
	栄養教育論実習Ⅱ	3後		1				○								1	
	臨床栄養学Ⅰ	2後	○	2			○				1						
	臨床栄養学Ⅱ	3前	○	2			○				1						
	臨床栄養学Ⅲ	3前			2		○						1				
	食物とアレルギー	3後	○	2			○				1						
	臨床栄養学実習Ⅰ	3前		1				○					1				
	臨床栄養学実習Ⅱ	3後		1				○			1		1				1
	公衆栄養学Ⅰ	2後	○	2			○				1						
	公衆栄養学Ⅱ	3前	○	2			○				1						
	公衆栄養学実習(学内)	3前		1				○			1						
	給食管理	2後	○	2			○					1					
	給食経営管理論	3前	○	2			○					1					
	給食管理実習	3前		1				○				1					
	食健康センター活動(演習)	4前			1			○			1						
	臨地実習指導(演習)	3通			1			○			1	1		1			
	臨地実習Ⅰ	3後			2				○					1			
	臨地実習Ⅱ	3通			1				○		1						
	臨地実習Ⅲ	3通			1				○								
小計(28科目)		—	—	33	11	0	—	—	—	6	3	0	0			3	
専門教育科目	栄養カウンセリング	2後			2		○			1							
	栄養情報処理演習Ⅰ	2前	○	1				○		1							
	栄養情報処理演習Ⅱ	2後		1				○		1							
	食品学各論	2前	○	2			○				1						
	食品基礎実験	1前		1				○			1						
	有機化学	2前	○	2			○			1							
	栄養福祉論	3前	○	2			○			1							
	社会福祉援助技術	3前			2		○									1	
	高齢者心理学	3後		2			○			1							
	リハビリテーション概論	2前		2			○									2	
	食事介助実習(学外)	4前		1				○			1						
	料理特別実習Ⅰ	4前		1				○								1	
	料理特別実習Ⅱ	4前		1				○								1	
	料理特別実習Ⅲ	4前		1				○								1	
	管理栄養士演習ⅠA	4前		2				○			9	6		1			
	管理栄養士演習ⅠB	4後	○	2				○			9	6	1				
	管理栄養士演習Ⅱ	4後		2				○			9	6	1				
	運動処方論	4前		2			○				1						
	食品機能論	4前			2		○				1						
	栄養薬理学Ⅰ	3前			2		○				1						
	栄養薬理学Ⅱ	3後			2		○				1						
	栄養士のための薬膳	3前			2		○									1	
細菌性食中毒学	2後			2		○				1							
食品バイオテクノロジー	3後			2		○					1						
食品の官能評価・鑑別演習	4前			2			○				1						
食品流通論	1前			2		○										1	
小計(26科目)		—	—	15	30	0	—	—	—	12	7	0	0			8	
専門教育科目 卒業研究	キャリアデザイン	3通	○	2				○		1	1	1					
	専門ゼミナール	4通	○	2				○		7	5	1					
	卒業論文	4通		2				○		4	3						
	小計(3科目)		—	—	4	2	0	—	—	7	6	0	0			0	

2単位必修

1単位必修

2単位必修  
集中講義

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(食物栄養学部食物栄養学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)
教職に関する専門教育科目	児童・生徒の栄養指導Ⅰ	3前			2		○			1						
	児童・生徒の栄養指導Ⅱ	3後			2		○			1						
	教育原理	1前			2		○			1						
	教職概論	1前			2		○			1						
	教育制度論	2後			1		○			1						
	教育心理学	1後			2		○			1						
	特別支援教育概論	2前			1		○								1	
	教育課程論	2後			1		○								1	
	道德教育の理論と方法	2前			1		○								1	
	総合的な学習と特別活動	2前			1		○								1	
	教育方法論	2後			1		○								1	
	生徒指導の理論と方法	2後			2		○			1						
	教育相談 (カウンセリング含む)	3前			2		○			1						
	栄養教育実習	4前			1			○		1						
	栄養教育実習事前・事後指導	3後・4前			1			○		1						
	教職実践演習 (栄養教諭)	4後			2			○		3						1
小計 (16科目)		—	—	0	24	0	—	—	3	0	0	0			3	
合計 (128科目)		—	—	106	101	0	—	—	14	8	0	0			25	
学位又は称号		学士 (食物栄養学)		学位又は学科の分野			家政関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
「基礎教養科目」から必修科目16単位を含む24単位以上、「専門教育科目」から必修科目94単位を含む100単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：48単位 (年間))							1学年の学期区分			2期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業の標準時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要				
(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)				
科目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基 礎 教 養 科 目	キャリアガイダンスⅠ	○	本演習は、本学の建学の精神に基づき大学生生活を充実したものとし、未来を切り開くための総合的基礎学習を行う。内容としては、大学生生活に適応し学問分野への動機づけを高めるために、学生間交流、履修指導、論理的思考法、文献の読み方、文章の書き方、口述発表の仕方等の指導を行う。	オムニバス
	キャリアガイダンスⅡ	○	本演習は、引き続き本学の建学の精神に基づき大学生生活を充実したものとし、未来を切り開くための総合的基礎学習を行う。自らの将来のキャリアについて考え、学生個々の目的を達成させるために教科及び生活指導を行う。	オムニバス
	キャリアガイダンスⅢ	○	本演習では、本学科が理想とするデータサイエンスの専門家に必要な「勇気」（データサイエンスの専門家としての責任感を持ち、積極的かつ忍耐強く努力する力）、「親和」力（相手を思いやり、助け合う心）、「愛」（地域住民の健康生活と福祉の向上を願う心）、「知性」（知識、教養を培う努力を惜しまず、新たな視点から解決策を提案できる力）の修得に向けた総合的基礎学習を実施する。	オムニバス
	キャリアガイダンスⅣ	○	本演習では、引き続き本学科が理想とするデータサイエンスの専門家に必要な「勇気」（データサイエンスの専門家としての責任感を持ち、積極的かつ忍耐強く努力する力）、「親和」力（相手を思いやり、助け合う心）、「愛」（地域住民の健康生活と福祉の向上を願う心）、「知性」（知識、教養を培う努力を惜しまず、新たな視点から解決策を提案できる力）の修得に向けた総合的基礎学習を実施する。さらにデータサイエンスの専門家としての実務を通じた視点で、一人ひとりのキャリア発達を指導し、それぞれにふさわしいキャリア形成の支援を行う。	オムニバス
	食環境データサイエンス概論	○	この科目は、新入生に対して「食と健康」、「農業」、「福祉」という分野におけるデータサイエンスの必要性と応用を概観する。食品の安全性分析、栄養学的評価、農作物の生産効率向上、福祉サービスの質の改善など、現実の課題解決におけるデータの活用が具体例として紹介される。データの種類、分析技術、意思決定プロセスへの適用などが検討され、学生は4年間の学習計画とデータサイエンスの可能性を探ることとなる。	オムニバス
	食環境イノベーションデザイン	○	この科目では、多様な業種の企業や地方行政のリーダーたちをゲストに迎え、先進技術を軸にしたイノベーション事例を学ぶ。ビッグデータを活用したAI技術の応用事例や、デジタルトランスフォーメーション（DX）の進行に伴うSociety 5.0の実現に向けた具体的な事例を通じて、データサイエンスの基礎を習得する。また、食環境における多様な問題に対する新しいアプローチを探究することで、将来のキャリアデザインを考えるための基盤を築く。	オムニバス
	農園演習		小倉南区キャンパスの実習農園で、太陽の下、土にふれ、野菜を育てることで、心の畑を耕し、筑紫の心を育む。また、附属幼稚園園児と一緒に、日本の伝統行事に必要とされる食に関する知識を学ぶことで、食育に展開する知識・技術を習得する。	
	食と経済		この講義では食と経済（特にお金）との関わりについて学ぶ。近年、フードビジネスの分野でもデータサイエンスの専門家の役割は飛躍的に増大している。最低限の金融リテラシーを身につけることは、皆さんが社会に出て、実際にビジネスの現場に向き合った際にも、これからの人生設計においても、大きな武器となるだろう。お金に使役されるのではなく、お金を使役するための知識を学んで、これからの人生設計をより豊かなものとするための一助としてほしい。	
	人間関係の心理		心理学は「人間行動の科学」と定義される。その目的は人間の行動を記述・説明・予測・制御することであり、その研究分野は多岐にわたっている。人間関係の始まりと展開、パーソナリティの理論と測定、人生における心の成長と変化の過程、心の悩みや病を抱える人に対する心理学的な理解と援助など多くのテーマがある。そこで、本講義では食環境を学ぶものにとって役に立つ心理学の知識を精選し、主に社会・人格・発達・臨床心理学について講じ、患者理解を深めるための一助としたい。授業の方法としてはグループワーク、グループ討論、ピア・インストラクション、シンク・ペア・シェアを取り入れる。	
	基礎生物学		ヒトの体のしくみについて豊富な知識と能力が要求される。ヒトの体のしくみは健康・疾病を知る上で重要であり、ヒトを含め生物の生命のしくみをよく理解する必要がある。生物学はその基本科目となる。本講義では、生物の一般的な内容から専門的内容まで踏み込んで学習する。生物学という広く深い分野であるため、教科書は勿論のこと参考資料や説明資料を配付しながら授業を進める。特に、学生は生命に対する興味を持って受講して欲しい。	
	基礎化学		化学は自然現象を理解するために必須の知識である。本講義では、大学における化学を学ぶ上で土台となる、基礎的な知識を理解し身につけることを目標とする。物質の構成粒子と粒子の結合について深く学ぶため、グループワークを行う。	
	化学		化学は物質の構造とその性質を学ぶことにある。この授業では、化学結合と物質の構造、酸塩基反応および酸化還元反応などを理解し、大学でこれから学ぶ生化学、栄養学および食品学などを受講する上で必要な化学の基礎知識を習得し、グループディスカッションやディベートを取り入れながら学習する。講義の終わりに小テストを配布して、講義のポイントを復習させる。	
	リハビリテーション概論		この講義は、理学療法、作業療法に関する実務経験のある教員が、リハビリテーションの理念と社会性、地域リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーションの考え方を教授する。各分野において分担講義を行う。子どものリハビリテーションでは、重症心身障害児・者、肥満児、発達障害児に対する生活・工学的支援について検討する。	オムニバス
	コンピュータリテラシー	○	この科目は、新入生が大学生活における基本的なコンピュータスキルを習得することを目的とする。OSの基本操作、Officeソフトウェア（Word, PowerPoint, Excel）の活用方法を通じて、文書作成、プレゼンテーション作成、データ管理の技術を身につける。また、Google Colabを利用して、Pythonを科学計算の電卓として使用する方法を導入する。さらに重要なのは、大学の教育システムの使い方を習得することであり、講義の履修登録、資料のダウンロード、レポートの提出方法について学ぶ。著作権、ネットワークマナー、情報セキュリティに関する基礎知識も扱い、デジタル環境における責任ある行動を促す。	

AI・データサイエンス入門	○	AI・データサイエンス入門は、人工知能とデータサイエンスの基本概念と技術を紹介する科目である。機械学習、ディープラーニング、統計的方法、データ分析の基本原則を学ぶ。この科目では、様々な産業におけるAIの応用例の紹介とともに、基礎的なデータ処理技術、分析手法の理解を深める。データ駆動型の意思決定プロセスについても学習する。
実用英語の基礎Ⅰ	○	グローバル化の進む日本社会は、英語の基礎的なコミュニケーション能力をもつ食のスペシャリストを求めている。この講義では、多様化する現代の食と栄養をテーマにして、受講者の英語脳を育てていく。英語の一区切りの文は、基本的には、わずか3つの品詞（名詞、動詞、形容詞）を使った5種類の文で構成されている。複雑に見える文も、これらに副詞や前置詞句を足す事によってできている。英語のコミュニケーションで大切なのは、動詞によって決まるこれら5つの文型を順序よく、正しい発音で発話し、文章化するスキルである。本講義では、海外での職務経験を有する教員が、日本語にはない英語独特の音を口の形と舌の位置で正しく発音することにより自然とリスニング力も高まることを体験する。また、英語の音とスペル（つづり）の関係性を学び、1つの基本単語から派生する単語を学び、語彙力もあげていく。
実用英語の基礎Ⅱ	○	実用英語の基礎Ⅰに引き続き、海外での職務経験を有する教員が、多様化する現代の食と栄養について、テーマを変えて、受講者の英語脳をさらに育てていく。この講義では、英語のコミュニケーションに幅や奥深さをつけるために必要な品詞について学ぶ。これらの品詞は、それぞれに役割があり、文型や他の品詞との関係性で置く場所が決まる。これは、会話や文を書く際に、大切である。前期でマスターした5つの文型にこの知識を加えることにより、英語力の幅や奥深さが育つ。さらに、発話の際のリズムやアクセントを学ぶことにより、より自然な会話が楽しめるようになる。本講義では、実用英語の基礎Ⅰでカバーできなかった英語独特の音の数を増やして、さらに学ぶ。
実用英語		グローバル化の進む日本社会は、英語でのコミュニケーション能力をもつ食のスペシャリストを求めている。この講義では、海外での職務経験を有する教員が、自らの経験をもとに培ったリスニングスキルをシェアする。他言語の習得には、音から入ることは重要である。理由は単純で、赤ん坊は、文字からではなく、音から言語を学ぶのである。本講座では、音に関するものと文の構造に関するものの2つのスキルを実用的なビジネスの場で使えるようになることが目的である。
国際理解（海外研修）		グローバル化の進む社会では、各分野のスペシャリストが、国際的感覚や視野を持つことは、大切である。このプログラムでは、海外での職務経験を有する教員が、日本が国際化の大きな波の中で、どういう立ち位置にあり、どういう方向性をもち取り組んでいるのか。そして、そこにはどのような課題があるのか。グループディスカッションやディベートを取り入れながら考察し、課題解決策を模索していく。事前研修で、渡航先の歴史や文化を学ぶと同時に郷土・日本のそれらとを比較する。また、最低限の外国語会話スキルの取得を目指し、現地でのフィールドワークの準備をする。渡航先では、各専門分野に関係のある施設や店舗等を訪問し、その際の見聞や体験を通して、その国独特の文化や習慣に基づく多様性に気づく機会を持つ。事後研修では、社会の国際化・多様化に伴って増えてくる新しいニーズと学んだ多様性との因果関係を考察し、プレゼンテーション形式で、体験談をシェアし、課題の解決策の提案へと発展させる。
健康スポーツ科学Ⅰ		便利になり過ぎた現代社会は、通常のライフスタイルでは身体活動量が不足しがちである。授業を通じて運動、スポーツに興味を持ち、生涯スポーツの実践につながることを、また合気道を通じて建学の精神の理解を深めることを目的とする。各々の現体力を把握することで、より自分にフィットした運動を体験できるよう授業を展開する。
健康スポーツ科学Ⅱ		「健康スポーツ科学Ⅰ」の目的達成のために、微妙な個人差や健康状態に合わせた運動の匙加減を体得し、自己管理能力を身につけ、さらに技術の獲得やスポーツの楽しさを体得することでストレスに対処するスキルの獲得を目指す。
健康スポーツ科学Ⅲ		「健康スポーツ科学Ⅰ,Ⅱ」で習得した技術をベースに、ゲーム中心の授業を実施する。複数のスポーツ種目を実施することで、積極的な学生同士のコミュニケーションを図り、主体的に且つ安全で効果的な実践に結びつく態度を養う。全員で同一種目を行う。
健康スポーツ科学Ⅳ		「健康スポーツ科学Ⅰ,Ⅱ」で習得した技術をベースに、ゲーム中心の授業を実施する。複数のスポーツ種目を実施することで、積極的な学生同士のコミュニケーションを図り、主体的に且つ安全で効果的な実践に結びつく態度を養う。希望に応じて種目ごとにグルーピングを行い実施する。
解剖生理学		生体がどのように維持・調節されているのかについて学び、理解する。解剖生理学講義では、消化器系、血液・造血器系、運動器系、循環器系の各々の機能と構造について基本的知識を学ぶとともに、臓器間の相互連関についても理解する。
生化学	○	生化学は複雑な生命現象を分子レベルで理解しようとする学問である。生化学Ⅰでは、まず生物の基本単位である細胞の構造と機能を把握し、生体構成成分の分子構造に基づいて、それらの性質や生体内での機能を理解する。次いで糖質代謝とその調節や生体エネルギー産生との関係を理解する。これらは後続の基礎栄養学、食品学総論、応用栄養学、臨床栄養学の基本をなすもので十分な理解が求められる。
疾病の成り立ちと病態		疾病の発症のメカニズム、疾病による人体の構造や代謝の変化、疾病の症状・合併症、疾病の診断方法、疾病の治療全般について学ぶ。講義終了後のGoogleフォームでの小テストにおいて、解説も記載しており、反復学習を期待する。
運動生理学		現代生活は、機械化・省力化による運動不足が生活習慣の一因であることが明らかである。健康を維持・増進するためには適切な栄養とともに生活の中に運動習慣を取り入れる必要がある。本講義では身体運動によって体にどのような変化が生ずるか、その現象としくみについて学び、身体運動と食の関わりについて理解を深める。
食品分子機能学	○	近年、生命の根幹である生体のホメオスタシスを維持することや、病態を改善することのために果たす「食品の役割」が重要となってきた。そのためには、生体内の情報伝達や制御機構に関わる「食品分子」の役割と機能を系統的かつ論理的に研究することがとても大切な。そこで、本講義では、健康科学の視点から食品と密接に関係する「生活習慣病」にフォーカスし、食品と生体機能の両面から「人間の健康」に果たす「食品の分子機能」の重要性について理解することを目指す。
微生物学	○	微生物は種々の病気を引き起こす一方、生活に役立つ発酵・醸造食品、工業的発酵生産物の製造・生産のために必要である。本科目では、食品衛生の観点から微生物の様々な性質について基礎から学習する。微生物の取扱い・利用についてのプレゼンテーションを行う。

食 と 健 康 科 目	食品学総論	○	食品を総論的に解説し、食品加工や機能性などを学習するための基礎的知識を習得する。人間と食品の関わり、食品の主要成分、微量成分、嗜好成分、物性、生体調節機能成分、食品表示制度などについて具体例をあげて解説する。特に食品成分の種類と構造、化学的・物理的性質を詳しく解説して理解を深める。	
	食品衛生学	○	食品の安全性を確保するためには食品の衛生管理が重要である。本講義では、飲食によって発生する健康上の危害を防止する内容を学ぶ。食品衛生について興味を持ったことをグループごとにプレゼンテーションを行う。	
	食品加工学	○	食品学総論で学んだ一般的知識と食品の個々の化学的性質や栄養的特性を十分理解した上で、食品加工学を学ぶ。貴重な食品を有効に活用し、付加価値を増すために加工の目的をしっかりと理解することが必要である。加工の目的である食品の貯蔵および加工法について説明する。食品成分の貯蔵・加工中の変化について個々の食品を取り上げ解説する。加工に関わる問題点や食環境を学ぶものとして必要な知識および取り組み方も習得する。発酵の目的と方法、食品表示についても解説する。学生は食品学総論を十分復習し、本講義の意義を確認しながら食品加工学を学ぶ。	
	基礎栄養学	○	基礎栄養学では、まず栄養学概念を把握する。摂食行動、糖質・脂質・たんぱく質の消化と吸収及びエネルギー代謝、ビタミン・無機質と他の栄養素との関連を学習する。生化学で学習した栄養素の生化学的特性も加味して、栄養学の基礎知識を的確に習得する。	
	応用栄養学		栄養アセスメントが出来ることは栄養管理の基本となる。栄養アセスメントの意義・目的を理解し、健常者における栄養アセスメントの第1歩として食事摂取基準を学ぶ。これをふまえてのライフステージ別の栄養管理の理解となる。この講義では、国立機構病院での管理栄養士経験を有する教員が、母体、及び胎児期から成長期までの各ライフステージ（妊娠期・授乳期、乳児期、幼児期、学童期）における成長、発達に伴う生理機能の変化や栄養状態の変化などについて講義し、教室内での討議を組み込みながら学びを深めていく。	
	臨床栄養学		疾病の発症のメカニズム、疾病による人体の構造や代謝の変化、疾病の症状・合併症、疾病の診断方法、疾病の治療全般について学ぶ。疾病に対して栄養学的にどのように対応するのかを学ぶ。講義終了後のGoogleフォームでの小テストにおいて、解説も記載しており、反復学習を期待する。	
	公衆栄養学		公衆栄養学は、人間集団を観測対象とし、食べ物を主な要素とする栄養学である。ヒトの健康問題がどの因子に基づくものであるのか、その問題解決のためにはどのようにすべきかを解明して、疾病予防・健康増進を図るものである。日本人がかかえている疾病の多くは、栄養素の不適切な摂取が原因で起こる生活習慣病の乱れによるものが多いことから、栄養素の不適切な摂取が原因で起こる生活習慣病の乱れによるものが多いことから、取り巻く環境・社会・経済・文化的要因に関する情報を収集し・分析し、総合的に評価・判定する能力を養成する。また、地域公衆栄養活動を展開するうえでの理論と実際についても考察する。公衆栄養活動に長年にわたり携わっていた教員が法に基づき、国からの通知通達で事業を展開するために常にやっているPDCAサイクルに基づいた事業ができるようにするために、グループディスカッションを取り入れながら、課題の抽出、企画立案、実施・評価ができるようにする。	
	スポーツ栄養学		運動やスポーツを行う人々が必要とする栄養学の理論、知識、およびスキルを習得する。また、栄養補給や食生活管理など、食に関連する全領域における実践的マネジメント能力を育成する。この目的のために、学生はペアを組み、スポーツ時の栄養アセスメントにおいて最も重要な食事調査を実施し、またグループに分かれてスポーツ選手に適したメニューの作成にも取り組む。	
	微積分学基礎		本科目では、微積分学の基本概念と技術を習得し、数学的基礎を固めることを目指す。具体的には、関数の極限、連続性、微分法、積分法の基本公式と計算方法を中心に扱う。一変数関数の微分と積分の演習を通じて、学生の計算能力を強化し、基本的な関数の性質とグラフの理解を深める。この科目は、数学的思考能力と問題解決スキルを養い、微積分学の基礎を確実にするためのものである。	
	データサイエンスのための微積分学	○	この科目では、多変数関数の微分（偏微分、勾配、ヤコビアン、ヘッセ行列）・積分の基礎を学ぶ。また微分方程式の解法とそのデータ分析への応用も扱う。これらの数学的概念はデータサイエンスにおける実践的な応用で重要な役割を果たす。学生は、Pythonの数値計算ライブラリを利用して、問題を解く技術も習得する。	
線形代数基礎		本科目では、線形代数の基礎を学び、数学的な基本概念を習得する。具体的には、ベクトルと行列の定義、性質、演算方法を詳しく扱う。線形空間と線形変換の概念を理解し、これらが数学や他の科学分野でどのように応用されるかを学ぶ。また、線形方程式の解法とその理論的背景についても扱い、学生は具体的な問題を解く技術を習得する。この科目は、数学的な思考能力と基本的な線形代数の知識を養うことを目的としている。		
データサイエンスのための線形代数	○	本科目では、固有値の概念と計算法を深く学び、Pythonを活用してこれらを直感的に理解する。固有値と固有ベクトルの意義、特にデータサイエンスにおける応用例（例えば主成分分析など）を詳しく扱う。また、ユークリッド空間における距離、誤差、内積、二次形式といった概念を学び、これらがデータサイエンスにおいてどのように活用されるかを探求する。この科目は、数学的な理論を実際のデータ分析に応用するための技術と知識を学生に提供することを目的としている。		
確率統計学基礎		本科目では、単変量の確率分布、確率密度関数、平均、分散、メジアンとモードについて学ぶ。多変量の確率分布と確率密度関数、同時分布、条件付き分布、相関と独立性の概念も扱う。ベイズの定理の基本原則とその応用に重点を置き、確率的な推論の基礎を構築する。この科目は、学生が実世界のデータに対して確率論を応用し、統計的な分析を行うための基礎を提供することを目的としている。		
データサイエンスのための確率統計学	○	本科目では、統計学の基礎を学ぶ。まず統計学におけるデータの種類、中心傾向、分散性の尺度について扱う。データの可視化方法（ヒストグラム、箱ひげ図など）を学び、データを効果的に表現する技術を習得する。基本的な確率論の原則と簡単な確率モデルを紹介し、推測統計学の概念、特に標本と母集団、推定、仮説検定に焦点を当てる。相関係数の計算と単回帰分析の基本を学び、データの関係性を解析する。最終的に、データ収集の方法とデータの品質についても学ぶ。この科目は、学生が統計的な思考と分析スキルを養い、実世界のデータを解析する基礎を提供することを目的としている。		
データサイエンスのための応用数学	○	この科目では、最小二乗法と一般化逆行列、関数展開とフーリエ変換、特異値分解とPCAについて、これらの原理とその応用を理解し、実データに対する次元削減や構造解析の技術を習得する。また最適化法の基礎として、勾配法（最急降下法とニュートン法）についても学ぶ。この科目は、固有値を用いた応用数学の理解を深め、データサイエンスの問題解決に応用するための基礎を提供することを目的としている。		

専 門 教 育 科 目	プログラミング基礎	○	この科目では、プログラミング言語 (Python, Rなど) やデータベース言語 (SQLなど) の基本構文やアルゴリズム、データ構造の初歩を学ぶ。変数、ループ、条件分岐、関数などの基本的なプログラミング概念を理解し、簡単なプログラムの作成能力を養う。実践的な演習を通じて、プログラミングの基礎スキルを身に付ける。
	プログラミング演習	○	この科目では、Pythonプログラミングの基礎を学び、numpyライブラリを使ったデータ操作を実践する。まず、Pythonの基本的な構文、データ型、制御構造 (if文、for/whileループ)、関数の定義と利用方法を紹介する。次に、numpyライブラリの配列操作、基本的な統計計算、線形代数の操作などを扱う。また matplotlibによる簡単な描画も扱う。Google Colabを活用して、実際にコードを書き、実行し、結果を分析する演習を行う。この科目は、プログラミングの基本スキルを身につけ、データ分析のためのプログラミング能力を養うことを目的としている。
	情報ネットワーク	○	この科目は、コンピュータネットワークの基本原則と構造に焦点を当てる。TCP/IPプロトコル、ルーティング、スイッチング、ネットワークトポロジ、ネットワークセキュリティが主要なテーマである。ネットワーク技術の進化に伴う新たなトレンドや課題にも触れ、実際のネットワーク構築と管理の基本技術を理解する。
	データベース入門	○	この講義では、データベースの基礎から始め、データベースの作成、テーブルの定義、データの挿入、クエリの実行などの概念と操作を学ぶ。具体的にはPythonのSQLiteライブラリを用いる。さらにデータフレームの作成、データの読み込み、加工、基本的なデータ分析 (統計計算、データの可視化など) に進む。これらはPandasライブラリを用いる。講義の中で簡単な演習も行い、データベースとデータ分析のスキルを実践的に習得する。この講義は、データベースとデータ分析の基本を理解し、実際のデータに適用するための基礎を提供することを目的としている。
	センシングと信号処理		本科目では、センサー技術を用いたデータ計測の基本から始め、ノイズの理解と信号フィルタリング技術について学ぶ。フーリエ変換とウェーブレット変換の原理とその信号データへの応用に焦点を当てる。またPythonのSciPyライブラリを使用して、実際のセンサーデータの計測、ノイズ処理、信号のフィルタリング、周波数解析などの演習を行う。この講義は、センシング技術と信号処理の基本を理解し、実際のデータに適用するための基礎を提供することを目的としている。
	機械学習基礎		この講義では、まず教師あり学習の識別課題と回帰課題における代表的な線形および非線形手法を学ぶ。識別課題では、線形分類器から決定木、サポートベクターマシン等、回帰課題では線形回帰からランダムフォレスト等を扱う。教師なし学習では、クラスタリング (k-means、階層型クラスタリング等) と次元削減 (PCA、t-SNE等)、データの可視化に焦点を当てる。また講義全体を通して、オーバーフィッティングの回避、学習データとテストデータの分割の重要性についても詳しく説明する。
	機械学習演習		この演習では、教師あり学習の演習を行う。Pythonのscikit-learnライブラリを用いて、講義内容のアルゴリズムを行う。特に、それぞれの手法の長所や短所、学習データと検証データの必要性、オーバーフィッティングの回避と適切なハイパーパラメータ設定の重要性について学ぶ。
	データ解析基礎	○	データ解析の基礎講義では、探索的データ解析 (EDA) のプロセスと、その構成要素について学ぶ。 講義では、データの種類、特性、EDAのプロセス、要約統計、基本的な統計モデルとデータ分布に焦点を当てる。線形回帰、分類、クラスタリングの概念を紹介し、データから意味ある情報を抽出するための基本的なアプローチを学ぶ。これらを通してデータ駆動型の知識発見と意思決定の重要性を理解することを目的とする。
	データ解析演習	○	探索的データ解析 (EDA) のプロセスを、Pythonを用いて演習を行う。具体的には、データの読み込み、前処理、探索的データ分析、可視化を行い、numpy, SciPy, Pandas, matplotlib等を駆使してデータセットの要約統計の計算、グラフィカルなデータ表現、基本的なモデリング技術を実践する。実際のデータセットを用いて、データから有益な洞察を導き出す過程を体験する。
	ニューラルネット基礎	○	この科目では、ニューラルネットワークの基本原則について学ぶ。モデルニューロン、活性化関数、層構造の概念を学び、単純な2層ニューラルネットワークの構築と学習過程を修得する。またバックプロパゲーションと勾配降下法の基礎を紹介し、基本的なモデル評価とチューニング方法についても学ぶ。さらに畳み込みニューラルネットワーク等の深層学習の基本を理解する。
	ニューラルネット演習	○	この演習では、ニューラルネットワークの基本原則について演習する。TensorFlowやKerasなどの学習ライブラリを用いた実践的な演習を行う。畳み込みニューラルネットワーク (CNN) や再帰型ニューラルネットワーク (RNN) などのモデルを紹介し、実際のデータセットに適用する。データの前処理、モデルのトレーニング、評価方法を実践し、深層学習モデルの効果的な活用方法を学ぶ。
	マルチモーダルAI技術と応用		本科目では、AIと機械学習を活用して、画像、動画、音声、時系列データなどのマルチモーダルデータを解析する方法について学ぶ。具体的には、画像認識、顔認識、オブジェクト検出、動画解析、音声認識、時系列データ解析などの技術に触れる。現実世界でのAI応用事例やケーススタディを通じて、AIの社会的影響と可能性を理解し、実社会でのAI活用に向けた基礎を学習する。
	データ駆動型意思決定と可視化		本科目では、データモデリングと可視化の基本原則と手法、および対話的データ可視化 (ビジュアルアナリティクス) について学ぶ。また推薦システム、顧客プロフィールリング、意思決定支援システムなどの応用例を紹介し、これらを活用した実際のビジネスや社会的課題への応用方法を探究する。データに基づく意思決定の事例研究やケーススタディを分析し、データ駆動型の意思決定プロセスとその重要性を理解し、実践する能力を養う。
	食農健康データサイエンス	○	本科目は、食と健康、福祉、農業の各分野における現実の問題を取り上げ、データサイエンスの視点から課題を共有し、解決策を模索するケーススタディ科目である。これらの分野における具体的な問題を提示し、現場の声や悩みを共有した上で、収集すべきデータ、問題の本質の特定、有効な解決策の発見に向けたディスカッションを行う。実際のケーススタディを通じて、データ駆動型の問題解決アプローチを学び、実践的な知識と技能を養う。
先端AI論	○	「先端AI特論」では、IT産業で活躍する専門家を招き、最先端のAI開発とその応用に関する講演を聴く。この科目では、現場でのAIの最新動向、開発手法、応用事例に焦点を当て、学生が大学で学んだAI・機械学習の知識と最先端のAI技術との関連を理解する。現実世界のAIプロジェクトや業界の事例を通じて、理論と実践のギャップを埋め、最先端技術の応用可能性を探る。実際の産業界でのAIの利用事例と課題についてのディスカッションを通じて、学生は先端技術の実践的な知識と理解を深める。	

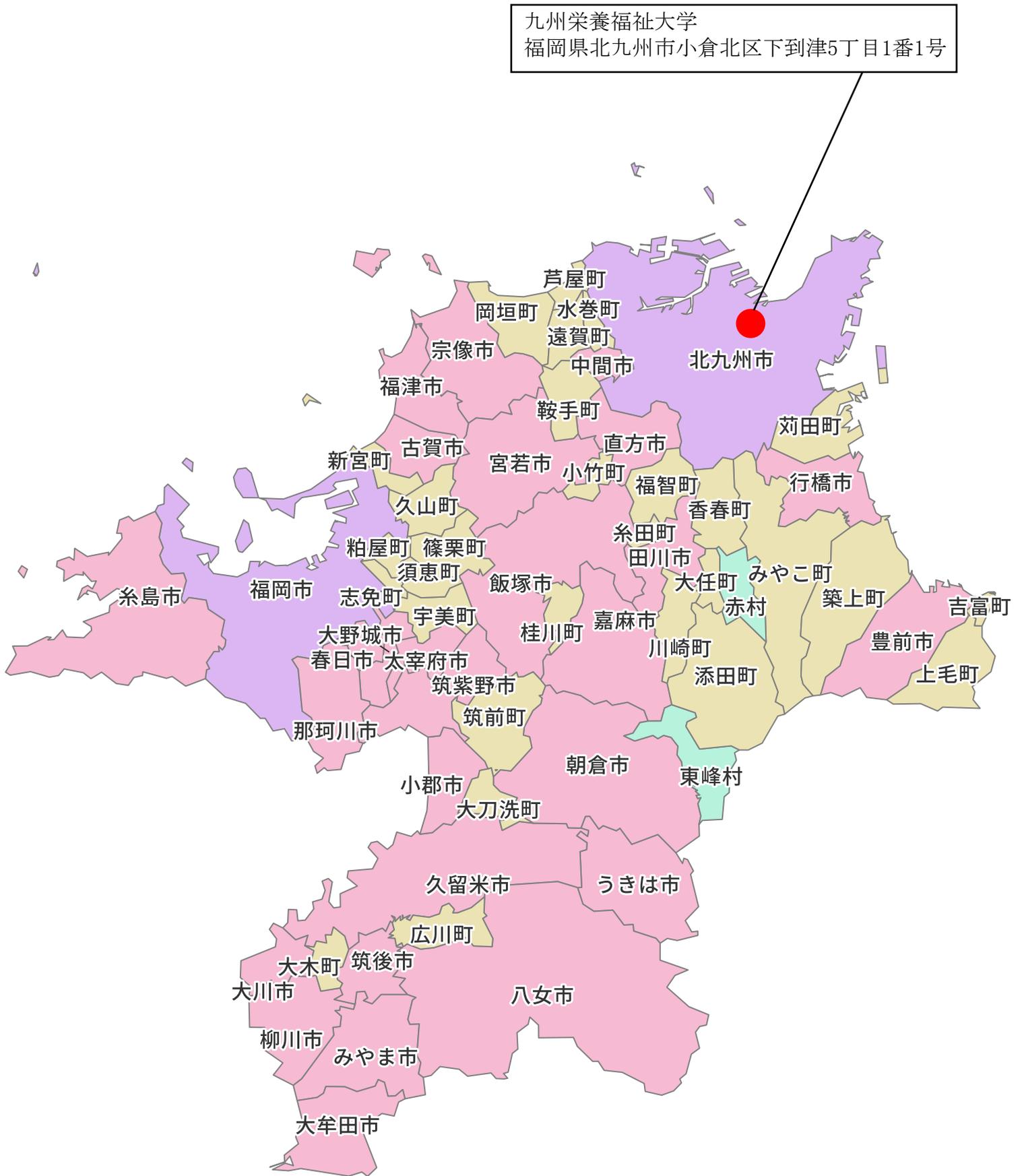
食 環 境 マ ネ ジ メ ン ト 科 目	フードウェルネスデータサイエンス	○	この講義は、基礎栄養学と公衆衛生の基礎知識を活用し、食品の機能データを統計的手法で深く解析する。食品の栄養成分と健康への影響をデータサイエンスから探求し、科学的根拠に基づいた健康な食生活の指針を学ぶ。学生は、食習慣と健康状態の関連性を理解し、食品選択の意思決定をデータに基づいて行えるようになることを目指す。また、実際の食品成分データを用いたケーススタディを通じて、データの収集、分析、解釈の実践的なスキルを獲得する。	
	バイオイノマトイクス	○	バイオイノマトイクスでは、食と環境の分野に特化したデータ解析を深く掘り下げる。生物学の基本的な知識に加えて、情報科学や統計学的手法を用いて、遺伝子情報やたんぱく質の配列情報の解析を行う。特に、分子軌道法やたんぱく質の構造モデリングのような先進的な手法を取り入れることで、食品安全性の評価や環境への影響をより詳細に分析し、持続可能な解決策を修得することを目指す。この講義を通じて、学生は食と環境の問題に対して、科学的かつ実践的なアプローチを学び、課題解決できる知識とスキルを身に付ける。	
	先端ロボティクス論		本科目では、ロボット産業の専門家を招き、ロボット開発の最先端技術やAIの応用について学ぶ。この科目では、ロボット工学の最新の研究動向、開発手法、およびAIとの融合による革新的な応用に焦点を当てる。産業用ロボット、サービスロボット、医療ロボットなど、様々な分野でのAI統合ロボティクスの事例を紹介し、ロボット技術とAIの相互作用について理解を深める。専門家の講演や現場事例の研究を通じて、理論と実践のギャップを埋め、最新技術の応用可能性を探る。実際の産業界でのロボット技術の利用事例と課題についての学習を通じて、学生は先端ロボティクスの実践的な知識と理解を深める。	
	マーケティングとデータサイエンス	○	「マーケティングとデータサイエンス」では、市場調査、顧客分析、顧客プロファイルリング、需要や供給の予測など、マーケティング分野におけるデータサイエンスの応用を学ぶ。データ駆動型の意思決定プロセス、顧客行動の理解、セグメント化、ターゲティング、位置づけ、マーケティングキャンペーンの効果測定などの重要なトピックを扱う。実際のマーケティングケーススタディを分析し、データサイエンスがマーケティング戦略や運用にどのように統合されるかを理解する。この科目は、実際のビジネス環境でデータサイエンスを活用して、効果的なマーケティング戦略を策定する能力を学生に提供することを目指す。	
	マネジメントとデータサイエンス	○	「マネジメントとデータサイエンス」では、ビジネスマネジメントにおけるデータサイエンスの活用とその重要性を深く掘り下げる。データ駆動型の意思決定、戦略策定、マーケティング戦略の基本原則を学び、現代のビジネス環境におけるデータサイエンスの役割を理解する。ビジネスプロセスの最適化、顧客行動分析、リスク管理など、実際のビジネスケースを分析し、データ分析を通じて洞察を得る方法を学ぶ。この科目は、学生がビジネスの現場でデータサイエンスを活用し、効果的なビジネス戦略を策定する能力を養うことを目指す。	
	人間とAI		「人間とAI」は、人間の認知と脳科学の視点からAIとの関係を探究する科目である。人間の知能と行動のメカニズムを理解することで、AIの発展と人間との相互作用を深く理解する。脳科学の基本原則、人間の認知機能、コミュニケーションのメカニズムを学び、これらがAI設計にどのように影響するかを探る。また、AIに関する誤解や恐怖心を克服し、人間にとって良きパートナーであるAIのあり方を考える。認知科学的AIの開発と、人間自身を深く知ることの重要性を重視し、AIと人間の共存を目指す未来を模索する。この科目は、学生がAIの理解を深め、その応用に関する広い視野を持つことを目的としている。	
	マーケティング論		現代の企業人、社会人にとってマーケティングの知識は欠かせない要件になっており、マーケティングの巧拙が企業の命運に大きく影響し、社会生活を左右している。そこで本講義では、マーケティングに関する意義や役割、基礎的な知識と技術を理解し、適切なマーケティング活動を計画的、合理的に行うための基礎を学習していく。	
	マーケティングリサーチ		マーケティング・リサーチは、ヒット商品の開発、消費者ニーズの探索・確認、既存の製品・ブランドの評価、好ましい新規事業の選定などの解決や意思決定のための具体的なマーケティング活動と密接に関わり、企業や組織にとってなくてはならない重要な要素となっている。そこで本講義では、そのための方法論、技術、理論的バックグラウンド、思考法などを学習していく。	
	流通システム論		現代社会において生産と消費の各活動をつなぐ重要な役割を果たすのが流通である。しかし、ただ流通活動が存在していればよいというわけでもない。流通がシステムとして機能することによって初めてより効果的で合理的な活動となる。そこで本講義では、基本的な流通システムの仕組みや役割を学習するとともに、具体的なデータや事例を用いながら解説することにより、流通システムの基礎知識を身につけていく。	
	消費者行動論		これまで消費行動については、社会学、心理学、マーケティングなど、様々な観点から研究されている。また、消費者行動は外部環境の影響を受けながら常に変化している。特に、2000年代以降のインターネットに関連する情報技術の発展は、消費者行動に多大な影響を及ぼしてきた。そこで本講義では、消費者行動の諸側面をとりあげ、事例を交えながらその体系的な理解を深め、マーケティング活動への応用のための基礎知識を身につけていく。	
サプライチェーンマネジメント学	○	農作物のサプライチェーンマネジメントについて学ぶ。サプライチェーンは、生産から消費までの一連のプロセスを指し、これには生産、収穫、加工、パッケージング、輸送、販売が含まれる。この講義では、これらの各ステップでの効率的な管理方法と、サプライチェーン全体の最適化について学ぶ。また、サプライチェーンの持続可能性と、気候変動への対応方法についても議論する。	オムニバス	
アグリビジネスマネジメント学	○	農業経営の基本的な概念と理論を学ぶ。農業の生産性、効率性、持続可能性を向上させるための戦略と技術を探求する。また、農業政策、市場動向、気候変動など、農業経営に影響を与える外部要因についても考察する。この講義を通じて、学生は農業経営の課題と可能性を理解し、実践的なスキルを習得する。理論と実践のバランスを取りながら、農業経営の成功に必要な知識と技術を深めていく。	オムニバス	
食環境地域連携演習		「食」を通じた北九州市の地域課題について、ボランティア活動、子ども食堂への参加を通して解決する演習である。地域活動を行い、北九州市の魅力アピールできるようにする。		
インターンシップ		この科目では、学生に実務経験を提供し、職場での実践的なスキルと知識を習得させる。学生は企業や組織での実際の業務に従事し、専門家から指導を受けながら専門分野に関する実践的なスキルを養う。また、職場での問題解決能力、コミュニケーションスキル、リーダーシップ力を向上させ、将来のキャリアに備える。インターンシップを通じて、現実の職場での実務経験を積むと同時に、職業的成長を支援する授業である。		
アントレプレナー論	○	新規事業立ち上げの全過程を学ぶ。市場調査から始め、競合分析、ターゲット顧客の特定、ビジネスモデルの開発、そして事業計画の作成までをカバーする。さらに、資金調達戦略、マーケティングと販売戦略、そして事業の運営と成長についても学ぶ。この講義を通じて、学生は理論的な知識だけでなく、実践的なスキルも身につけることができる。具体的な事例を通じて、新規事業立ち上げの成功と失敗について学び、自身のビジネスアイデアを形にするための具体的なステップを理解する。	オムニバス	

	アントレプレナー演習		新規事業立ち上げの実践的なスキルを磨く。学生は自身のビジネスアイデアを持ち込み、それを基に市場調査、競合分析、ターゲット顧客の特定、ビジネスモデルの開発、事業計画の作成を行う。また、資金調達戦略やマーケティングと販売戦略の策定も体験する。演習の最終的な目標は、自身のビジネスアイデアを具現化し、それをプレゼンテーションすることである。このプロセスを通じて、学生は新規事業立ち上げの具体的なステップを体験し、理論を実践に結びつけることができる。	オムニバス
卒業研究	データサイエンス基礎演習	○	「データサイエンス基礎演習」は、「データサイエンス実践演習」への準備として位置づけられている。データ駆動型の問題解決プロセスと基本的なAI・機械学習の概念を理解するための基盤を築く。これまでに学んだデータサイエンスの基本的な理論と技術を基に、データ収集、前処理、基本的な統計分析と可視化手法を用いて、実際のデータを使った小規模な分析プロジェクトを実施する。	
	データサイエンス実践演習	○	「データサイエンス実践演習」は、実際のデータと現実の問題を基にしたプロジェクトベース学習である。この科目は、実際のビジネスや社会問題に対するデータサイエンスの適用方法を実践的に学ぶための場を提供する。現場から提供される実データを用い、問題理解から解決策の提案、AIや機械学習の応用に至るまでのプロセスを経験する。グループワーク、ハッカソン、最終発表を通じて、実践的なデータサイエンスのスキルとチームワーク能力を養う。この科目は、学生が実世界の問題に対するデータ駆動型の解決策を見出し、提案する能力を培うことを目的としている。	
	卒業研究	○	「卒業論文」を履修する学生は、担当教員と研究テーマを決定し、卒業研究を実行する。卒業論文テーマに従って、文献・資料収集と共に実験方法および調査方法などを調べ、研究を実行する。研究成果は、卒業論文発表会で報告する。卒業研究をまとめ、卒業論文として提出する。	

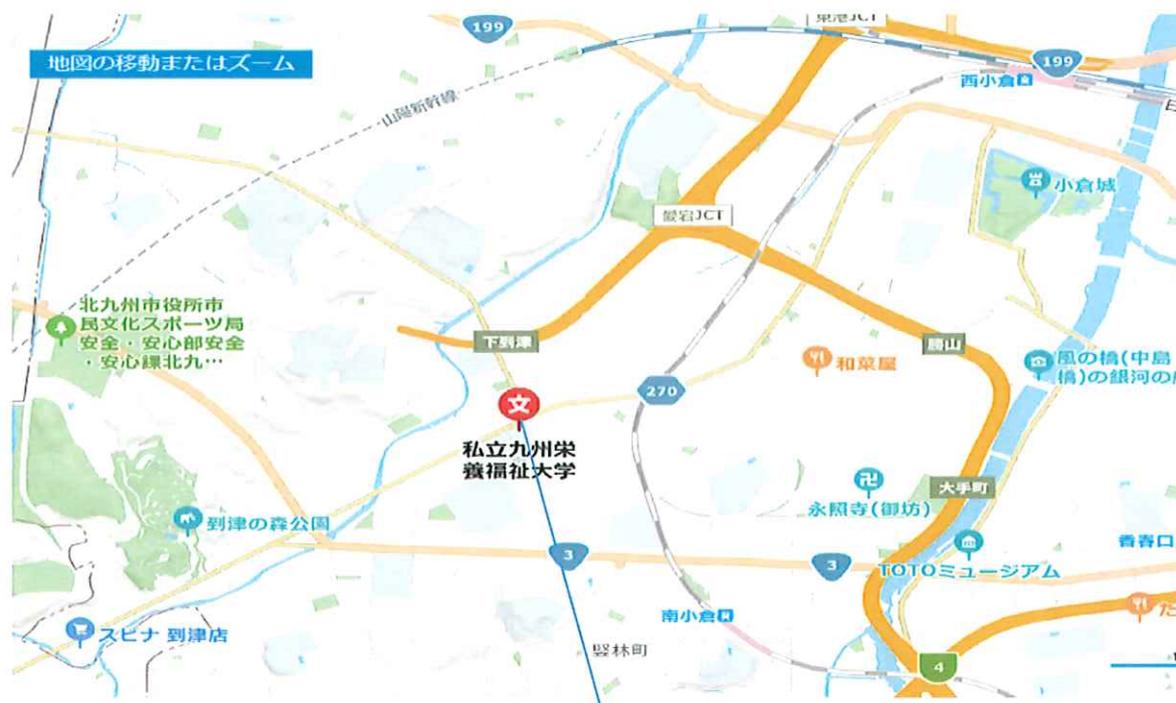
## 学校法人東筑紫学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
九州栄養福祉大学				九州栄養福祉大学				
食物栄養学部				食物栄養学部				
		3年次				3年次		
食物栄養学科	100	10	420	食物栄養学科	100	10	420	
				食環境データサイエンス学科	<u>50</u>	-	<u>200</u>	学科の設置(届出)
リハビリテーション学部				リハビリテーション学部				
理学療法学科	80	-	320	理学療法学科	80	-	320	
作業療法学科	40	-	160	作業療法学科	40	-	160	
				<u>こども教育学部</u>				学部の設置(認可申請)
				<u>こども教育学科</u>	<u>50</u>	-	<u>200</u>	
計				計				
	220	10	900		<u>320</u>	10	<u>1300</u>	
九州栄養福祉大学大学院				九州栄養福祉大学大学院				
健康科学研究科				健康科学研究科				
健康栄養学専攻	4	-	8	健康栄養学専攻	4	-	8	
計				計				
	4	-	8		4	-	8	
東筑紫短期大学				東筑紫短期大学				
保育学科	150	-	300	保育学科	<u>70</u>	-	<u>140</u>	定員変更(△80)
食物栄養学科	70	-	140	食物栄養学科	<u>50</u>	-	<u>100</u>	定員変更(△20)
専攻科 介護福祉専攻	30	-	30	専攻科 介護福祉専攻	30	-	30	
計				計				
	250	-	470		<u>150</u>	-	<u>270</u>	

都道府県における位置関係に関する図面



最寄り駅からの距離や公共交通機関がわかる地図



九州栄養福祉大学  
東筑紫短期大学

〒803-0846  
福岡県北九州市小倉北区下到津5丁目1番1号  
JR西小倉駅からバスで約12分  
JR南小倉駅から徒歩で約15分

# 小倉北区キャンパス配置図

- 食環境データサイエンス学科専用
- 共用

←至八幡

至小倉駅→



# 九州栄養福祉大学 学則（案）

## 第1章 総 則

（目 的）

第1条 九州栄養福祉大学（以下「本学」という。）は教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、建学の精神と教育理念に基づいて高等学校教育の基礎の上に広く知識を授けると共に人格の完成をはかり、専門知識技能を教授研究し人類社会の福祉に貢献する人材の養成を目的とする。

（自己点検・評価）

第2条 本学は、教育研究の水準の向上を図り、本学の教育目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 前項の点検及び評価を行うにあたっての項目の設定、実施体制等については別に定める。

## 第2章 学部、学科、修業年限及び入学定員、収容定員

（学部、学科、入学定員、収容定員）

第3条 本学において設置する学部、学科及びその入学定員、収容定員は次の通りとする。

学 部	学 科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
食 物 栄 養 学 部	食物栄養学科	100人	10人	420人
	食環境データサイエンス学科	50人	—	200人
リハビリテーション学 部	理学療法学科	80人	—	320人
	作業療法学科	40人	—	160人

（学部・学科の目的）

第4条 各学部・学科における人材養成並びに教育研究上の目的を以下の通り定める。

### 一 食物栄養学部

建学の精神に基づき、生命の源である食を通して福祉を実現するという使命感・方法意識のもと、実践的な食指導を行い、また食品の生産・流通を含む広範な食環境領域に対し大量のデータ収集・分析を行う専門家を養成し、「食の番人」として豊かな食生活と健康という観点から地域社会の持続的発展に寄与し得る人材を養成する。

#### (1) 食物栄養学科

本学教育への理解を基礎に、幅広い教養を涵養し、管理栄養士としての基本的知識・技術を修得させ、医療、介護、福祉、食品産業・流通分野などにおいて実践的な役割を果たし得る専門的知識・技術に長けた管理栄養士を養成する。

#### (2) 食環境データサイエンス学科

食品の生産・流通・医療・福祉・環境に関連する幅広い知識とこれらに関連する多量のデータ収集・分析能力を有し、食の課題について多角的にアプローチにより解決することのできるデータサイエンティストを養成する。

### 二 リハビリテーション学部

高度な医学的知識と技術を修得し、対象者の心身に寄り添いつつ的確なアプローチを行えることに加え、人々の健康で幸福な生活を守る健康生活の番人としての役割を果たせる理学療法士・作業療法士を養成する。

#### (1) 理学療法学科

人の動きやその機能を医学的に分析・考察しながら、運動を治療や指導の手段と

して活用する科学的な根拠をもとに、治療対象者一人ひとりに満足感を提供できる理学療法士を養成する。

(2) 作業療法学科

治療対象者のそばにいて、人との信頼関係を大切にしながら物理的・技術的・精神的な面において生活を支えることができる作業療法士を養成する。

(修業年限及び在学年限)

第5条 本学の修業年限は4年とする。

- 2 在学年限は8年を超えることはできない。但し、編入学、転入学又は再入学により入学した学生は、入学後の修業年数の2倍に相当する年限を超えて在学することができない。

### 第3章 教育課程

(開設授業科目及びその単位数)

第6条 本学において開設する授業科目及び単位数は別表第1の通りとする。

### 第4章 履修の方法、学修の評価、課程修了の認定及び卒業

(履修の方法)

第7条 履修の方法は次の通りとする。

- 一 卒業するためには4年以上在学し、必修単位を含めて124単位以上を修得しなければならない。
- 二 基礎教養科目は必修単位を含めて24単位以上修得しなければならない。

(履修する科目の登録及び上限)

第8条 学生は、当該年度において履修する授業科目を開講の始めに登録しなければならない。

- 2 学生は、前項により登録した授業科目以外の授業科目を履修し、また単位を修得することはできない。
- 3 各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数については、1年間または1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を別に定める。
- 4 所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることがある。

(単位修得の認定)

第9条 各授業科目に対する課程を修了した者には単位を与える。

第10条 単位修得の認定は試験、論文、その他の方法によるものとし、その方法については各授業科目の担当者が定める。

(試験等の時期)

第11条 試験は毎年2回とし、前期及び後期の終りに定期に行う。

但し、定期試験のほか随時に試験を行うことがある。

(再試験)

第12条 所定の単位を修得できない者に対しては再試験を行うことがある。

(追試験)

第13条 疾病、その他やむを得ない事由によって試験を受けることができなかった者に対して

は追試験を行うことがある。

(学修の評価)

第 14 条 試験の成績は、秀・優・良・可・不可で表し、秀・優・良・可を合格とする。

(試験に関する細則)

第 15 条 試験に関する細部の規定は別に定める。

(単位の計算方法)

第 16 条 各授業科目に対する単位数は次の基準により計算する。

- 一 講義については 15 時間の授業をもって 1 単位とする。
- 二 演習については 30 時間の授業をもって 1 単位とする。但し、当該授業の教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、15 時間の授業をもって 1 単位とすることができる。
- 三 実験・実習及び実技については 45 時間の授業をもって 1 単位とする。但し、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、30 時間の授業をもって 1 単位とすることができる。

(教育内容等の改善)

第 17 条 本学に授業内容及び方法の改善を図るための委員会を設け、研修及び研究を実施する。

- 2 前項の委員会については別に定める。

(卒業の条件)

第 18 条 本学を卒業するために必要な授業科目及び単位数は別表第 1 の通りとする。

(資格の取得)

第 19 条 栄養士法第 2 条第 1 項の規定に基づく栄養士の免許を受けようとする者は、食物栄養学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ栄養士法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

第 20 条 栄養士法第 5 条の 3 の規定に基づく管理栄養士国家試験の受験資格を得るためには、食物栄養学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ栄養士法施行令及び管理栄養士学校指定規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

- 2 食品衛生法第 30 条第 1 項の規定に基づく食品衛生監視員および第 48 条第 1 項並びに第 6 項の 3 の規定に基づく食品衛生管理者の任用資格を得るには、食物栄養学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ食品衛生法施行令及び食品衛生法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

第 21 条 食物栄養学部食物栄養学科において、教育職員免許法別表第 2 の 2 の規定に基づく栄養教諭一種免許状を得るためには前条の規定によるほか、教育職員免許法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

第 22 条 理学療法士及び作業療法士法第 11 条第 1 号の規定に基づく理学療法士国家試験の受験資格を得るためには、理学療法学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

第 23 条 理学療法士及び作業療法士法第 12 条第 1 号の規定に基づく作業療法士国家試験の受験資格を得るためには、作業療法学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に基づき本学が定めた科目及

び単位を修得しなければならない。

(卒業の認定及び学位の授与)

第 24 条 本学に 4 年以上在学し、第 18 条に定める単位を修得した者に対しては、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。

第 25 条 本学を卒業した者に対しては、次の区分に従い学士の学位を授与する。

食物栄養学部	食物栄養学科	学士（食物栄養学）
	食環境データサイエンス学科	学士（食環境データサイエンス）
リハビリテーション学部	理学療法学科	学士（理学療法学）
	作業療法学科	学士（作業療法学）

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第 26 条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

3 前 2 項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 27 条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、編入学及び転入学等の場合を除き、前条第 1 項により修得したものとみなした単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

3 前 2 項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 28 条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学生が入学する前の前条第 1 項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前 2 項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学及び転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて 60 単位を超えないものとする。

4 前 3 項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

## 第 5 章 入学、退学、休学、転学、復学

(入学の時期)

第 29 条 入学の時期は毎年学年の始めとする。

(入学の資格)

第 30 条 本学に入学し得る者は次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

一 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者

二 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）

三 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で

- 文部科学大臣の指定した者
- 四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
  - 五 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
  - 六 文部科学大臣の指定した者
  - 七 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験（旧規程による大学入学資格検定）に合格した者
  - 八 本学において個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で18歳に達した者

（入学の出願）

第31条 本学への入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。

（入学者の選考）

第32条 前条の入学志願者については入学試験により選考を行う。

第33条 入学試験に関する細則は別に定める。

（入学手続き及び入学許可）

第34条 第32条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の誓約書に入学金を添え指定の期日迄に提出しなければならない。入学の手続きを完了した者に入学を許可する。

- 2 理由なくして前項の手続きを怠った者は、入学を取り消すことがある。
- 3 納付した入学金は返還しない。

第35条 前条の誓約書に連署する保護者は親族又は縁故者で学生の在学中の一切の責任を負うものである。

（退学）

第36条 退学を願う者は、その理由を記して保護者連署をもって学長に願い出て許可を受けなければならない。

但し、疾病のため退学しようとする場合は医師の診断書を添付しなければならない。

（除籍）

第37条 次の各号の1に該当する者は除籍する。

- 一 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- 二 第5条に定める在学年限を超えた者
- 三 第40条第3項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- 四 長期にわたり行方不明の者

（復籍）

第38条 前条第1号により除籍となった者が、復籍を願い出た時は、教授会の議を経て復籍することができる。但し、未納の学費を納付しなければならない。

- 2 前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

（休学）

第39条 疾病その他やむを得ない事由により引き続き3ヶ月以上修学することのできない者は学長の許可を得て休学することができる。

- 2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命

ずることがある。

(休学の期間)

第40条 休学の期間は1年以内とする。但し、特別の事由のある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

- 2 休学期間は在学期間に算入しない。
- 3 休学期間は通算して4年を超えることができない。

(復学)

第41条 休学期間中に休学の事由がなくなった場合は学長の許可を得て復学することができる。

(再入学)

第42条 退学した者が、1年以内に再入学を願い出た時は、学年始めにおいて選考の上、原学年に入学許可することがある。

(転学)

第43条 学生が他の大学に転学または受験しようとするときは、学長の許可を得なければならない。

(転入学)

第44条 本学に転入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り選考の上、転入学を許可することがある。転入学を希望する者は現に在学する学長の承認書を提出しなければならない。

- 2 転入学の時期は学年の始めまたは、学期始めとし本人の既修の授業科目及び単位並びに在学年数については、その一部又は全部を本学において認定して今後履修すべき授業科目及び単位数並びに在学年数を決定する。

(編入学)

第45条 編入学を希望する者があるときは、選考の上教授会の議を経て、学長が入学を許可することがある。ただし、食物栄養学部食物栄養学科を除いては欠員が生じた場合に限る。

- 2 編入学の時期及び履修すべき授業科目、単位、在学年数については別に定める。

## 第6章 授業料その他の学費

(授業料その他の納付金)

第46条 入学検定料、入学金、授業料等は別表第2の通りとする。

- 2 授業料等は前・後期2期分納とする。但し、申出によってさらに分割納入を認めることがある。
- 3 編入学した者の授業料等については、編入した当該学年の授業料等の額とする。
- 4 東筑紫短期大学から編入した者の入学金については、編入学した当該学年の額を適用し、これを半額免除する。

(授業料その他の納付金の納入時期)

第47条 学生は所定の期日までに授業料等を納付しなければならない。

- 一 前期 4月1日から 4月20日まで
- 二 後期 10月1日から 10月20日まで

(復学等の場合の授業料)

第 48 条 前期又は後期中途において、復学又は入学した者は、復学又は入学した月の属する期の授業料等を復学又は入学した月に納付しなければならない。

(学年途中で卒業する場合の授業料)

第 49 条 学年の途中で卒業する見込みの者は卒業する見込みの月の属する期の授業料等を納付するものとする。

(休学の場合の授業料)

第 50 条 授業料等は休学の場合は免除する。但し、休学を許可され又は命ぜられた者については、休学の始まる前日及び休学の終わった翌日の属する期の学費は納付しなければならない。

(退学及び停学の場合の授業料)

第 51 条 前期又は後期中途で退学し又は除籍された者の該当期分の授業料等は徴収する。  
2 停学期間中の授業料等は徴収する。

(授業料その他の学費の不還付)

第 52 条 一旦納めた検定料、入学金及び授業料等はいかなる理由によるも返付しない。

(授業料等減免)

第 53 条 成績優秀な者であってやむを得ない事情により学資の支弁困難な者に対しては教授会の議を経て授業料等を免除あるいは貸与することがある。これらの場合に関する細部の規定はこれを別に定める。

(社会人及び外国人留学生等の授業料)

第 54 条 社会人、外国人留学生、研究生、委託生、科目等履修生、特別聴講学生の検定料及び授業料等については別に定める。

## 第 7 章 職 員 組 織

(職 員)

第 55 条 本学には学長、学長補佐、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及びその他の職員を置く。  
2 学長は、本学教育事業及び事務を総括主宰するとともに、すべての校務をつかさどり、所属の教職員を統督する。

(職員の職務)

第 56 条 職員の職務に関しては学校教育法その他法令の定めあるもののほか、別に定めるところによる。

## 第 8 章 教授会に関する事項

(教 授 会)

第 57 条 本学に教授会を置く。但し、学長が、必要と認めたときは、学部教授会を開くことができる。

(教授会の構成)

第 58 条 教授会は、学長、学長補佐及び当該学部にも所属する教授をもって組織する。  
2 教授会は、学長が必要と認めるときは、准教授、講師及び助教、その他専門性を有

する職員を加えて、第 61 条に規定する事項について、審議することができる。

(教授会の招集)

第 59 条 教授会は学長がこれを招集する。但し、学長にやむを得ざる支障ある場合は学長補佐がこれに代って招集することがある。

- 2 学長は教授会の構成員の 3 分の 2 以上から議題を示して要求があった場合には、要求のあった日から 7 日以内に教授会を招集しなければならない。
- 3 学長は教授会の議長となる。但し、学長にやむを得ざる支障ある場合は学長補佐が代行する。

(教授会の開催)

第 60 条 教授会は、構成員の 3 分の 2 以上の出席がなければ開催することはできない。

(審議事項)

第 61 条 教授会の審議すべき事項は次に掲げるものとする。

- 一 学位の授与
- 二 学則及びその他学内規則の制定・改廃に関する事項
- 三 教育課程及び授業に関する事項
- 四 入学試験に関する事項
- 五 学生の試験並びに課程修了に関する事項
- 六 学生の入学、成績考査及び卒業に関する事項
- 七 学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- 八 教員の教育研究及び教育研究業績の審査等に関する事項  
但し、資格審査に関する教育研究業績等の審査に関しては、「九州栄養福祉大学教員選考規程」に基づくものとする。
- 九 自己点検・評価に関する事項
- 2 教授会は前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(運営細則の委任)

第 62 条 その他教授会の運営に関し必要とする事項については、別に定める。

## 第 9 章 図書館その他附属施設

(図書館)

第 63 条 本学に図書館を設ける。図書館に関する規定は別に定める。

(附属研究所)

第 64 条 本学に附属研究所を設ける。附属研究所に関する規定は別に定める。

## 第 10 章 研究生、委託生、科目等履修生、特別聴講学生

(研究生)

第 65 条 本学を卒業した者又はこれと同等以上の学力を有する者で特に本学で研究を希望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

(科目等履修生)

第 66 条 本学の授業科目中特定の科目の履修を希望する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

- 2 前項で履修を許可された科目等履修生に対し単位を与えることができる。
- 3 科目等履修生に関して必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

- 第 67 条 本学において、他の大学又は短期大学との単位互換協定により前条の規定による学生の履修を許可する場合は特別聴講学生として取り扱う。
- 2 特別聴講学生に関して必要な事項は、別に定める。

(委託生)

- 第 68 条 公共団体その他の機関から本学の特定の授業科目につき学修を委託された者があるときは、選考の上、委託生として入学を許可することができる。
- 2 前項で履修を許可された委託生に対し単位を与えることができる。
  - 3 委託生に関して必要な事項は、別に定める。

## 第 11 章 外国人留学生

(外国人留学生)

- 第 69 条 外国人で本学に入学を志願する者に対しては、特別選考の上、入学を許可することができる。
- 2 外国人留学生に関して必要な事項は、別に定める。

## 第 12 章 学年、学期及び休業日並びに授業日数

(学年)

- 第 70 条 学年は 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

(学期)

- 第 71 条 学年は次の 2 学期に分ける。

前期	4 月 1 日より	9 月 20 日まで
後期	9 月 21 日より	3 月 31 日まで

(休業日)

- 第 72 条 休業日は次の通りとする。

日曜日・国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

本学創立記念日	3 月	3 日
春季休業	4 月	1 日から 4 月 5 日まで
夏季休業	8 月	13 日から 9 月 12 日まで
冬季休業	12 月	25 日から 翌年 1 月 7 日まで

- 2 学長は、必要がある場合は、前項の休業日を臨時に変更することができる。
- 3 学長は、第 1 項に規定するもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

(授業期間)

- 第 73 条 1 年間の授業期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

## 第13章 賞 罰

(表 彰)

第74条 学生として表彰に価する行為があった者に対しては、教授会の議を経て学長が表彰することができる。

(懲 戒)

第75条 本学の規則等に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

第76条 退学は次の各号の1に該当する者に対して行う。

- 一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 二 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- 三 正当の事由がなくて出席が常でない者
- 四 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

## 第14章 学 生 寮

(学 生 寮)

第77条 本学に学生寮を設ける。

第78条 学生寮には寮監その他の職員を置く。

第79条 学生寮に関する細部の規定は別に定める。

## 第15章 公 開 講 座

(公開講座)

第80条 学校教育法第107条に基づき、社会人の教養を高め、地域社会の文化の向上に資するため、本学に公開講座を開講することができる。

附 則

- 1 本学則は令和7年4月1日から之を施行する。
- 2 令和6年度以前の入学生については旧学則による。

別表第1

食物栄養学部 食物栄養学科

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
基	<b>本学教育への理解</b>				初年次教育含む
	建学の思想	2		2	
	キャリアガイダンスⅠ	2	2		
	キャリアガイダンスⅡ	2	2		
	食と哲学	2	2		
	倫理学	2	2		
	食と福祉	2		2	
	栄養士のための農園演習	1		1	
食環境地域連携演習	1		1		
礎	<b>人間と文化への理解</b>				
	文 学	2		2	
	文章校正と編集	2		2	
教	<b>人間と社会への理解</b>				
	日本国憲法	2		2	
	栄養士の法制度論	2		2	
	食と経済	2		2	
養	<b>人間と科学への理解</b>				
	基礎生物学	2		2	
	食物と薬	2		2	
	基礎化学	2		2	
	化 学	2	2		
	生命と科学	2		2	
	基礎統計学	2	2		
	コンピュータリテラシーⅠ	1		1	
コンピュータリテラシーⅡ	1		1		
目	<b>語学と国際社会への理解</b>				
	実用英語の基礎Ⅰ	1	2	2	
	実用英語の基礎Ⅱ	1			
	語学の理解	2			
	実用英語Ⅰ	1		1	
	実用英語Ⅱ	1		1	
	フランス語の基礎	1		1	
	料理とフランス語	1		1	
	中国語の基礎	1		1	

授 業 科 目		開 講 単 位 数	必 修 単 位 数	選 択 単 位 数	備 考
基礎 教養 科目	<b>語学と国際社会への理解</b>				
	料理と中国語	1		1	
	国際理解のための基礎英語	2		2	
	国際理解（海外研修）	2		2	
	<b>健康と運動への理解</b>				
	健康スポーツ科学Ⅰ	2	2		
健康スポーツ科学Ⅱ	2		2		
スポーツ栄養学	2		2		
基礎教養科目 24 単位以上必修					
専 門 教 育 科 目	<b>管理栄養士基本科目</b>				
	<b>社会・環境と健康</b>				
	健康管理概論	2		2	
	公衆衛生学Ⅰ	2	2		
	公衆衛生学Ⅱ	2		2	
	社会福祉論	2	2		
	<b>人体の構造と機能及び疾病の成り立ち</b>				
	解剖生理学Ⅰ	2	2		
	解剖生理学Ⅱ	2	2		
	生化学Ⅰ	2	2		
	生化学Ⅱ	2	2		
	病態生理学	2	2		
	疾病の成り立ちと病態	2	2		
	運動生理学	2	2		
	微生物学	2	2		
	生化学実験	1	1		
	解剖生理学実習	1	1		
	解剖生理学実験	1	1		
	<b>食べ物と健康</b>				
	食品学総論	2	2		
	食品衛生学	2	2		
	食品加工学	2	2		
	調理学	2	2		
食品学実験Ⅰ	1	1			
食品学実験Ⅱ	1	1			
食品加工学実習	1	1			
食品衛生学実験	1	1			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 教 育 科 目	専 門 分 野	<b>食べ物と健康</b>			
		調理学実習Ⅰ	1	1	
		調理学実習Ⅱ	1	1	
		調理学実習Ⅲ	1	1	
		<b>基礎栄養学</b>			
		基礎栄養学	2	2	
		基礎栄養学実験	1	1	
		<b>応用栄養学</b>			
		応用栄養学Ⅰ	2	2	
		応用栄養学Ⅱ	2	2	
		応用栄養学Ⅲ	2		2
		応用栄養学実習	1	1	
		<b>栄養教育論</b>			
		栄養教育論Ⅰ	2	2	
		栄養教育論Ⅱ	2	2	
		栄養教育論Ⅲ	2		2
		栄養教育論実習Ⅰ	1	1	
		栄養教育論実習Ⅱ	1	1	
		<b>臨床栄養学</b>			
		臨床栄養学Ⅰ	2	2	
		臨床栄養学Ⅱ	2	2	
		臨床栄養学Ⅲ	2		2
		食物とアレルギー	2	2	
		臨床栄養学実習Ⅰ	1	1	
		臨床栄養学実習Ⅱ	1	1	
		<b>公衆栄養学</b>			
		公衆栄養学Ⅰ	2	2	
		公衆栄養学Ⅱ	2	2	
		公衆栄養学実習	1	1	
		<b>給食経営管理論</b>			
給食管理	2	2			
給食経営管理論	2	2			
給食管理実習	1	1			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考	
専 門 分 野  専 門 基 礎 科 目  福 祉 分 野  実 践 栄 養 分 野  食 と 健 康 分 野	専 門 分 野	<b>総合演習</b>				
		食健康センター活動（演習）	1			1
		臨地実習指導（演習）	1			1
	専 門 分 野	<b>臨地実習</b>				
		臨地実習Ⅰ	2			2
		臨地実習Ⅱ	1			1
	専 門 分 野	臨地実習Ⅲ	1	1		
		<b>専門基礎科目</b>				
		栄養カウンセリング	2		2	
	専 門 分 野	栄養情報処理演習Ⅰ	1	1		
		栄養情報処理演習Ⅱ	1	1		
		食品学各論	2	2		
		食品基礎実験	1	1		
		有機化学	2	2		
	専 門 分 野	<b>福祉分野</b>				福祉施設
		栄養福祉論	2	2		
		社会福祉援助技術	2	2	7	
		高齢者心理学	2			
		育児と栄養	2			
		リハビリテーション概論	2			
	食事介助実習（学外）	1				
	専 門 分 野	<b>実践栄養分野</b>				
		料理特別実習Ⅰ	1	1	2	
		料理特別実習Ⅱ	1			
		料理特別実習Ⅲ	1			
		管理栄養士演習ⅠA	2	2		
		管理栄養士演習ⅠB	2	2		
管理栄養士演習Ⅱ		2		2		
運動処方論		2	2			
専 門 分 野	<b>食と健康分野</b>					
	食品機能論	2	2	8		
	栄養薬理学Ⅰ	2				
	栄養薬理学Ⅱ	2				
	栄養士のための薬膳	2				
細菌性食中毒学	2					

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 教 育 科 目	<b>食品産業・流通分野</b>				
	食品バイオテクノロジー	2		2	
	食卓デザイン論	2		2	
	食品の官能評価・鑑別演習	2		2	
	食品流通論	2		2	
	<b>卒 業 研 究</b>				
	キャリアデザイン	2	2		
	専門ゼミナール	2	2		
	卒業論文	2		2	
	専門教育科目 100 単位以上必修				
卒業単位 124 単位以上必修					
<b>教職に関する専門教育科目</b>					
児童・生徒の栄養指導Ⅰ	2		2		
児童・生徒の栄養指導Ⅱ	2		2		
教育原理	2		2		
教職概論	2		2		
教育制度論	1		1		
教育心理学	2		2		
特別支援教育概論	1		1		
教育課程論	1		1		
道徳教育の理論と方法	1		1		
総合的な学習と特別活動	1		1		
教育方法論	1		1		
生徒指導の理論と方法	2		2		
教育相談（カウンセリング含む）	2		2		
栄養教育実習	1		1		
栄養教育実習事前・事後指導	1		1		
教職実践演習（栄養教諭）	2		2		

食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
基 礎 教 養 科 目	<b>本学教育への理解</b>				初年次教育含む
	キャリアガイダンスⅠ	1	1		
	キャリアガイダンスⅡ	1	1		
	キャリアガイダンスⅢ	1	1		
	キャリアガイダンスⅣ	1	1		
	食環境データサイエンス概論	2	2		
	食環境イノベーションデザイン	2	2		
	農園演習	1		1	
	<b>人間と文化・社会・化学への理解</b>				
	食と経済	2		2	
	人間関係の心理	2		2	
	基礎生物学	2		2	
	基礎化学	2		2	
	化 学	2	2		
	リハビリテーション概論	2		2	
	コンピュータリテラシー	1	1		
	AI・データサイエンス入門	1	1		
	<b>語学と国際社会への理解</b>				
	実用英語の基礎Ⅰ	1	1		
	実用英語の基礎Ⅱ	1	1		
	実用英語	1		1	
	国際理解（海外研修）	1		1	
	<b>健康と運動への理解</b>				
	健康スポーツ科学Ⅰ	1	1		
健康スポーツ科学Ⅱ	1	1			
健康スポーツ科学Ⅲ	1		1		
健康スポーツ科学Ⅳ	1		1		
基礎教養科目 24 単位以上必修					

授 業 科 目		開 講 単 位 数	必 修 単 位 数	選 択 単 位 数	備 考	
専 門 教 育  科 目	食 と 健 康 科 目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち				
		解剖生理学	2			2
		生化学	2	2		
		疾病の成り立ちと病態	2			2
		運動生理学	2			2
		食品分子機能学	2	2		
		微生物学	2	2		
		食べ物と健康				
		食品学総論	2	2		
		食品衛生学	2	2		
		食品加工学				
		栄養学				
	基礎栄養学	2	2			
	応用栄養学	2		2		
	臨床栄養学	2		2		
	公衆栄養学	2		2		
	スポーツ栄養学	2		2		
	デ ー タ サイ エ ン ス 科 目	数学基礎科目				
		微積分学基礎	2	2		
		データサイエンスのための微積分学	2	2		
		線形代数基礎	2	2		
データサイエンスのための線形代数		2	2			
確率統計学基礎		2	2			
データサイエンスのための確率統計学		2	2			
データサイエンスのための応用数学		2	2			
コンピュータシステム科目						
プログラミング基礎		2		2		
プログラミング演習		1		1		
情報ネットワーク		2		2		
データベース入門		2		2		
センシングと信号処理		2	2			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 教 育  科 目	デ ー タ サイ エ ン ス 科 目	<b>データサイエンス基礎科目</b>			
		機械学習基礎	2	2	
		機械学習演習	1	1	
		データ解析基礎	2	2	
		データ解析演習	1	1	
		ニューラルネット基礎	2	2	
		ニューラルネット演習	1	1	
		<b>データサイエンス実践科目</b>			
		マルチモーダル AI 技術と応用	2		2
		データ駆動型意思決定と可視化	2		2
		食農健康データサイエンス	2	2	
		先端 AI 論	2	2	
		フードウェルネスデータサイエンス	2	2	
		バイオインフォマティクス	2	2	
		先端ロボティクス論	2	2	
		<b>社会とデータサイエンス</b>			
		マーケティングとデータサイエンス	2	2	
		マネジメントとデータサイエンス	2	2	
	人間と AI	2	2		
	<b>食環境マネジメント科目</b>				
	マーケティング論	2		2	
	マーケティングリサーチ	2		2	
	流通システム論	2		2	
	消費者行動論	2		2	
	サプライチェーンマネジメント学	2	2		
	アグリビジネスマネジメント学	2	2		
	食環境地域連携演習	1		1	
インターンシップ	1		1		
アントレプレナー論	2	2			
アントレプレナー演習	1	1			
<b>卒業研究</b>					
データサイエンス基礎演習	1	1			
データサイエンス実践演習	1	1			
卒業研究	8	8			
専門教育科目 100 単位以上必修					
卒業単位 124 単位以上必修					

リハビリテーション学部 理学療法学科

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
基礎 教養 科目 ／ 科学的 思考 の 基盤 ・ 人間 と 生活 ・ 社会 の 理解	<b>本学教育への理解</b>				初年次教育含む 初年次教育含む
	キャリア教育	2	2		
	スタートアップ教育Ⅰ	1	1		
	スタートアップ教育Ⅱ	1	1		
	健康と栄養	2	2	2	
	北九州市のノーマライゼーション	2			
	食と農園	1		1	
	<b>人間と文化・社会への理解</b>				4 4
	医療人のための教育学Ⅰ	2	2		
	社会福祉と地域ケア	2	2		
	医学倫理学	2	2		
	基礎心理学	2	4	4	
	医療人のための教育学Ⅱ	2			
	医療人のための哲学	2			
	医療人のための法学	2			
	<b>人間と科学への理解</b>				6
	基礎生物学	2	2	6	
	基礎物理学	2			
	基礎化学	2			
	医療人のための科学	2			
	情報処理演習Ⅰ	1	1		
	情報処理演習Ⅱ	1	1		
	健康スポーツ科学	1	1		
	<b>語学と国際社会への理解</b>				4
	実用英語の基礎Ⅰ	1	1		
	英会話Ⅰ	1	1		
	実用英語の基礎Ⅱ	1	1	4	
英会話Ⅱ	1				
フランス語の基礎	1				
中国語の基礎	1				
韓国語の基礎	1				
基礎教養科目 24 単位以上必修					

授 業 科 目		開 講 単 位 数	必 修 単 位 数	選 択 単 位 数	備 考	
専 門 基 礎 科 目	<b>人体の構造と機能及び心身の発達</b>					
	解剖学Ⅰ	2	2			
	解剖学Ⅱ	2	2			
	生理学Ⅰ	2	2			
	生理学Ⅱ	2	2			
	解剖生理学総合実習	1	1			
	運動学Ⅰ	2	2			
	運動学Ⅱ	2	2			
	人間発達学	2	2			
	<b>疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進</b>					
	病理学	2	2			
	臨床心理学	2	2			
	小児科学	2	2			
	内科学	2	2			
	整形外科	2	2			
	神経内科学	2	2			
	精神医学Ⅰ	2	2			
	臨床医学とリハビリテーション	2	2			
	リハビリテーション栄養学	2	2			
	<b>保健医療福祉とリハビリテーションの理念</b>					
	リハビリテーション概論	2	2			
	地域保健学	2	2			
	臨床統計	1	1			
	<b>基礎理学療法学</b>					
	理学療法学概論	2	2			
	理学療法ゼミナールⅠ	1	1		初年次教育含む	
	理学療法ゼミナールⅡ	1	1			
	理学療法ゼミナールⅢ	1	1			
理学療法基礎演習	1	1	2			
理学療法総合研究	2					
理学療法研究法演習	1	1				
<b>理学療法管理学</b>						
理学療法管理学	2	2				

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 科 目	<b>理学療法評価学</b>				
	理学療法評価学Ⅰ	2	2		
	理学療法評価学Ⅱ	1	1		
	理学療法評価学Ⅲ	1	1		
	理学療法評価学統合演習Ⅰ	1	1		
	理学療法評価学統合演習Ⅱ	1	1		
	動作分析演習Ⅰ	1	1		
	動作分析演習Ⅱ	1	1		
	<b>理学療法治療学</b>				
	運動療法学概論	2	2		
	運動療法学演習	1	1		
	物理療法Ⅰ	1	1		
	物理療法Ⅱ	1	1		
	義肢装具学	2	2		
	高次脳機能理学療法	1	1		
	中枢神経疾患理学療法Ⅰ	1	1		
	骨・関節疾患理学療法Ⅰ	1	1		
	神経・筋疾患理学療法	1	1		
	内部疾患理学療法Ⅰ	1	1		
	小児理学療法Ⅰ	1	1		
	義肢装具学演習	1	1		
	中枢神経疾患理学療法Ⅱ	1	1		
	骨・関節疾患理学療法Ⅱ	1	1		
	内部疾患理学療法Ⅱ	1	1		
	小児理学療法Ⅱ	1	1		
	日常生活活動演習	1	1		
	理学療法総合演習Ⅰ	1	1		
	理学療法総合演習Ⅱ	1	1		
	高齢期理学療法学	2	2		
	スポーツ系理学療法	1	2	3	
	パラスポーツ	1			
	先端医療と理学療法	1			
	性差医療と理学療法	1			
予防理学療法	1				
<b>地域理学療法学</b>					
生活環境論	2	2			
地域理学療法学	2	2			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 科 目	<b>臨床実習</b>				
	臨床実習Ⅰ	1	1		
	臨床実習Ⅱ	4	4		
	臨床実習Ⅲ	7	7		
	臨床実習Ⅳ	7	7		
	臨床実習Ⅴ	1	1		
専門教育科目 104 単位以上必修					
卒業単位 128 単位以上必修					
<b>資格取得に関する科目</b>					
	園芸概論	2		2	
	園芸療法の基礎	2		2	
	園芸療法実習	2		2	
	ガーデニング	1		1	

リハビリテーション学部 作業療法学科

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
基礎 教養 科目 ／ 科学的 思考の 基盤・ 人間と 生活・ 社会の 理解	<b>本学教育への理解</b>				初年次教育含む 初年次教育含む
	初年次教育含むキャリア教育	2	2		
	スタートアップ教育Ⅰ	1	1		
	スタートアップ教育Ⅱ	1	1		
	健康と栄養	2	2	2	
	北九州市のノーマライゼーション	2			
	食と農園	1		1	
	<b>人間と文化・社会への理解</b>				4 4
	医療人のための教育学Ⅰ	2	2		
	社会福祉と地域ケア	2	2		
	医学倫理学	2	2		
	基礎心理学	2	4	4	
	医療人のための教育学Ⅱ	2			
	医療人のための哲学	2			
	医療人のための法学	2			
	<b>人間と科学への理解</b>				6
	基礎生物学	2	2	6	
	基礎物理学	2			
	基礎化学	2			
	医療人のための科学	2			
	情報処理演習Ⅰ	1	1		
	情報処理演習Ⅱ	1	1		
	健康スポーツ科学	1	1		
	<b>語学と国際社会への理解</b>				4
実用英語の基礎Ⅰ	1	1			
英会話Ⅰ	1	1			
実用英語の基礎Ⅱ	1	1	4		
英会話Ⅱ	1				
フランス語の基礎	1				
中国語の基礎	1				
韓国語の基礎	1				
基礎教養科目 24 単位以上必修					

授 業 科 目		開 講 単 位 数	必 修 単 位 数	選 択 単 位 数	備 考
専 門 基 礎 科 目	<b>人体の構造と機能及び心身の発達</b>				
	解剖学Ⅰ	2	2		
	解剖学Ⅱ	2	2		
	生理学Ⅰ	2	2		
	生理学Ⅱ	2	2		
	解剖生理学総合実習	1	1		
	運動学Ⅰ	2	2		
	運動学Ⅱ	2	2		
	人間発達学	2	2		
	<b>疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進</b>				
	病理学	2	2		
	臨床心理学	2	2		
	小児科学	2	2		
	内科学	2	2		
	整形外科学	2	2		
	神経内科学	2	2		
	精神医学Ⅰ	2	2		
	精神医学Ⅱ	2	2		
	臨床医学とリハビリテーション	2	2		
	リハビリテーション栄養学	2	2		
	<b>保健医療福祉とリハビリテーションの理念</b>				
	リハビリテーション概論	2	2		
	地域保健学	2	2		
	臨床統計	1	1		
	<b>作業療法治療学</b>				
	運動器疾患作業療法学	2	2		
	中枢神経疾患作業療法学	2	2		
	内部疾患作業療法学	2	2		
	精神疾患作業療法学Ⅰ	2	2		
	精神疾患作業療法学Ⅱ	2	2		
	発達期作業療法演習Ⅰ	1	1		
	発達期作業療法演習Ⅱ	1	1		
	義肢装具学	2	2		
高次脳機能作業療法演習	1	1			
高齢期作業療法演習	1	1			
日常生活活動支援	1	1			
生活支援工学	2	2			
作業療法研究法	1	1			
臨床作業療法演習	1	1			
作業療法基礎演習	1	1			
作業療法専門演習	1	1			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考	
専 門 科 目	<b>基礎作業療法学</b>				初年次教育含む	
	作業療法学概論	2	2			
	基礎作業演習Ⅰ	1	1			
	基礎作業演習Ⅱ	1	1			
	基礎作業実習	1	1			
	作業療法ゼミナールⅠ	1	1			
	作業療法ゼミナールⅡ	1	1			
	<b>作業療法管理学</b>					
	作業療法管理学	2	2			
	<b>作業療法評価学</b>					
	作業療法評価学	2	2			
	身体機能作業療法評価演習Ⅰ	1	1			
	身体機能作業療法評価演習Ⅱ	1	1			
	精神機能作業療法評価演習	1	1			
	高次脳機能作業療法評価演習	1	1			
	発達期作業療法評価演習	1	1			
	生活機能評価	1	1			
	手の機能と ICT	1	1	6		
	地域精神保健作業療法演習	1				
	認知症ケア支援	1				
	パラスポーツ	1				
	福祉住環境演習	1				
	作業療法総合研究	2				
	<b>地域作業療法学</b>					
	地域作業療法学	2	2			
	地域マネジメント演習	1	1			
	職業関連支援	1	1			
<b>臨床実習</b>						
臨床実習Ⅰ	2	2				
臨床実習Ⅱ	4	4				
臨床実習Ⅲ	8	8				
臨床実習Ⅳ	8	8				
臨床実習Ⅴ	1	1				
専門教育科目 108 単位以上必修						
卒業単位 132 単位以上必修						
<b>資格取得に関する科目</b>						
園芸概論	2		2			
園芸療法の基礎	2		2			
園芸療法実習	2		2			
ガーデニング	1		1			

別表第2 検定料、入学金、授業料、施設費等（単位：円）

1. 検定料

検定料	30,000	出願時に納付
検定料（大学入学共通テスト利用入学試験）	15,000	出願時に納付

2. 授業料等

学部	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
食物栄養学部 食物栄養学科	入学金	230,000				入学合格時に納付
	授業料	680,000	680,000	680,000	680,000	前、後期二期分納
	施設設備資金	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	教育充実費	160,000	160,000	160,000	160,000	前、後期二期分納
	実験実習料	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	計	1,270,000	1,040,000	1,040,000	1,040,000	

学部	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
サイエンス学部 食物栄養学部 食環境データ	入学金	230,000				入学合格時に納付
	授業料	960,000	960,000	960,000	960,000	前、後期二期分納
	教育充実費	160,000	160,000	160,000	160,000	前、後期二期分納
	施設設備資金	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	計	1,450,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	

学部	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
リハビリテーション学部	入学金	230,000				入学合格時に納付
	授業料	960,000	960,000	960,000	960,000	前、後期二期分納
	教育充実費	160,000	160,000	160,000	160,000	前、後期二期分納
	施設設備資金	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	計	1,450,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	

## 学則変更の事由及び時期について

### 1. 変更内容

- 新学科設置に係る定員変更
- 新学科設置に係る学則見直しに伴う変更
- 新学科設置に係る教育課程の追加及び変更  
(学則第6条別表の一部変更)

### 2. 変更理由

学科設置並びに教育課程充実・整理のため

### 3. 変更の時期

令和7年 4月 1日

## 令和7年度 学則変更新旧対照表

(新)

— 略 —

### 第2章 学部、学科、修業年限及び入学定員、収容定員

(学部、学科、入学定員、収容定員)

第3条 本学において設置する学部、学科及びその入学定員、収容定員は次の通りとする。

学部	学 科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
食物栄養学部	食物栄養学科	100人	10人	420人
	食環境データサイエンス学科	50人	—	200人
リハビリテーション学部	理学療法学科	80人	—	320人
	作業療法学科	40人	—	160人

(学部・学科の目的)

第4条 各学部・学科における人材養成並びに教育研究上の目的を以下の通り定める。

#### 一 食物栄養学部

建学の精神に基づき、生命の源である食を通して福祉を実現するという使命感・方法意識のもと、実践的な食指導を行い、また食品の生産・流通を含む広範な食環境領域に対し大量のデータ収集・分析を行う専門家を養成し、「食の番人」として豊かな食生活と健康という観点から地域社会の持続的発展に寄与し得る人材を養成する。

#### (1) 食物栄養学科

本学教育への理解を基礎に、幅広い教養を涵養し、管理栄養士としての基本的知識・技術を修得させ、医療、介護、医

(旧)

— 略 —

### 第2章 学部、学科、修業年限及び入学定員、収容定員

(学部、学科、入学定員、収容定員)

第3条 本学において設置する学部、学科及びその入学定員、収容定員は次の通りとする。

学部	学 科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
食物栄養学部	食物栄養学科	100人	10人	420人
新設				
リハビリテーション学部	理学療法学科	80人	—	320人
	作業療法学科	40人	—	160人

(学部・学科の目的)

第4条 各学部・学科における人材養成並びに教育研究上の目的を以下の通り定める。

#### 一 食物栄養学部

建学の精神と教育理念に基づいて、食を通して福祉を実現するという方法意識・使命感のもとに食指導・食療法という学問に裏付けされた専門的方法を修得し、食生活の番人としての役割を果たせる管理栄養士を養成する。

#### (1) 食物栄養学科

本学教育への理解を基礎に、幅広い教養を涵養し、管理栄養士としての基本的知識・技術を修得させ、医

(新)

療、福祉、食品産業・流通分野などにおいて実践的な役割を果たし得る専門的知識・技術に長けた管理栄養士を養成する。

(2) 食環境データサイエンス学科

食品の生産・流通・医療・福祉・環境に関する幅広い知識とこれらに関連する多量のデータ収集・分析能力を有し、食の課題について多角的なアプローチにより解決することのできるデータサイエンティストを養成する。

— 略 —

**第3章 教育課程**

(開設授業科目及びその単位数)

第6条 本学において開設する授業科目及び単位数は別表第1の通りとする。

**第4章 履修の方法、学修の評価、課程修了の認定及び卒業**

— 略 —

第21条 食物栄養学部食物栄養学科において、教育職員免許法別表第2の2の規定に基づく栄養教諭一種免許状を得るためには前条の規定によるほか、教育職員免許法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

— 略 —

第25条 本学を卒業した者に対しては、次の区分に従い学士の学位を授与する。従い学士の学位を授与する。

- 食物栄養学部 食物栄養学科  
                  学士（食物栄養学）
- 食環境データサイエンス学科  
                  学士（食環境データサイエンス）
- リハビリテーション学部 理学療法学科  
                                  学士（理学療法学）
- 作業療法学科  
                                  学士（作業療法学）

(旧)

療、介護、福祉、食品産業・流通分野などにおいて実践的な役割を果たし得る専門的知識・技術に長けた人材を養成する。

新設

— 略 —

**第3章 教育課程**

(開設授業科目及びその単位数)

第6条 本学において開設する授業科目及び単位数は別表第1及び第2の通りとする。

**第4章 履修の方法、学修の評価、課程修了の認定及び卒業**

— 略 —

第21条 教育職員免許法別表第二の二の規定に基づく栄養教諭一種免許状を得るためには前条の規定によるほか、教育職員免許法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

— 略 —

第25条 本学を卒業した者に対しては、次の区分に従い学士の学位を授与する。従い学士の学位を授与する。

- 食物栄養学部 食物栄養学科  
                  学士（食物栄養学）
- 新設
- リハビリテーション学部 理学療法学科  
                                  学士（理学療法学）
- 作業療法学科  
                                  学士（作業療法学）

(新)

— 略 —

(編入学)

第45条 編入学を希望する者があるときは、選考の上教授会の議を経て、学長が入学を許可することがある。ただし、食物栄養学部食物栄養学科を除いては欠員が生じた場合に限る。

- 2 編入学の時期及び履修すべき授業科目、単位、在学 年数については別に定める。

## 第6章 授業料その他の学費

(授業料その他の納付金)

第46条 入学検定料、入学金、授業料等は別表第2の通りとする。

— 略 —

附 則

- 1 本学則は令和7年4月1日から之を施行する。
- 2 令和6年度以前の入学生については旧学則による。

(旧)

— 略 —

(編入学)

第45条 栄養士養成施設において栄養士資格を取得した者で本学に編入学を希望する者があるときは、選考の上3年次に編入学を許可することがある。

- 2 編入学の時期及び履修すべき授業科目、単位、在学年数については別に定める。

## 第6章 授業料その他の学費

(授業料その他の納付金)

第46条 入学検定料、入学金、授業料等は別表第3の通りとする。

— 略 —

附 則

- 1 本学則は令和6年4月1日から之を施行する。
- 2 令和5年度以前の入学生については旧学則による。

(新)

別表第1

食物栄養学部 食物栄養学科

— 略 —

授 業 科 目		開講 単位 数	必 修 単 位 数	選 択 単 位 数	備 考
基 礎 教 養 科 目	<b>本学教育への理解</b>				初年 次教 育含 む
	建学の思想	2		2	
	キャリアガイダンスⅠ	2	2		
	キャリアガイダンスⅡ	2	2		
	食と哲学	2	2		
	倫理学	2	2		
	食と福祉	2		2	
	栄養士のための農園演習	1		1	
	食環境地域連携演習	1		1	
	— (略) —				
	<b>健康と運動への理解</b>				
	健康スポーツ科学Ⅰ	2	2		
	健康スポーツ科学Ⅱ	2		2	
スポーツ栄養学	2		2		
基礎教養科目 24 単位以上必修					

— 略 —

(旧)

別表第1

食物栄養学部 食物栄養学科

— 略 —

授 業 科 目		開講 単位 数	必 修 単 位 数	選 択 単 位 数	備 考
基 礎 教 養 科 目	<b>本学教育への理解</b>				初年 次教 育含 む
	建学の思想	2		2	
	キャリアガイダンスⅠ	2	2		
	キャリアガイダンスⅡ	2	2		
	食と哲学	2	2		
	倫理学	2	2		
	食と福祉	2		2	
	栄養士のための農園演習	1		1	
	新設				
	— (略) —				
	<b>健康と運動への理解</b>				
	健康スポーツ科学Ⅰ	2	2		
	健康スポーツ科学Ⅱ	2		2	
スポーツ栄養学	2		2		
基礎教養科目 24 単位以上必修					

— 略 —

(新)

— 略 —

授 業 科 目		開講 単位 数	必修 単位 数	選択 単位 数	備 考	
専 門 教 育 科 目	<b>実践栄養分野</b>					
	料理特別実習Ⅰ	1	1	2		
	料理特別実習Ⅱ	1				
	料理特別実習Ⅲ	1				
	管理栄養士演習ⅠA	2	2			
	管理栄養士演習ⅠB	2	2			
	管理栄養士演習Ⅱ	2		2		
	運動処方論	2	2			
	— (略) —					
	<b>卒業研究</b>					
キャリアデザイン	2	2				
専門ゼミナール	2	2				
卒業論文	2		2			
専門教育科目 100 単位以上必修						
卒業単位 124 単位以上必修						
<b>教職に関する専門教育科目</b>					備 考	
児童・生徒の栄養指導Ⅰ	2		2			
児童・生徒の栄養指導Ⅱ	2		2			
教育原理	2		2			
教職概論	2		2			
教育制度論	1		1			
教育心理学	2		2			
特別支援教育概論	1		1			
教育課程論	1		1			
道徳教育の理論と方法	1		1			
総合的な学習と特別活動	1		1			
教育方法論	1		1			
生徒指導の理論と方法	2		2			
教育相談 (カウンセリング含む)	2		2			
栄養教育実習	1		1			
栄養教育実習事前・事後指導	1		1			
教職実践演習 (栄養教諭)	2		2			

(旧)

— 略 —

授 業 科 目		開講 単位 数	必修 単位 数	選択 単位 数	備 考	
専 門 教 育 科 目	<b>実践栄養分野</b>					
	料理特別実習Ⅰ	1	1	2		
	料理特別実習Ⅱ	1				
	料理特別実習Ⅲ	1				
	管理栄養士演習Ⅰ	4	4			
	新設 (単位分割)					
	管理栄養士演習Ⅱ	2		2		
	運動処方論	2	2			
	— (略) —					
	<b>卒業研究</b>					
キャリアデザイン	2	2				
専門ゼミナール	2	2				
卒業論文	2		2			
専門教育科目 100 単位以上必修						
卒業単位 124 単位以上必修						

移設

(新)

(旧)

## 食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

新設

授 業 科 目		開講 単位 数	必修 単位 数	選択 単位 数	備 考
基 礎 教 養 科 目	<b>本学教育への理解</b>				
	キャリアガイダンスⅠ	1	1		初年次教育含む
	キャリアガイダンスⅡ	1	1		
	キャリアガイダンスⅢ	1	1		
	キャリアガイダンスⅣ	1	1		
	食環境データサイエンス概論	2	2		
	食環境イノベーションデザイン	2	2		
	農園演習	1		1	
	<b>人間と文化・社会・化学への理解</b>				
	食と経済	2		2	
	人間関係の心理	2		2	
	基礎生物学	2		2	
	基礎化学	2		2	
	化 学	2	2		
	リハビリテーション概論	2		2	
	コンピュータリテラシー	1	1		
	AI・データサイエンス入門	1	1		
	<b>語学と国際社会への理解</b>				
	実用英語の基礎Ⅰ	1	1		
	実用英語の基礎Ⅱ	1	1		
	実用英語	1		1	
	国際理解(海外研修)	2		2	
	<b>健康と運動への理解</b>				
	健康スポーツ科学Ⅰ	1	1		
	健康スポーツ科学Ⅱ	1	1		
	健康スポーツ科学Ⅲ	1		1	
	健康スポーツ科学Ⅳ	1		1	
	基礎教養科目 24 単位以上必修				

(新)

(旧)

授 業 科 目		開講 単位 数	必修 単位 数	選択 単位 数	備 考
専 門 教 育 科 目	食と健康科目	<b>人体の構造と機能及び疾病の成り立ち</b>			
		解剖生理学	2		2
		生化学	2	2	
		疾病の成り立ちと病態	2		2
		運動生理学	2		2
		食品分子機能学	2	2	
		微生物学	2	2	
		<b>食べ物と健康</b>			
		食品学総論	2	2	
		食品衛生学	2	2	
		食品加工学	2	2	
		<b>栄養学</b>			
		基礎栄養学	2	2	
		応用栄養学	2		2
		臨床栄養学	2		2
		公衆栄養学	2		2
	スポーツ栄養学	2		2	
	データサイエンス科目	<b>数学基礎科目</b>			
		微積分学基礎	2	2	
		データサイエンスのための微積分学	2	2	
		線形代数基礎	2	2	
		データサイエンスのための線形代数	2	2	
		確率統計学基礎	2	2	
		データサイエンスのための確率統計学	2	2	
		データサイエンスのための応用数学	2	2	
		<b>コンピュータシステム科目</b>			
		プログラミング基礎	2	2	
		プログラミング演習	1	1	
		情報ネットワーク	2	2	
		データベース入門	2	2	
		センシングと信号処理	2	2	

新設

(新)

(旧)

授 業 科 目		開講 単位 数	必修 単位 数	選択 単位 数	備 考	
専 門 教 育 科 目	データサイエンス科目	<b>データサイエンス基礎科目</b>				
		機械学習基礎	2	2		
		機械学習演習	1	1		
		データ解析基礎	2	2		
		データ解析演習	1	1		
		ニューラルネットワーク基礎	2	2		
		ニューラルネットワーク演習	1	1		
		<b>データサイエンス実践科目</b>				
		マルチモーダルAI技術と応用	2		2	
		データ駆動型意思決定と可視化	2		2	
		食農健康データサイエンス	2	2		
		先端AI論	2	2		
		フードウェルネスデータサイエンス	2	2		
		バイオインフォマティクス	2	2		
		先端ロボティクス論	2	2		
		<b>社会とデータサイエンス</b>				
		マーケティングとデータサイエンス	2	2		
		マネジメントとデータサイエンス	2	2		
	人間とAI	2	2			
	<b>食環境マネジメント科目</b>					
	マーケティング論	2		2		
	マーケティングリサーチ	2		2		
	流通システム論	2		2		
	消費者行動論	2		2		
	サプライチェーンマネジメント学	2	2			
	アグリビジネスマネジメント学	2	2			
	食環境地域連携演習	1		1		
	インターンシップ	1		1		
	アントレプレナー論	2	2			
	アントレプレナー演習	1	1			
	<b>卒業研究</b>					
	データサイエンス基礎演習	1	1			
	データサイエンス実践演習	1	1			
卒業研究	8	8				
専門教育科目 100 単位以上必修						
卒業単位 124 単位以上必修						

新設

(新)

## リハビリテーション学部 理学療法学科

— 略 —

授 業 科 目	開講 単位 数	必修 単位 数	選択 単位 数	備 考
スポーツ系理学療法	1	2	3	
パラスポーツ	1			
先端医療と理学療法	1			
性差医療と理学療法	1			
予防理学療法	1			
<b>地域理学療法</b>				
生活環境論	2	2		
地域理学療法	2	2		
<b>臨床実習</b>				
臨床実習Ⅰ	1	1		
臨床実習Ⅱ	4	4		
臨床実習Ⅲ	7	7		
臨床実習Ⅳ	7	7		
臨床実習Ⅴ	1	1		
専門教育科目 104 単位以上必修				
卒業単位 128 単位以上必修				
<b>資格取得に関する科目</b>				
園芸概論	<u>2</u>		<u>2</u>	
園芸療法の基礎	<u>2</u>		<u>2</u>	
園芸療法実習	<u>2</u>		<u>2</u>	
ガーデニング	<u>1</u>		<u>1</u>	

(旧)

## リハビリテーション学部 理学療法学科

— 略 —

授 業 科 目	開講 単位 数	必修 単位 数	選択 単位 数	備 考
スポーツ系理学療法	1	2	3	
パラスポーツ	1			
先端医療と理学療法	1			
性差医療と理学療法	1			
予防理学療法	1			
<b>地域理学療法</b>				
生活環境論	2	2		
地域理学療法	2	2		
<b>臨床実習</b>				
臨床実習Ⅰ	1	1		
臨床実習Ⅱ	4	4		
臨床実習Ⅲ	7	7		
臨床実習Ⅳ	7	7		
臨床実習Ⅴ	1	1		
専門教育科目 104 単位以上必修				
卒業単位 128 単位以上必修				

移設

(新)

## リハビリテーション学部 作業療法学科

— 略 —

授 業 科 目	開講 単位 数	必修 単位 数	選択 単位 数	備 考
手の機能と ICT	1	1	6	
地域精神保健作業療法演習	1			
認知症ケア支援	1			
パラスポーツ	1			
福祉住環境演習	1			
作業療法総合研究	2			
<b>地域作業療法学</b>				
地域作業療法学	2	2		
地域マネジメント演習	1	1		
職業関連支援	1	1		
<b>臨床実習</b>				
臨床実習Ⅰ	2	2		
臨床実習Ⅱ	4	4		
臨床実習Ⅲ	8	8		
臨床実習Ⅳ	8	8		
臨床実習Ⅴ	1	1		
専門教育科目 108 単位以上必修				
卒業単位 132 単位以上必修				
<b>資格取得に関する科目</b>				
園芸概論	2		2	
園芸療法の基礎	2		2	
園芸療法実習	2		2	
ガーデニング	1		1	

(旧)

## リハビリテーション学部 作業療法学科

— 略 —

授 業 科 目	開講 単位 数	必修 単位 数	選択 単位 数	備 考
手の機能と ICT	1	1	6	
地域精神保健作業療法演習	1			
認知症ケア支援	1			
パラスポーツ	1			
福祉住環境演習	1			
作業療法総合研究	2			
<b>地域作業療法学</b>				
地域作業療法学	2	2		
地域マネジメント演習	1	1		
職業関連支援	1	1		
<b>臨床実習</b>				
臨床実習Ⅰ	2	2		
臨床実習Ⅱ	4	4		
臨床実習Ⅲ	8	8		
臨床実習Ⅳ	8	8		
臨床実習Ⅴ	1	1		
専門教育科目 108 単位以上必修				
卒業単位 132 単位以上必修				

移設

移設

(新)

(旧)

別表第 2 - 1 教職に関する専門教育科目

授 業 科 目	開講 単位 数	必修 単位 数	選択 単位 数	備 考
児童・生徒の栄養指導Ⅰ	2		2	
児童・生徒の栄養指導Ⅱ	2		2	
教育原理	2		2	
教職概論	2		2	
教育制度論	1		1	
教育心理学	2		2	
特別支援教育概論	1		1	
教育課程論	1		1	
道德教育の理論と方法	1		1	
総合的な学習と特別活動	1		1	
教育方法論	1		1	
生徒指導の理論と方法	2		2	
教育相談 (カウンセリング含む)	2		2	
栄養教育実習	1		1	
栄養教育実習事前・事後指導	1		1	
教職実践演習 (栄養教諭)	2		2	

別表第 2 - 2 資格取得に関する科目

授 業 科 目	開講 単位 数	必修 単位 数	選択 単位 数	備 考
園芸概論	2		2	
園芸療法の基礎	2		2	
園芸療法実習	2		2	
ガーデニング	1		1	

(新)

別表第2 検定料、入学金、授業料、施設費等 (単位：円)

— 略 —

2. 授業料等

— 略 —

学部	区分	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	備 考
食物栄養学部食環境データサイエンス学科	入学金	2 3 0, 0 0 0 0				入学合格時に納付
	授業料	9 6 0, 0 0 0 0	9 6 0, 0 0 0 0	9 6 0, 0 0 0 0	9 6 0, 0 0 0 0	前、後期二期分納
	教育充実費	1 6 0, 0 0 0 0	1 6 0, 0 0 0 0	1 6 0, 0 0 0 0	1 6 0, 0 0 0 0	前、後期二期分納
	施設設備資金	1 0 0, 0 0 0 0	1 0 0, 0 0 0 0	1 0 0, 0 0 0 0	1 0 0, 0 0 0 0	前、後期二期分納
	計	1, 4 5 0, 0 0 0 0	1, 2 2 0, 0 0 0 0	1, 2 2 0, 0 0 0 0	1, 2 2 0, 0 0 0 0	

(旧)

別表第3 検定料、入学金、授業料、施設費等 (単位：円)

— 略 —

2. 授業料等

— 略 —

新設

## 九州栄養福祉大学教授会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、九州栄養福祉大学学則第57条の規定に基づき、教授会の組織及び運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 九州栄養福祉大学に教授会を置く。教授会は学長、学長補佐及び当該学部に所属する教授をもって組織する。

2 教授会は、学長が必要と認めるときは、准教授、講師及び助教、その他の専門性を有する職員を加えて、「拡大教授会」とし、本規程第3条に規定する事項について審議することができる。

(審議事項等)

第3条 教授会は次に掲げる教育研究に関する事項を審議する。尚、教授会は次の事項に関して、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

一 学位の授与

二 学則及びその他学内規則の制定・改廃に関する事項

三 教育課程及び授業に関する事項

四 入学試験に関する事項

五 学生の試験並びに課程修了に関する事項

六 学生の入学、成績考査及び卒業に関する事項

七 学生の厚生補導及び賞罰に関する事項

八 教員の教育研究及び教育研究業績等の審査に関する事項

但し、資格審査に関する教育研究業績等の審査に関しては、「九州栄養福祉大学教員選考規程」に基づくものとする。

九 自己点検・評価に関する事項

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(教授会の招集)

第4条 教授会は学長がこれを招集する。ただし学長にやむを得ざる支障ある場合は、学長補佐がこれに代わって招集することがある。

2 学長は教授会の構成員の3分の2以上から議題を示して要求があった場合には、要求のあった日から7日以内に教授会を招集しなければならない。

3 学長は教授会の議長となる。ただし学長にやむを得ざる支障ある場合は、学長補佐が代行する。

(議事)

第5条 教授会は構成員の3分の2以上の出席がなければ開催することは出来ない。

2 教授会の議事は、出席者の過半数が決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(開会日)

第6条 教授会は原則として毎月第4月曜日に開会する。

(委員会など)

第7条 教授会に設ける委員会は、常置の委員会と随時に特設する委員会の二種類とする。

2 委員会に関する規程は別に定める。

(事務)

第8条 教授会の事務は、教務課において処理する。

附 則

(施行期日)

この規程は平成13年4月1日から施行する。

附 則

この改正規程は平成19年4月1日から施行する。

附 則

この改正規程は平成27年4月1日から施行する。

附 則

この改正規程は平成29年4月1日から施行する。

九州栄養福祉大学  
食物栄養学部食環境データサイエンス学科

設置の趣旨等を記載した書類

目次

①設置の趣旨及び必要性.....	2
②学部・学科等の特色.....	5
③学部・学科等の名称及び学位の名称.....	5
④教育課程の編成の考え方及び特色.....	6
⑤教育方法、履修指導方法及び卒業要件.....	11
⑥編入学定員を設定する場合の具体的計画.....	14
⑦企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画.....	15
⑧取得可能な資格.....	16
⑨入学者選抜の概要.....	16
⑩教員研究実施組織等の編制の考え方及び特色.....	21
⑪研究実施についての考え方、体制、取組.....	22
⑫施設、設備等の整備計画.....	22
⑬管理運営.....	24
⑭自己点検・評価.....	26
⑮情報の公表.....	27
⑯教育内容等の改善を図るための組織的な研修等.....	29
⑰社会的・職業的自立に関する指導等及び体制.....	29

## ①設置の趣旨及び必要性

### (1) 学校法人東筑紫学園及び九州栄養福祉大学の沿革と現状

本学園は昭和 11 年宇城信五郎・力子夫妻が設立した筑紫洋裁女学院に端を発する学校法人東筑紫学園を母体とする。同学園は実学に重きをおく建学の精神「筑紫の心」を掲げ、昭和 22 年東筑紫女子中学校設立、同 23 年東筑紫高等学校設立、同 25 年東筑紫短期大学被服科を設立、同 26 年東筑紫幼稚園を設立、同 29 年 4 月保育科（現・保育学科）、同 33 年 4 月栄養科（現・食物栄養学科）を設置、平成 13 年九州栄養福祉大学食物栄養学部設立、同 14 年専攻科介護福祉専攻設置、同 17 年大学院修士課程設立（現・健康科学研究科）、同 23 年リハビリテーション学部設置、同 29 年認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園設置、現在に至っている。

本学科の母体となる九州栄養福祉大学（食物栄養学部・管理栄養士養成課程）は、平成 13 年 4 月、当時の環境問題、食生活の多様化、増大する生活習慣病、深刻化する高齢化社会、女性の社会進出などを背景に、「食」を通して福祉（幸福）を実現するという方法意識のもと東筑紫短期大学食物栄養学科を一部改組して開学した。とくに学園設立以来建学の精神としてきた生活実学の思想を重んじ、地域生活者の健康・長寿を守る「食生活の番人」養成としての教育課程のみならず、課程内外での人格教育を重視し、人格・実践力ともに秀でた管理栄養士の輩出に注力してきた。平成 17 年 4 月、九州栄養福祉大学大学院食物栄養学研究科を開学、管理栄養士養成課程を修了した学生がさらに食と健康について高度な知識と研究手法を学ぶ環境を整えた。

平成 23 年 4 月、同大学に九州リハビリテーション大学校を基盤にしてリハビリテーション学部（理学療法学科、作業療法学科）を開設、引き続き建学の精神に則り「リハビリ」を通して地域生活者の健康生活、福祉を実現するという目的を掲げ、人格・実践力ともに優れた理学・作業療法士を育成してきた。

現在の九州栄養福祉大学は、食物栄養学部食物栄養学科、リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科、大学院健康科学研究科（平成 24 年 4 月名称変更）の計 4 科を有している。これらを含めた学校法人全体の概要並びに九州栄養福祉大学の組織は【資料①-1】の通りである。

### (2) 食環境データサイエンス学科の設置の必要性

#### 1. 社会的背景

医療技術の進歩によって、「人生 100 年時代」と呼ばれる現代では、単に寿命を延ばすだけでなく、より長い期間、健康的で自分らしく生活できることが求められるようになってきた。さらに、昨今の第 4 次産業革命や Society5.0 と称される革新的デジタル社会の世界的進展を背景に、多様な分野でビッグデータを活用するデータサイエンス人材の育成が我が国の喫緊の課題となっている。内閣府の「統合イノベーション戦略 2023」に沿って、産

学官連携による教育体制強化の必要性が認識されており、食環境におけるデータサイエンスの重要性も注目されている。これには、AI と機械学習を活用した課題解決への取り組みが含まれ、持続可能な食環境の実現に向けて、農業、食品製造、流通、健康といった分野でのデータ分析の重要性が高まっている。例えば、農業分野においては、気候変動や土壌の状態を考慮した作物の栽培方法の最適化といった精密農業（スマート農業）への転換が求められている。食品製造分野では、生産プロセスの効率化や品質管理の強化が、流通分野では、需要予測や廃棄物削減のためのデータ利活用が重要視されている。さらに、健康分野では、食事データと健康状態との相関分析を通じて、個々の栄養改善に寄与できると期待されている。

## 2. 食環境データサイエンス学科の教育上の目的

上記のような社会的需要に応えるために、九州栄養福祉大学食物栄養学部食環境データサイエンス学科は、本学の建学の精神「勇気・親和・愛・知性」を基に、AI・データサイエンスを地域社会や人類の福祉のために活用するという信念を有し、食環境・健康分野の深い専門知識と AI・データサイエンスのスキルを合わせ持つことにより、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を実現する持続可能な社会に貢献するグローバル人材を育成することを教育上の目的とする。基礎から応用に至るまでの AI・データサイエンス技術の修得、食環境問題に対する深い洞察、実践的な問題解決能力の育成、倫理的・社会的責任感の高い専門家の養成に重点を置き、異なる分野の知識を統合して新たな視点から問題にアプローチできる人材を育成する。そのために、食料や食品の生産・流通、医療・福祉、環境への影響に関連する広範なデータを収集・分析し、科学的根拠に基づいた社会の持続可能な発展に寄与するデータ駆動型の専門家を養成するための教育研究を行う。

上記教育目的を達成するために、以下のような、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、このディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得するために、授業科目を基礎教養科目と専門教育科目に区分し、それぞれの科目内容が有機的に連動し、段階的・体系的に学修できるようカリキュラムを編成している【資料①-2】。

### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学科では、本学の建学の精神を理解し、卒業時に次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与します。

1. 子供から高齢者までの豊かな食生活と健康を支え、持続可能な社会の実現に貢献しようという使命感を有する。
2. 食環境・健康分野の AI・データサイエンスに関連する専門知識と技能を修得し、多様なデータの収集・分析能力、科学的合理性に基づく判断能力を有する。
3. 食環境・健康に関する現実の課題を理解し、AI・データサイエンス技術を用いて実践的な解決策を提案する能力を有する。
4. 新しいアイデアやアプローチを通じて、食環境・健康分野におけるイノベーションを推進し、科学技術と社会の架け橋となる能力を有する。
5. 社会からの信頼に応えるために、卒業後も継続的な学習と自己研鑽に努める姿勢を有する。

### 3. 地域特性と本学に食環境データサイエンス学科を設置する理由

本学が所在する北九州市は、学術研究都市の整備や国家戦略特区（地方創生特区第 2 弾）の指定など、知的基盤が整備されており、同市内にある国公立大学における本学科と同系統学科の入試倍率は、いずれも 3～5 倍と高い倍率を維持している。このことから、食環境データサイエンス学科に対する受験生の期待は、非常に高いものと推察される。「学生確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類」に記載しているように、令和 6 年 1 月下旬から 2 月中旬に既設学部に入学者実績がある高校で 2 時間以内に通学できる高校を選択し、現 2 年生を対象に、本学科への入学志望に関するアンケート調査を行ったところ、年度末の忙しい時期に行ったアンケート調査に関わらず、定員の 1.5 倍程度の受験者が予測できる結果となった。実際には、今回アンケート調査を行った近隣の高校以外の広範囲の高校からの入学志望も少なからず見込めるので、定員 50 人の学生確保は十分に可能と考えられる。

さらに、本学科による人材育成と研究開発に対する地元企業の期待は大きく、10 社以上の企業と産学連携協定を締結し、実習の受入のみならず、具体的な社会課題解決のための共同研究、講師派遣など、強固な連携体制を構築し、就職にも繋げていく予定である。したがって、本学科の設置は、社会的な人材需要の見通しを十分に踏まえたものとなっている。

### (3) 組織として研究対象とする中心的な学問分野

食環境データサイエンス学科では、食環境・健康分野において、AI・データサイエンスを地域社会や人類の福祉のために活用する応用研究を中心に進めていく。食料や食品の生産・流通、医療・福祉、環境への影響に関連する広範なビッグデータを収集・分析し、課題発見

とその解決に向けた研究に取り組む。そのために、すでに公開された統計データと共に、民間企業や自治体、公的施設等と連携して、ビジネスや地域経済、社会福祉に直結するデータを収集・分析し、実践的な応用研究を推進していく。

## ②学部・学科等の特色

本学科の教育上の特色は、本学部の食環境と健康分野の教育実績を基に、地元工学系大学のデジタル教育研究者、日本を代表する DX 推進企業および 10 社以上の地元企業と協力連携し、AI・データサイエンスの基礎から社会実装までの能力を養う体系的教育組織とプログラムを構築することにある。先に述べたように、本学はこれらの企業と産学連携協定を締結し、実習の受入のみならず、具体的な社会課題解決のための共同研究、基幹教員や非常勤講師派遣など、強固な連携体制を構築し、就職にも繋げていく予定である。

新たに新設される食環境データサイエンス学科専用で使用される北区キャンパス 5 号館（6 階建て）では、様々な授業形態・授業規模に対応する教室とアクティブラーニング型授業を実現するための機器・備品等を備えている。各講義室・演習室にはプロジェクター、スクリーン、電子黒板、AV 設備を整備しビジュアルな講義や高速通信による遠隔講義にも対応している。

この学科棟には、DX 推進企業のサテライトオフィスを設け、学内でのインターンシップや学生によるアルバイトを可能とする点は特筆すべきことである。

さらに、大学の沿革と現状で記載したように、現在、九州栄養福祉大学は、幼稚園から中学校、高等学校、短期大学、大学、大学院までを擁する学校法人東筑紫学園に所属している。これまで、本学と短期大学では、建学の精神「勇気・親和・愛・知性」を基に、食物栄養、リハビリテーション、保育そして介護の分野で、学部学科の枠を越えた学内連携による教育研究が行われ、地域社会を支える多数のスペシャリストを輩出してきた（平成 16 年度から令和 5 年度、本学卒業生 3312 名）【資料②-1】。この実績は本学の強みであり、本学科は、人生のあらゆるステージにおいて人々が健康的生活を送ることができる、これからの未来社会に求められるグローバルな人材を輩出するにふさわしい人的環境といえる。

## ③学部・学科等の名称及び学位の名称

### (1) 学部・学科名称及び学位の標記

食物栄養学部	Faculty of Food and Nutrition
食環境データサイエンス学科	Department of Food Environment Data Science
学士（食環境データサイエンス）	Bachelor of Food Environment Data Science

### (2) 学部・学科名称の理由

食物栄養学部（Faculty of Food and Nutrition）は、本学の沿革で述べたように、平成 13

年 4 月、当時の環境問題、食生活の多様化、増大する生活習慣病、深刻化する高齢化社会などを背景に、「食」を通して福祉（幸福）を実現するという方法意識のもと、食物栄養学科（管理栄養士課程）1 学科を有する学部として開学したものである。この学部内に新設する本学科は、食料や食品の生産・流通、医療・福祉、環境への影響等の食環境分野において、広範なビッグデータを収集・分析し、課題発見とその解決に向けた教育研究に取り組む。したがって、統計学や機械学習などの手法を用いてデータの収集・分析や解析を行うデータサイエンスを、食環境分野に応用するという学科の理念を端的に表す名称として、「食環境データサイエンス学科」とし、専攻分野の名称を附記する学位を「学士（食環境データサイエンス）」とする。また、データサイエンスの英文表記が **Data Science** であり、食環境の概念を表す英文表記として、**Food Environment** が通常、使用されている。したがって、国際的な通用性を確保する観点から、本学科の英語名称、学位の英語名称を、それぞれ「Department of Food Environment Data Science」、「Bachelor of Food Environment Data Science」とする。

#### ④教育課程の編成の考え方及び特色

##### (1) 教育課程編成・実施の方針

食環境データサイエンス学科の教育課程は、大学の教育理念及びディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいて編成される。

カリキュラム・ポリシーは、既設の食物栄養学部食物栄養学科で培われてきた教育内容に加え、食環境データサイエンス学科の特色を打ち出した内容となっている。

##### 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得するために、授業科目を基礎教養科目と専門教育科目に区分し、それぞれの科目内容が有機的に連動し、段階的・体系的に学修できるようカリキュラムを編成します。

1.	建学の精神にある「勇気、親和、愛、知性」の調和のとれた人間性を目指し、教科教育のみならず、多様な行事教育を取り入れる。
2.	基礎教養科目では、本学教育への理解を基礎に、幅広い教養を涵養し、専門科目の履修に向けた基礎的知識・技術の修得に必要な科目を配置する。
3.	食と健康科目では、食と健康に関する専門的な知識と技術の修得に必要な科目を配置する。
4.	データサイエンス科目では、食環境・健康に関するデータサイエンスの専門家としての知識及び技術の体系的な修得に必要な科目を配置する。
5.	食環境マネジメント科目では、産業界との連携による実践的な経験を重視し、現実の課題に対する実践的な解決策を提案できる能力に必要な科目を

配置する。
-------

教育課程における具体的な科目区分及び科目構成は以下のとおりである。

#### ○基礎教養科目

本学教育への理解を基礎に、幅広い教養を涵養し、専門科目の履修に向けた基礎的知識・技術の修得に必要な科目を、「本学教育への理解」「人間と文化・社会・科学への理解」「語学と国際社会への理解」「健康と運動への理解」の4科目群に分け、1年次を中心に1～2年次で開講する。

必修科目（下線付き科目）は、本学科が育成を目指す「食環境・健康分野の深い専門知識とAI・データサイエンスのスキルを合わせ持つグローバル人材」に求められる基礎的能力の修得に必要な科目を中心に設定している。

- 本学教育への理解
  - 1年前期：「キャリアガイダンスⅠ」「食環境データサイエンス概論」
  - 1年後期：「キャリアガイダンスⅡ」「食環境イノベーションデザイン」
  - 1年通年：「農園演習」
  - 2年前期：「キャリアガイダンスⅢ」
  - 2年後期：「キャリアガイダンスⅣ」
- 人間と文化・社会・科学への理解
  - 1年前期：「食と経済」「基礎生物学」「基礎化学」「コンピュータリテラシー」
  - 1年後期：「化学」「AI・データサイエンス入門」
  - 2年前期：「人間関係の心理」「リハビリテーション概論」
- 語学と国際社会への理解
  - 1年前期：「実用英語の基礎Ⅰ」
  - 1年後期：「実用英語の基礎Ⅱ」
  - 2年前期：「実用英語」「国際理解（海外研修）」
  - 2年後期：「国際理解（海外研修）」
- 健康と運動への理解
  - 1年前期：「健康スポーツ科学Ⅰ」
  - 1年後期：「健康スポーツ科学Ⅱ」
  - 2年前期：「健康スポーツ科学Ⅲ」
  - 2年後期：「健康スポーツ科学Ⅳ」

#### ○食と健康科目（専門教育科目）

食と健康に関する専門的な知識と技術の修得に必要な科目を、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」、「栄養学」の3科目群に分け、1～3年次で開講する。

必修科目（下線付き科目）は、食と健康分野の深い専門知識の修得に必要な科目

を中心に設定している。

- 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち
  - 1 年前期：「解剖生理学」「微生物学」
  - 1 年後期：「生化学」
  - 2 年後期：「疾病の成り立ちと病態」「食品分子機能学」
  - 3 年後期：「運動生理学」
- 食べ物と健康
  - 1 年前期：「食品衛生学」
  - 1 年後期：「食品学総論」
  - 3 年前期：「食品加工学」
- 栄養学
  - 2 年前期：「基礎栄養学」「応用栄養学」
  - 2 年後期：「臨床栄養学」「公衆栄養学」
  - 3 年後期：「スポーツ栄養学」

#### ○データサイエンス科目（専門教育科目）

食環境・健康に関するデータサイエンスの専門家としての知識及び技術の体系的な修得に必要な科目を、「数学基礎科目」、「コンピュータシステム科目」、「データサイエンス基礎科目」、「データサイエンス実践科目」、「社会とデータサイエンス」の5科目群に分け、1～3年次で開講する。

必修科目（下線付き科目）は、本学科が育成を目指す「食環境・健康分野の深い専門知識と AI・データサイエンスのスキルを合わせ持つグローバル人材」に求められる基礎的能力の修得に必要な科目を中心に設定している。

- 数学基礎科目
  - 1 年前期：「微積分学基礎」
  - 1 年後期：「データサイエンスのための微積分学」「線形代数基礎」「データサイエンスのための線形代数」「確率統計学基礎」
  - 2 年前期：「データサイエンスのための確率統計学」「データサイエンスのための応用数学」
- コンピュータシステム科目
  - 1 年前期：「プログラミング基礎」
  - 1 年後期：「プログラミング演習」「情報ネットワーク」
  - 2 年前期：「データベース入門」
  - 2 年後期：「センシングと信号処理」
- データサイエンス基礎科目
  - 2 年前期：「機械学習基礎」「機械学習演習」
  - 2 年後期：「データ解析基礎」「データ解析演習」

- 3 年前期：「ニューラルネット基礎」「ニューラルネット演習」
- データサイエンス実践科目
  - 2 年後期：「バイオインフォマティクス」
  - 3 年前期：「データ駆動型意思決定と可視化」「食農健康データサイエンス」  
「フードウェルネスデータサイエンス」
  - 3 年後期：「マルチモーダル AI 技術と応用」「先端 AI 論」「先端ロボティクス論」
- 社会とデータサイエンス
  - 3 年前期：「マーケティングとデータサイエンス」、「人間と AI」
  - 3 年後期：「マネジメントとデータサイエンス」

○食環境マネジメント科目（専門教育科目）

産業界における現実の課題に対する実践的な解決策を提案できる能力の修得に必要な科目を、2～3 年次で開講する。

必修科目（下線付き科目）は、食環境分野の深い専門知識の修得に必要な科目及び起業家精神の涵養に必要な科目を中心に設定している。

- 2 年前期：「アントレプレナー論」
- 2 年後期：「マーケティング論」「流通システム論」「食環境地域連携演習」「アントレプレナー演習」
- 3 年前期：「マーケティングリサーチ」「消費者行動論」「サプライチェーンマネジメント学」「インターンシップ」
- 3 年後期：「アグリビジネスマネジメント学」「インターンシップ」

○卒業研究（専門教育科目）

専門教育科目の集大成として、3～4 年次にかけて、少人数のゼミ単位で行われるプロジェクトベース学習及び各自のテーマに基づいた研究活動を行う。

本科目群の科目は、卒業後の継続的な学習と自己研鑽に努める姿勢を養うために不可欠であり、すべて必修科目としている。

- 3 年前期：「データサイエンス基礎演習」
- 3 年後期：「データサイエンス実践演習」
- 4 年通年：「卒業研究」

このように、各授業科目はカリキュラム・ポリシーを踏まえ、内容を段階的・体系的に学修できるように配置されており、各開講期に配置される科目の数は 15 科目以内、単位数は 24 単位以内となるようにしている。

(2) 教育課程の特色

基礎教養科目の特色は、本学科が育成を目指す「食環境・健康分野の深い専門知識と AI・データサイエンスのスキルを合わせ持つグローバル人材」に必要な科目を数多く開講している点である。

専門教育科目の特色は以下の 3 点である。

- ①既設の食物栄養学科と連携し、食と健康に関する専門科目を通じて、食環境・健康分野の深い専門知識を修得するための教育を行う。
- ②AI・データサイエンスに関する高度なスキルを修得するために、一部の科目については基礎科目と演習科目を開講する。また、ほぼすべての科目にノート PC を持参させ、日常的に利活用する。Python による実装・動作確認を優先し、理論については後からスムーズに理解できるような構成とすることで、学修へのモチベーション維持に努める。
- ③産業界における実践的な経験を有する外部講師による講義科目に加え、現実の課題に主体的に取り組む演習科目及び「インターンシップ」を開講する。

### (3) 学修成果と評価

学修成果の評価は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得できたかを測ることで行う。具体的には、各科目のシラバスに明記された「授業の到達目標〔学習成果〕」「成績評価の方法〔評価項目と割合〕」に従って学修成果を測り、以下の基準で成績評価を行う。

評価	評価点	GP	合否
秀	90～100	3.5～4.5	合格
優	80～89	2.5～3.4	
良	70～79	1.5～2.4	
可	60～69	0.5～1.4	
不可	59 以下	0.0	不合格

※ 1 点未満の端数があるときは、四捨五入する。

※  $GP = (100 \text{ 点法による評点} - 55) \div 10$

### (4) 教育効果の確保

ディプロマ・ポリシーと、各科目の到達目標との対応を示すカリキュラムマップは【資料①-2】のとおりである。

#### 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学科では、本学の建学の精神を理解し、卒業時に次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与します。

1.	子供から高齢者までの豊かな食生活と健康を支え、持続可能な社会の実現に貢献しようという使命感を有する。
2.	食環境・健康分野の AI・データサイエンスに関連する専門知識と技能を修得し、多様なデータの収集・分析能力、科学的合理性に基づく判断能力を有する。
3.	食環境・健康に関する現実の課題を理解し、AI・データサイエンス技術を用いて実践的な解決策を提案する能力を有する。
4.	新しいアイデアやアプローチを通じて、食環境・健康分野におけるイノベーションを推進し、科学技術と社会の懸け橋となる能力を有する。
5.	社会からの信頼に応えるために、卒業後も継続的な学習と自己研鑽に努める姿勢を有する。

カリキュラムマップより、主要授業科目が各年次、各ディプロマ・ポリシーにわたってほぼ均等に設定されていること、卒業要件を満たすよう単位を取得することでディプロマ・ポリシーが満たされることがわかる。

本学では、1 単位時間＝45 時間という原則に基づき、通常時制の授業（90 分）1 回を 2 時間とみなしたうえで、単位時間充足のための学修を、講義科目（2 単位、90 時間）については予習・復習として 4 時間（180 分）、演習科目（1 単位、45 時間）については予習・復習として 1 時間（90 分）行うよう指導している。授業外の学修時間を確保できるよう、本学科では履修登録単位数に上限を設けるとともに、1 日あたりの授業数を 3 科目程度に抑えるようにしている（【資料④-1】モデル時間割）。

以上のように、十分な教育効果を確保することができる設定となっている。

## ⑤教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### (1) 教育方法

初年次教育科目は、基礎教養科目として 1 年前期及び後期に開講する「キャリアガイダンスⅠ」「キャリアガイダンスⅡ」が該当する。これらの科目は、本学科が育成を目指す「食環境・健康分野の深い専門知識と AI・データサイエンスのスキルを合わせ持つグローバル人材」に求められる基礎的能力の修得を目指し、複数の基幹教員で担当する。具体的には、大学生活及び大学での学びに適應できるよう、学生間交流の実施及びアカデミックスキル（読解力、文章力、コミュニケーション力、論理的思考力等）の指導を行う。

キャリア教育は、基礎教養科目として 1 年前期に開講する「食環境データサイエンス概論」、1 年後期に開講する「食環境イノベーションデザイン」、2 年前期及び後期に開講する「キャリアガイダンスⅢ」「キャリアガイダンスⅣ」、専門教育科目として開講する「マーケティングとデータサイエンス」「マネジメントとデータサイエン

ス」「インターンシップ」「アントレプレナー論」「アントレプレナー演習」が該当する。これらの科目では、学生個々の将来像の獲得、キャリア形成に必要な知識・スキルの修得を目指す。具体的には、連携先の企業等から招聘した外部講師による講演や、連携先の企業等から提示された現実の課題に対する解決策を提案するプロジェクト学習、連携先の企業等へのインターンシップ等を行う。

また、専門教育科目の「データサイエンス科目」群では、ほぼすべての科目にノート PC を持参させ、日常的に利活用する。Python による実装・動作確認を優先し、理論については後からスムーズに理解できるような構成とすることで、学修へのモチベーション維持に努める。

本学科は入学定員 50 名と小規模であることから、「卒業研究」科目群の科目を除くすべての科目は、学年全体（50 名）を対象として行う。

## (2) 履修指導方法

入学生に対しては、入学翌日からのオリエンテーション内で、本学の建学の精神と教育理念の理解を図るとともに、本学科の教育目標、育成を目指す人材像の説明を行う。併せて、持参したノート PC の学内 Wi-Fi への接続、Microsoft Office を始めとする必須ソフトウェアの導入、学内の各種システムの利用に必要なユーザ ID の配布等、大学での学びに必要な準備を行う。

履修指導は、すべての学年において、年度初めのオリエンテーション内で実施する。履修単位表やシラバス等を確認し、科目内容を十分把握したうえで履修登録するように指導する。

また、大学生活や科目内容に関する質問・相談に必要な基幹教員の研究室の場所、オフィスアワー等についても周知する。

## (3) 履修登録単位数の上限（CAP 制）

予習・復習等の自己学修を含め、1 単位あたり 45 時間の学修が必要であることから、学生の十分な学修時間を確保するため、本学では 1 年間に履修登録できる単位数の上限を 48 単位としている（履修規程 第 6 条第 2 項）。

ただし、所定の単位を優れた成績をもって取得した者あるいは相当な理由により、学長がとくに認めた者については、教務部長の許可を得たうえで、履修登録単位数の上限を超えた履修登録が認められる場合がある（履修規程 第 6 条第 3 項）。

### 第 6 条（略）

- 2 1 年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を 48 単位とする。ただし、次の各号に定めるものについては登録単位数の上限から除くものとする。

- (1) 教職に関する専門教育科目
  - (2) 学長が認めた科目
- 3 前項の規定にかかわらず、次の者は教務部長の許可を得て、登録単位数の上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。
- (1) 所定の単位を優れた成績をもって取得した者
  - (2) 相当な理由により、学長がとくに認めた者

各学期に開講される科目の単位数は下表のとおりである。

開講期	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
開講単位数	23	23	23	24	23	16	8	0
	46		47		39		8	

※「国際理解（海外研修）」「インターンシップ」の単位数は、前期、後期それぞれで計上している。

※「農園演習」「卒業研究」（通年科目）の単位数は、前期で計上している。

上表より、各年次の開講単位数は47単位以下であり、実際問題として本学が定める履修登録単位数の上限を超えて履修することはないと考えている。

#### (4) 卒業要件

本学科の卒業要件は以下のとおりである。

- 4年以上在学し、124単位以上を取得しなければならない（履修規程 第2条）。
- 履修単位表に定めるところに従って、「基礎教養科目」24単位以上、「専門教育科目」100単位以上取得しなければならない（履修規程 第3条）。

また、科目区分ごとの必修・選択等の科目数、単位数は下表のとおりである。

区分	必修		選択		
	科目数	単位数	科目数	単位数	
基礎教養科目	13	16	10	15	
※ 基礎教養科目 24 単位以上必修					
専門教育科目	食と健康科目	7	14	7	14
	データサイエンス科目	26	48	2	4
	食環境マネジメント科目	4	7	6	10
	卒業研究	3	10	0	0
	計	40	79	15	28

※ 専門教育科目 100 単位以上必修

上表より、基礎教養科目における必修科目の単位数は、卒業要件である 24 単位の 2/3 にあたる 16 単位であり、適切な割合であると考えている。

専門科目の「食と健康科目」群、「食環境マネジメント科目」群については、各自の興味に応じて科目を選択できるようにしている。一方、「データサイエンス科目」群、「卒業研究」については、「食環境・健康分野の深い専門知識と AI・データサイエンスのスキルを合わせ持つグローバル人材」の育成に不可欠であることから、ほぼすべての科目を必修としている。

(5) 履修モデル

本学科では「食環境・健康分野の深い専門知識と AI・データサイエンスのスキルを合わせ持つグローバル人材」の育成を目指しており、履修指導時には、学生の志向に応じて以下の履修モデルを提示する。

- 「健康×データサイエンス」に興味のある学生向け  
「食と健康科目」群の選択科目をできる限り多く履修すること。
- 「食料生産×データサイエンス」に興味のある学生向け  
「食健康マネジメント科目」群の「サプライチェーンマネジメント学」「アグリビジネスマネジメント学」を履修すること。
- 「食品流通×データサイエンス」に興味のある学生向け  
「食環境マネジメント科目」群の「マーケティング論」「マーケティングリサーチ」「流通システム論」「消費者行動論」を履修すること。

⑥編入学定員を設定する場合の具体的計画

本学科では設置届出時点において編入学定員を設定せずに定員の範囲内で、以下の通り編入学生の受入を計画する。なお、受け入れ予定人数は特に定めず、定員に満たない場合に限り、編入学生を受け入れる。

(1) 対象者と既修得単位の認定方法

九州栄養福祉大学学則第 45 条に基づき、編入学入学試験の受験資格者を次の各号に該当する者とする。

- ① 大学に 2 年以上在学し、62 単位以上を取得した者（取得見込みを含む）
- ② 短期大学の卒業者（卒業見込みを含む）

### ③ 高等専門学校卒業者（卒業見込みを含む）

既修得単位認定希望者に対する単位認定は、編入学試験合格者の在籍校で使用しているシラバスを学科内で精査して読み替え科目案を作成し、教務委員会の審査並びに教授会の議を経て、学長が許可する。なお、既修得単位の認定状況によっては、卒業までに2年以上を要する可能性があることを募集要項等に明記する。

### (2) 履修指導方法等

既修得単位認定希望者を含む編入学生に対しては、入学後に面談を行い、個別状況に合わせて履修を指導する。

## ⑦企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

本学では、海外研修科目として学部共通科目である「国際理解（海外研修）」を開講している。また、食環境データサイエンス学科では、新たに企業実習科目として「インターンシップ」を開講する。開講期については、「国際理解（海外研修）」が2学年前期及び後期、「インターンシップ」が3学年前期及び後期であり、どちらの科目も夏期又は冬期、若しくは春期、のいずれかの授業期間外で1～2週間程度の実習期間を設定している。具体的な計画については、以下に示す通りである。

### ア 実習先の確保の状況

「国際理解（海外研修）」及び「インターンシップ」それぞれの状況については、【資料⑦-1】国際理解・インターンシップ受入施設一覧）に記載の通りである。

### イ 実習先との連携体制

「国際理解（海外研修）」について

本学では、併設校「東筑紫短期大学」が姉妹校協定を締結している台湾の「長庚大学」及び韓国の「釜山女子大学」との連携に加え、令和元年10月には米国の「ベルビューカレッジ」と、令和5年10月にはフィリピンの「ラプラプセブ国際大学」と、それぞれ本学との間で協定覚書を交わしている。これらの協定は、学生や教職員の交流のみならず、両大学が合意する教育・学術に関する交換等にも取り組む内容で、相互連携を図っている（【資料⑦-2】国際理解に関する大学間協力提携覚書）。

「インターンシップ」について

複数の企業と産学連携協定を締結し、実習の受け入れのみならず、具体的な社会課題解決のための共同研究、講師派遣等、強固な連携体制を構築する。また、連携企業のひとつである「株式会社オプティム」からは、非常勤講師派遣に加え、基幹教員1名の出向の内諾も得

ている。更には、本学キャンパス内に同企業のサテライトオフィスを設置してもらい、キャンパス内での実習受入や共同研究等が実施できる環境を構築する。

#### ウ 成績評価体制及び単位認定方法

「国際理解（海外研修）」について

2名の科目担当教員が、渡航先別にそれぞれ成績評価を担当している。評価項目（評価割合）については、事前学習の受講姿勢（25%）、研修中の取り組み（50%）、研修終了後の報告書及びアイデアノート（25%）の内容に基づいて総合評価し、単位認定している。

「インターンシップ」について

2名の科目担当教員が、実習先別にそれぞれ成績評価を担当する。評価項目（評価割合）については、事前・事後指導のレポート（20%）、実習期間中に記入する実習ノート（40%）、実習先担当者からの評価（40%）の内容に基づいて総合評価し、単位認定する。

### ⑧取得可能な資格

食環境データサイエンス学科で取得可能な資格は、以下の通りである。

「上級データサイエンス・AI実務パスポート」

民間資格であり、資格取得可能であるが、卒業要件単位に含まれる科目のほか、「一般財団法人 全国大学実務教育協会 上級データサイエンス・AI実務パスポート資格認定規程」に定める必修科目の修得が必要である。

### ⑨入学者選抜の概要

#### 1. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

食環境データサイエンス学科の入学者受け入れの方針は以下のとおりである。

本学科は、食環境と健康に関する深い理解と先端のデータサイエンス技術を統合した教育を通じて、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を実現する専門家を養成するために、以下に掲げる人材を求めます。

1. 建学の精神（勇気・親和・愛・知性が調和する人間性を養う人格教育）に賛同する人
2. 高等学校までに学習した全ての教科の基礎学力を修得し、論理的思考能力を有している人
3. 食環境と健康のかかわりについて深い関心を持ち、AI・データサイエンスの技術を修得するために積極的かつ持続的な努力を惜しまない人
4. 他者の気持ちや立場を理解し、思いやりと協調性を兼ね備えた人
5. 新たな挑戦に積極的な志を持つ人

## 2. 入学者選抜方法と評価方法

◇総合型選抜...総合型選抜は、従来の学力試験では測れない能力や学習意欲などを、面談や書類選考を通して本学の求める学生像（アドミッション・ポリシー）と照らし合わせるにより合否を判定する。

### ◇学校推薦型選抜

...アドミッション・ポリシーに基づき多様な能力を多面的に評価する入試として、小論文では総合的理解力、論理的思考力、表現力を測り、面接ではコミュニケーション能力や意欲、目的意識などを測ることにより、丁寧な選抜を行う。

### ◇一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜

...食・環境に関わるデータサイエンティストとしての専門的知識・技能・教養を修得するうえで、理科系の科目が重要になるが、コミュニケーション能力や協調性、学びへの意欲などを向上させるうえでは、高校での全ての科目が重要と考える。よって、幅広く受験科目を設定し、自由な選択を可能とし評価を行う。

※入試区分ごとの募集人数

入学定員	募 集 人 員							
	総合型選抜	学校推薦型選抜 (前期)	学校推薦型選抜 (後期)	一般選抜 (前期)	一般選抜 (後期)	大学入学共通テスト 利用選抜(前期)	大学入学共通テスト 利用選抜(後期)	社会人選抜
50	5	20	若干名	20	若干名	5	若干名	若干名

※以下【 】は確認するアドミッション・ポリシー番号

(1) 総合型選抜 ※面談 9 月末、10 月中旬

〔配点…面談 50%、課題 20%、書類審査 30%〕

面談は個別面談とし、3 週間の間隔を空けて 2 回行う（観点：学習意欲、積極性、表現力）。1 回目の面談終了時に課題を渡し、2 週間後までに提出する。課題はレポート形式とし、2 回目の面談時には提出されたレポートに基づいて質疑応答を行う。

面談、課題…「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する【AP1、3、4、5】  
課題、調査書、志望理由書、活動報告書…「知識・技能」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する【AP1、2、3、4、5】

(2) 学校推薦型選抜（前期・後期）※前期 11 月中旬、後期 12 月中旬

〔配点…書類審査 50%、小論文 40%、面接 10%〕

出願基準として、人物・学力ともに優れ「全体の学習成績の状況」が 3.3 以上の者とする。高等学校（中等教育学校を含む。以下同じ）を 2025（令和 7）年 3 月卒業見込み、または 2024（令和 6）年 3 月に卒業した者で、出身高等学校長より推薦された者（現役と一浪に限る）。前期のみ一部指定校制を導入する。小論文は 2 問出題（各 400 字程度）。

小論文…「思考力・判断力・表現力」を評価する【AP 3、4、5】

面接…「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を中心に評価する【AP1、3、4、5】

推薦書、調査書、志望理由書…「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する。特に高校時代に自ら努力した諸活動について高く評価する【AP1、2、3、4、5】

(3) 一般選抜（前期・後期）※前期 2 月初旬、後期 3 月初旬

〔前期配点…学科試験 100%、書類審査：点数化なし〕

〔後期配点…小論文 90%、面接 10%、書類審査：点数化なし〕

前期は本学が定める 4 教科（国語、外国語、数学、理科）から 2 科目を選択し、得点の合計（各教科 100 点、合計 200 点満点）によって合否を判定する。後期は小論文と面接を行う。小論文は 2 問出題（各 400 字程度）。

〔前期〕学科試験…「知識・技能」について評価する【AP 2】

また記述式問題により「思考力・判断力・表現力」を評価する  
調査書・志望理由書…「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する【AP1、2、3、4、5】

〔後期〕小論文…「思考力・判断力・表現力」を評価する【AP 3、4、5】

面接…「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」「学習意欲・積極性・表現力」などを評価する【AP1、3、4、5】

調査書・志望理由書…「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する【AP1、2、3、4、5】

(4) 大学入学共通テスト利用選抜（前期・後期）※前期 2 月初旬、後期 3 月初旬

〔配点…学科試験 100%、書類審査：点数化なし〕

本学が定める 5 教科（国語、外国語、数学、理科、情報）から、受験した高得点の 2 科目を合否判定に使用する。（各科目 100 点、合計 200 点満点）

学科試験…「知識・技能」について評価する【AP 2】

調査書・志望理由書…「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する【AP1、2、3、4、5】

(5) 社会人選抜（前期・後期）※前期 11 月中旬、後期 12 月中旬

〔配点…小論文 60%、書類審査 20%、面接 20%〕

出願資格として、高等学校を卒業または大学入学資格を有して就業経験が 2 年以上の社会人とする。小論文は 2 問出題（各 400 字程度）【AP 3、4、5】。書類審査は出願書類（略歴書、調査書、志望理由書及び最終学校の成績証明書）【AP1、2、3、4、5】による。面接【AP1、3、4、5】も合わせて総合評価とする。

- ・ 社会人を受け入れる際の既修得単位の認定方法及び認定の考え方について  
入学前の既修得単位の取り扱いは以下のとおり学則第 28 条に定められており、認定に関する規程に則り行う。

学則『入学前の既修得単位等の認定』

第 28 条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学生が入学する前の前条第 1 項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前 2 項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学及び転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて 60 単位を超えないものとする。

4 前 3 項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

『入学前の既修得単位の認定に関する規程』

第 1 条 学則第 28 条第 4 項に基づく入学前の既修得単位の取り扱いについては、この規程の定めるところによる。

第 2 条 入学前に修得した科目および単位の認定は、当該学生の所属する学科の授業科目とし、合計 60 単位を超えない範囲で行うものとする。

2 前項の単位の認定に関連して、修業年限の短縮は行わないものとする。

第 3 条 入学前の既修得単位認定の申請をする者は、次の書類を所定の期日までに提出しなければならない。

- (1) 入学前の既修得単位認定申請書
- (2) 単位修得・成績に関する証明書
- (3) 修得科目の授業内容を示す文書

第 4 条 入学前の既修得単位の認定は教務委員会が審査し、教授会の議を経て学長が行う。

第 5 条 入学前の既修得単位の認定の結果については教務課より本人に通知する。

### 3. 入学者選抜体制について

本学の入学者選抜は『九州栄養福祉大学入学者選抜に関する規程』に基づき入試選考会議において行っている。新学部も同様に行う予定である。入学者選抜は学長が総括し、全学的組織である学長部局会議、またそれぞれの学部長、学科長、学科教員等で構成された選考委員会により、選抜方法や実施体制等を検討・決定している。

実際の入試実務は教務部が中心となり行っている。入試ごとに「試験実施要領」「面接実施要領」等を作成し、入試業務担当の教職員で事前の打合せを行い、入試当日までの留意事項や緊急時対応の確認、また配慮の必要な受験生の有無等情報の共有を行う。可否の判定は各学部の選考委員会にて審議された後、教授会で確認し承認される。

ただし開設年度については、新学部・新学科設置準備室会議にて選抜方法や実施体制等を審議の上、学長が決定する。また可否判定については就任予定の学科長他、規程に基づき学長より招集された委員で選考委員会を設置し行う。

### 4. 科目等履修生について

科目等履修生の取り扱いについて、以下のとおり学則第 66 条及び履修規程第 10 条に定められている。全ての学部学科において実施しており、年 2 回申請書類の締切を設けている。受け入れ人数は特に設けず、履修規程第 10 条 2 (1) にあるとおり、教務委員会及び教授会での審議を経て教育上支障のない範囲で認められる場合がある。

学則『科目等履修生』

第 66 条 本学の授業科目中特定の科目の履修を希望する者がいるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

- 2 前項で履修を許可された科目等履修生に対し単位を与えることができる。
- 3 科目等履修生に関して必要な事項は、別に定める。

#### 履修規程『科目等履修生』

第 10 条 学則第 66 条により科目等履修生として受講を希望する者は、所定の「科目等履修生願書」に履歴書、最終学校卒業証明書および健康診断書を添えて学長に願出しなければならない。

- 2 科目等履修生に対する審議は次の基準による。
  - (1) 正規の学生の学習の妨げのない場合に限る。
  - (2) 高等学校卒業者またはこれと同等以上の学力を有すると認められた者。
  - (3) 身元確実な保証人を有する者。
- 3 科目等履修生の受講許可は每学期始めに行う。
- 4 受講の期間は 1 期または 1 年とする。
- 5 科目等履修生は 1 単位の講義・演習もしくは実習・実技に対して 10,000 円の受講料を定められた期日までに納めなければならない。
- 6 この他、科目等履修生に関する規定は一般学生に準ずるものとし、必要な事項については教授会の議によるものとする。

#### ⑩教員研究実施組織等の編制の考え方及び特色

食環境データサイエンス学科の教員組織は、開設時に食物栄養学部 食物栄養学科から異動する教員 3 名、併設校 東筑紫短期大学 食物栄養学科から異動する教員 1 名、及び新規に着任する教員 1 名、合計 5 名の基幹教員で始動する。2 年目には、さらに 1 名の教員が着任し、完成年度には基幹教員 6 名で構成される教員組織を計画している。

この教員構成は、入学定員 50 人（家政関係）に対して、大学設置基準第 10 条の別表第 1 に定められる必要な基幹教員数 6 名を満たし、加えて大学全体での別表第 2 の基幹教員数も満たしている。完成年度の基幹教員の職位及び年齢構成は、下記の表のとおり各年代でバランス良く配置され、教育研究の高度化に応えられる体制を整えている。また、基幹教員は、食環境データサイエンスの各分野とそれに近接する領域の専門家であり、全員が博士または修士の学位を有している。さらに、産業界との連携を強化するため、食農健康データサイエンス関連の実務経験を持つ教員も 1 名配置する。

完成年度までに定年を迎える教員については、「【資料⑩-1】満 60 歳以降に雇用される者の役職及び職位等委嘱に関する規準」第 6 条に基づき、定年延長により雇用を維持する。さらに、該当分野で優れた教育研究業績を有する教員を継続的に公募することで、後任となる基幹教員の育成及び採用を図り、本学科の教育研究が円滑に遂行されるよう、教員組織の体制強化に努める。また、他学科等から移籍する教員の補充についても、新規に教員を採用することで他学科等の教育の質を従来と同等に維持する予定である。

完成年度における基幹教員の職位及び年齢構成（単位：人）

職位	学位	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	計
教授	博士	—	—	—	2	1	3
	修士	—	—	1	—	—	1
准教授	博士	—	—	1	—	—	1
	修士	—	1	—	—	—	1
計	博士	—	—	1	2	1	4
	修士	—	1	1	—	—	2

※平均年齢：59.2 歳

### ⑩研究実施についての考え方、体制、取組

食環境データサイエンス学科では、食と環境に関する深い理解とデータサイエンス技術を統合し、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を実現するため、食環境・健康分野に関する多様な課題の解決に資する研究を実施する。本学科では、計算機科学、応用数学、統計学、食に関わるバイオインフォマティクス、食農健康データサイエンスを中心に、データサイエンスの基礎研究・応用研究を主な研究対象とする。研究体制としては、各教員に研究室を提供し、個人研究費、共同研究費、研究補助費を通じた研究支援の体制が整っており、各自の専門性を発揮できるようになっている。また、計算機科学用 CPU・GPU サーバー、次世代 DNA シーケンサ、液冷式超高速凍結機、小規模植物栽培システム、小型ロボットアームなどの専用機器設備を駆使し、他分野の教員と互いに共同・連携することで相乗効果を生み出し、研究設備などの研究資源を最大限に活用して、高い研究成果が得られるように取り組む。

### ⑪施設、設備等の整備計画

#### (1) 校地、運動場及び校舎等施設の整備計画

本学の大学設置基準上必要な校地面積は 9,000 m<sup>2</sup>（北区キャンパス 4,200 m<sup>2</sup>、南区キャンパス 4,800 m<sup>2</sup>）で、併設校である東筑紫短期大学の設置基準上必要な校地面積は 4,400 m<sup>2</sup>となっていることから、全体に必要な校地面積は 13,400 m<sup>2</sup>であるが、2 箇所のキャンパスを合計した設置基準上校地に算入される面積は 106,102.77 m<sup>2</sup>（北区キャンパス 29,359.93 m<sup>2</sup>、南区キャンパス 76,742.84 m<sup>2</sup>）であり、大学収容定員及び併設校東筑紫短期大学の収容定員より算出した設置基準上必要な校地面積 13,400 m<sup>2</sup>を満たしている。なお、運動場用地として福岡県京都郡苅田町に面積 14,629.93 m<sup>2</sup>のグラウンドと小倉南区キャンパスに面積 6,710 m<sup>2</sup>のグラウンドを有している。又、本学の大学設置基準上必要な校舎面積は 10,545.00 m<sup>2</sup>（食物栄養学部 4,132.00 m<sup>2</sup>、リハビリテーション学部 6,413.00 m<sup>2</sup>）となっているが、本学は専用校舎面積として 26,452.34 m<sup>2</sup>（北区キャンパス 6,894.41 m<sup>2</sup>、南区キャンパス 19,557.93 m<sup>2</sup>）を保有している。なお、その他に東筑紫短期大学と共用す

る面積は 24,360.36 m<sup>2</sup>であるが、大学と短期大学で共有する校舎面積は 50,812.70 m<sup>2</sup>もあり基準を十分満たしている。本学に設置されている体育館は、北区キャンパスは講堂兼体育館 2,683.78 m<sup>2</sup>、第 2 体育館 317.04 m<sup>2</sup>、南区キャンパスは体育館 910.00 m<sup>2</sup>となっており授業や課外活動で利用している。障がい者に対する施設設備の整備状況としては、小倉北区キャンパスの各講義棟（1～3 号館、5 号館）、食堂棟、講堂兼体育館のエントランスに車椅子用のスロープを設置しており、すべての講義棟、講堂兼体育館及び図書館にはエレベーターを設置している。又、階段の手摺や身体障がい者用多目的トイレを設置しているほか、各フロアをバリアフリー対応としている。小倉南区キャンパスでは 1 号館と 3 号館のエントランスに車椅子用のスロープと駐車場を設置している。1 号館、2 号館、3 号館には階段に手摺を設置しており、6 号館 1 階と 7 号館の廊下には手摺を設置している。多目的トイレを 2 号館、3 号館、5 号館、6 号館 2 階、7 号館にそれぞれ設置している。このように両キャンパスとも身体障がい者への配慮を行っている。

新たに新設される食環境データサイエンス学科専用で使用される北区キャンパス 5 号館では、様々な授業形態・授業規模に対応する教室とアクティブラーニング型授業を実現するための机・椅子等の機器・備品等を備えている。1 階にコミュニティエリア（230 m<sup>2</sup>）を設け、学生の学修及び休息・交流のためのスペースを十分に設けている。また、コミュニティエリア内に冷食レストランエリアを設け、冷凍食品等の簡易的な食事の提供も行う。2 階から 6 階の教室には、講義室が 4 室（2 階 1 室 99 人収容、3 階 63 人収容可能な 2 室、6 階 187 人収容可能な大講義室）、演習室が 5 階に 3 室、研究室 2 室（4 階に 1 室と 5 階に 1 室）及び 4 階にゼミ室 8 室を設ける。各講義室・演習室にはプロジェクター、スクリーン、電子黒板、AV 設備を整備しビジュアルな講義や高速通信による遠隔講義にも対応している。また、2 階には、サーバールーム 1 室、更衣室 2 室を設ける。さらに、1 階から 3 階には 1 室ずつ 3 室の自習室を設け、学生の自学自習、グループ学習、休憩場所等の多目的に活用できる。このように、教育研究活動の目的や規模に応じて柔軟に利用することができる施設設計としている。その他、5 号館には、各種委員会や打ち合わせ等に用いる会議室、事務室、来客用の応接および非常勤講師の控え室、備品等の保管に必要な倉庫、図書などを適切に備えている。

以上のとおり、各科目の授業内容に応じて適切な教室配当を可能にしており、施設・設備の利用予定からも支障はない。

## (2) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学には小倉北区キャンパスに九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学図書館（以下、図書館）と小倉南区キャンパスに九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学図書館小倉南区キャンパス分室（以下、分室）がある。食環境データサイエンス学科は小倉北区キャンパスに設置される為、図書館を主に利用する予定である。図書館には図書 98,589 冊（内、外国書 3,553 冊）、学術雑誌 91 誌（内、外国書 9 誌）、その他に視聴覚資料等を所蔵している。蔵書について

は毎年度、定期的な図書・学術雑誌等の整備を行っている。

食環境データサイエンス学科の教育・研究の為、開設時において、確率統計学やプログラミング、データベース等データサイエンス科目関連の図書を中心に 550 冊（内、電子書籍 17 冊）を整備する。また学術雑誌については、データサイエンス科目や農業に関するもの 16 誌（内、電子ジャーナル 4 誌）を新たに整備する【資料⑫-1】。既設の食物栄養学科があったことから、当該学科の授業科目に関する医学や農学分野等の図書 9,143 冊、学術及び教育・研究に寄与する雑誌 35 誌（内、電子ジャーナル 2 誌）を所蔵しており、食環境データサイエンス学科の教育・研究に支障はないと考える。

データベースについては「医中誌 Web」、「メディカルオンライン」、「MEDLINE with Full Text」を以前より契約しており、医学分野の研究に備えてきた。新学科の設置にあたり、新たに海外のデータベース「Agricultural Science Collection」を整備する予定である。このデータベースは農学やフードサイエンス等の分野を収録している為、食環境データサイエンス学科の教育・研究に大いに活用できると考える。

また図書館には自学習できるスペースとして閲覧席を 144 席備えており、館内は無線 LAN を整備し、学生のインターネットを利用した学習が可能な環境となっている。蔵書検索については専用のパソコンを設置し、図書館システムによる OPAC で図書館と分室の横断検索が可能となっている。

他大学との連携については、九州地区大学図書館協議会と福岡県・佐賀県大学図書館協議会に加盟している為、加盟館同士の学生証での相互利用（一部を除く）が可能となっている。

なお、食環境データサイエンス学科およびこども教育学部の開設に伴い、図書館の一部改修工事を行い、食環境データサイエンス学科およびこども教育学部用の図書を配架する書架の設置スペース（59.67m<sup>2</sup>）を確保する。

### ⑬管理運営

#### 《学長部局会議》

大学の意思決定組織として「学長部局会議」を毎週開催している。「学長部局会議」は学長が議長となり大学運営全般に関する重要事項の協議を行うとともに、「部科課長会議」「学科会議」等で審議された事項の最終審議を行っている。「学長部局会議」には学長、学長補佐、学部長、大学及び併設校 東筑紫短期大学の部長職、図書館長、記念館館長、法人事務局長が出席することで経営部門と教学部門の意思疎通を図り、迅速かつ的確な意思決定を行うことができる体制を整備している。なお、会議は小倉北区キャンパスと小倉南区キャンパスの会議室をリモート会議システムで繋げて実施している。「学長部局会議」の構成員及び議案については「九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学長部局会議規程」において規定されており権限や責任は明確である。

#### 《教授会》

本学においては教授のみで構成される教授会（以下、正教授会という）と教授会に准教授、講師、助教を加えて審議を行なう拡大教授会（以下、教授会という）を別に実施している。正教授会では教員の資格審査等を主に行い、その他の審議事項については教授会において審議を行っている。教授会の開催に当たっては、「九州栄養福祉大学学則」第 59 条に基づき、「学長がこれを招集する」としており、原則として毎月第 4 月曜日に開会している。又、教授会の審議事項については、「九州栄養福祉大学学則」第 61 条に定めており、教授会を教育研究上の審議機関として適切に運営している。

教授会の運営に当たっては、「九州栄養福祉大学学則」のほか、「九州栄養福祉大学教授会規程」等の規程を整備しており、これら諸規程に基づいて教授会を運営している【資料⑬-1】。又、教授会は学長が審議の決定を行うにあたり、「九州栄養福祉大学学則」第 61 条第 1 項により次の事項に関して意見を述べるものと定めている。

- 1 学位の授与
- 2 学則及びその他学内規則の制定・改廃に関する事項
- 3 教育課程及び授業に関する事項
- 4 入学試験に関する事項
- 5 学生の試験並びに課程修了に関する事項
- 6 学生の入学、成績考査及び卒業に関する事項
- 7 学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- 8 教員の教育研究及び教育研究業績等の審査に関する事項

但し、資格審査に関する教育研究業績等の審査に関しては、「九州栄養福祉大学教員選考規程」【資料⑬-2】に基づくものとし、本項目は正教授会での審議事項とする。

- 9 自己点検・評価に関する事項

なお、本学教授会は、併設校東筑紫短期大学教授会とは別々に開催している。

教授会の議事録については、教授会で承認された事項について、教務課が議事内容を確認の上、議事録の整備を行っている。

又、教授会では学習成果及び 3 つの方針（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）に対する認識を共有し、その内容について承認を行っている。なお、これら 3 つの方針については、学生便覧やウェブサイト等を通じて、学内外への公表も行っている。

そのほか、教授会の付託審議機関として、教育課程の編成・変更・実施に関する事項や学生の学業成績に関する事項等を審議する「教務委員会」をはじめとする各種常置委員会（「学生委員会」「厚生委員会」「図書館運営委員会」）を「九州栄養福祉大学 常置委員会運営規程」【資料⑬-3】に基づき設置している。なお、各種常置委員会の審議事項は、「九州栄養福祉大学 常置委員会審議事項」【資料⑬-4】として定めている。

このように、教授会の下には、教育上の委員会をはじめとする各種委員会を設置し、適切

に運営している。そのほかの委員会として、「教職課程委員会」「倫理委員会」「動物実験委員会」等が各委員会規程に基づき運営されており【資料⑬-5～資料⑬-7】、各委員会の開催については、毎週学内の教職員に配信される「学内報」を通じて周知している。

#### 《部科課長会議》

大学の運営全般について協議する場として、毎週月曜日に「部科課長会議」を開催しており、学長、学長補佐はじめ教学部門の責任者である学部長及び学科長、事務部門の責任者である部長・次長・課長職が全員参加し、学校行事や学校業務の円滑な遂行のための意思疎通を図っている。

### ⑭自己点検・評価

#### 《実施方法》

自己点検・評価については、「九州栄養福祉大学学則」第2条及び「九州栄養福祉大学自己点検・評価委員会規程」【資料⑭-1】において、教育水準の向上を図り、教育目的及び社会的使命を達成するために教育研究活動等の状況について点検・評価を行い公表することを規定し、平成13（2001）年度の開学以来、自己点検・評価活動を実施している。具体的な実施内容については自己点検・評価活動を取りまとめた報告書の作成や各学部学科・行政部局において年度毎の達成状況及び年度目標を策定している。

#### 《実施体制》

本学における自己点検・評価の組織については、併設の東筑紫短期大学との合同組織として、学長、学長補佐、学部長、研究科長、学生部長、教務部長、事務部長、図書館長、各学科長及び各部署の責任者を委員とする「自己点検・評価委員会」を設置している。本委員会の委員長は学長が当たる。又、認証評価機関による認証評価を受審するときは、本委員会が担当し、認証評価を受審する当該年度の自己点検・評価委員会を認証評価委員会と称する。

#### 《結果の活用・公表及び評価項目》

自己点検・評価報告書は本学ウェブサイトにおいて公表している。改善が求められる事項については自己点検・評価委員会、学長部局会議及び教授会において審議し全学的に改善に取り組んでいる。

評価項目については、教育研究上の基本組織、教員組織、教育課程、施設設備、事務組織、3つの方針、教育研究活動等の情報の公表、内部質保証、財務評価の基準及び評価の方法をふまえてミッションと教育の評価、教育課程と学生支援、教育資源と財的資源、リーダーシップとガバナンスについて評価を行っている。

この他、年に2回実施の「授業評価アンケート」をはじめ「学生支援満足度・評価アンケート」「卒業年次の学生満足度調査」「卒業生アンケート」「就職先アンケート」等教育改善

を目的にアンケートを実施している。これらの回答内容については、本学の教育理念及び教育目標の達成を PDCA サイクルによって検証評価を行い、教育改善・教育改革を推進するための組織として法人本部に設置している「IR 推進本部」において取りまとめ、自己点検・評価の結果とあわせて各学科で改善に向けての計画、さらには次年度の教育目標へ反映している。

## ⑮情報の公表

高い公共性と社会的責任を有し、積極的に情報を公表・公開して説明責任を果たすため学校教育法施行規則の規定に基づき、九州栄養福祉大学ウェブサイト内「教育情報の公表」ページにおいて教育情報を公開している。又、私立学校法に定められた情報についても、前述の情報公開ページにて必要な情報を公表している。

九州栄養福祉大学ウェブサイトトップページ<<https://www.knwu.ac.jp/>>

教育情報の公表 <<https://www.knwu.ac.jp/about/disclosure.html>>

ア 大学の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること

・教育情報の公表>1.教育研究上の基礎的な情報>教育目標と3つのポリシー

イ 教育研究上の基本組織に関すること

・教育情報の公表>2.教育研究上の基本組織に関する情報（学校法人東筑紫学園に関する基本情報）>(1)組織図

ウ 教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

・教育情報の公表>3.修学上の情報等>(1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績  
>教員組織/各教員が有する学位及び業績

エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

・教育情報の公表>3.修学上の情報等>(2) 入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数等>入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数・進学者数・就職者数/進学者数、就職者数

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・教育情報の公表＞3.修学上の情報等＞(3) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画（シラバス又は年間授業計画の概要）／(7) 「実務経験のある教員による授業科目」の一覧及び授業計画書
- カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
- ・教育情報の公表＞3.修学上の情報等＞(4) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位）／(6) 教育上の目的に応じ学生が習得すべき知識及び能力に関する情報
- キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- ・教育情報の公表＞1.教育研究上の基礎的な情報＞(5)校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境
- ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- ・教育情報の公表＞1.教育研究上の基礎的な情報＞(6)授業料、入学料その他の大学が徴収する費用
- ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- ・教育情報の公表＞3.修学上の情報等＞(5) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援／(8) 修学の支援に係る情報
- コ その他
- 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報
    - ・教育情報の公表＞3.修学上の情報等＞(6) 教育上の目的に応じ学生が習得すべき知識及び能力に関する情報
  - 学則等各種規程
    - ・教育情報の公表＞3.修学上の情報等＞(4) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位）
  - 自己点検・評価報告書，認証評価の結果
    - ・令和5年度九州栄養福祉大学自己点検・評価報告書及び令和5年度認証評価結果  
< <https://www.knwu.ac.jp/about/result.html> >

## ⑩教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、教育活動の質的向上と発展を期して、ファカルティ・ディベロップメント（以下、FD）活動の運営及び今後のあるべき方向を検討するために「【資料⑩-1】九州栄養福祉大学 FD 委員会規程」を整備している。この規程に基づき、FD 委員会では、「学生による授業評価アンケート」の実施や教職員研修会の開催等について、審議を行っている。

FD 活動は、上述の規程に基づき行われており、主な活動としては、全教職員が参加する教職員研修会が挙げられる。教職員研修会は年 2 回開催しており、学長講話の後、各担当教職員によりテーマに沿った講演・発表を行い、教育研究上の課題に対して共通理解を深めている（【資料⑩-2】令和 4 年度末及び 5 年度夏期\_教職員研修会資料）。

また、教員自身も原則週 1 回開催される「学科会議」や自主的な FD 活動として互いの授業参観などを実施するなどしており、大学全体のみならず、各学部学科独自の取り組みにより PDCA サイクルを回し、教育の質に対する点検・向上に努めている。食物栄養学部では、FD 会議で学生の動向を学科内で共有し、修学上の問題がある学生に対しては、クラス担任が教科担任と連携して、支援にあたっている。また FD 研修として教員相互の授業参観の取り組みを行い、そこでは授業の改善に向けて活発な意見交換がなされている。

教授方法の工夫・開発については、アクティブラーニングの強化に向けた取り組みを含め、各教員に一層の努力を促すと共に、公開授業や授業参観の実施など、全学的な FD 活動との連携を図りながら取り組みを継続する。

専任事務職員のスタッフ・ディベロップメント（以下、SD）活動に関する規程としては、「【資料⑩-3】九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 事務職員研修支援規程」を整備している。本規程では、本学の教育理念の実現につながる研修会、講習会、講演会への参加や、大学職員としての教養・知識・技術を修得するための書籍購入等に対して旅費や図書資料費等の経費に対する補助を定めており、各職員の SD 活動を支援している。

SD 活動については近年の大学を取り巻く諸環境から職員間でも危機意識が高まっており、大学が開催する研修とは別に、業務時間外に自発的な研修会が開催されている。同研修会はオンラインを活用して実施しており、2 拠点に分かれているキャンパスから教員及び職員が参加できる機会を提供している（【資料⑩-4】SD 活動の記録）。

また、毎週月曜日に、学長・学長補佐及び教学部門の責任者である各学科の学科長、行政部門の責任者である部長・次長・課長職が全員参加する「部科課長会議」を開催しており、教員と事務職員による意思疎通を円滑に行い、日常的に業務の見直しや事務処理の改善を行っている。

## ⑪社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### ア 教育課程内の取組について

本学の食環境データサイエンス学科では、基礎教養科目及び専門教育科目に、社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培うための科目をそれぞれ配置している（【資料⑪-1】

社会的・職業的自立に関する指導等に関連する授業科目の概要)。

基礎教養科目については、幅広い教養を涵養し、専門教育科目の履修に向けての基礎的知識・技術を修得させる。具体的には、「キャリアガイダンスⅠ・Ⅱ」では、本学の建学の精神に基づき大学生活を充実したものとし、外部講師によるビジネスマナーやコミュニケーションのスキルアップを図る取り組み等を通して、未来を切り開くための総合的基礎学習を実施する。また、「キャリアガイダンスⅢ・Ⅳ」では、本学科が理想とするデータサイエンスの専門家に必要な責任感や忍耐力、協調性や向上心に加え、新たな視点から解決策を提案できる力などの修得に向けた総合的基礎学習を実施する。また、職業人としての基礎、データサイエンティストの使命と役割、職業倫理等についての導入教育を行い、併せて「就職指導課」との連携によるキャリア教育を実施することで就職に関する目標の明確化を図る。

「食環境データサイエンス概論」では、新入生に対して「食と健康」、「農業」、「福祉」という分野におけるデータサイエンスの必要性と応用を概観し、「食環境イノベーションデザイン」では、多様な業種の企業や地方行政のリーダーたちをゲストとして招き、先進技術を軸にしたイノベーション事例を学ぶ。

専門教育科目については、「食と健康科目」及び「データサイエンス科目」において、専門分野の基本的知識・技能とともに、農業・食品産業流通分野などにおいて実践的な役割を果たし得るデータサイエンティストとしての専門的知識・技術を修得させる。更には、「食環境マネジメント科目」では、「アントレプレナー論」及び「アントレプレナー演習」において、具体的な事例を通じて新規事業立ち上げの成功と失敗について学び、自身のビジネスアイデアの具現化、プレゼンといった具体的なステップを体験し、理論を実践に結びつける。また、「インターンシップ」において、企業や組織での実際の業務に従事し、専門家から指導を受けながら専門分野に関する実践的なスキルを養う。

「卒業研究」については、3学年から約10名前後のグループに分かれ、プロジェクトベース学習科目である「データサイエンス基礎演習」及び「データサイエンス実践演習」で、実際のビジネスや社会問題に対するデータサイエンスの適用方法を実践的に学ぶ。ここではグループワーク、ハッカソン、最終発表を通じて、実践的なデータサイエンスのスキルとチームワーク能力を養う。4学年では、専門ゼミナール別の研究調査活動を行い、その成果を卒業論文として発表・発刊する。卒業研究では、産学連携を積極的に取り組み、具体的な社会課題をテーマに企業側の技術者との連携・交流を通じて、職業的な自立を図るための能力を涵養する。

#### イ 教育課程外の取組について

併設校「東筑紫短期大学」と共通で「就職指導課」を設置しており、就職指導課長1名、就職指導主事(教員)1名<sup>\*</sup>、事務職員2名の合計4名の体制で対応している。「就職指導課」では、学生が自由に利用できるノートパソコンを配置した「就職閲覧室」を整備し、学生の進路・就職に関する個別相談を常時受付け、対応している。

就職支援業務としては、求人受付から求人情報の公開業務、応募書類の一括発送や御礼状発送等の事務手続き業務、就職ガイダンスの実施、就職対策特別講座（キャリアデザイン）や公務員講座の計画及び実施、個人面談や就職相談業務、企業-大学間の情報交換会への出席、就職活動に関する各種情報の配信業務、筆記試験対策テキストの蔵書管理と貸出し業務、その他採用情報の収集などに従事している（【資料⑰-2】令和5年度就職指導課主催の講座一覧）。

「就職指導課」では、学生に対して「就職指導に関する満足度調査アンケート」を実施し、就職状況とともにアンケート結果を分析・検討し次年度以降の就職支援に役立てている（【資料⑰-3】令和5年度学生による事務局満足度調査アンケート結果抜粋）。

#### ウ 適切な体制の整備について

「就職指導課」では、窓口業務の最適化に努め、限られた時間内で公平かつ効率的な学生支援ができるよう、オンラインによる予約システム（【資料⑰-4】就職指導課予約システム）を導入するとともに、各課員が対応した内容や事後の経過等を学部所属の指導主事を含む職員間で随時共有している。また、個人情報の保護に充分留意したうえで、事案に応じて「学生指導課」とも連携し、学生生活全般及び就職活動の適切な進行に遺漏無きよう支援を行なう体制を整えている。更には、学生の研究心・創造力を育成するため、キャリア教育担当教員（クラス担任が兼ねている）を配置し、専門職としてのキャリアが段階的に形成できるように、学生支援に尽力している。

※ 平成26年度より、食物栄養学部教員1名が「就職指導課」に出向しており、同課職員と教職協働による強固な連携体制を構築している。

## 資料目次

- ・ 【資料①-1】 学校法人の現状、組織図
- ・ 【資料①-2】 カリキュラムマップ
- ・ 【資料②-1】 大学の卒業生数
- ・ 【資料④-1】 モデル時間割
- ・ 【資料⑦-1】 国際理解・インターンシップ受入施設一覧
- ・ 【資料⑦-2】 国際理解に関する大学間協力提携覚書
- ・ 【資料⑩-1】 満 60 歳以降に雇用される者の役職及び職位等委嘱に関する基準
- ・ 【資料⑫-1】 学術及び研究に寄与する雑誌一覧
- ・ 【資料⑬-1】 九州栄養福祉大学教授会規程
- ・ 【資料⑬-2】 九州栄養福祉大学教員選考規程
- ・ 【資料⑬-3】 九州栄養福祉大学 常置委員会運営規程
- ・ 【資料⑬-4】 九州栄養福祉大学 常置委員会審議事項
- ・ 【資料⑬-5】 教職課程委員会規程
- ・ 【資料⑬-6】 倫理委員会規程
- ・ 【資料⑬-7】 動物実験委員会規程
- ・ 【資料⑭-1】 九州栄養福祉大学自己点検・評価委員会規程
- ・ 【資料⑯-1】 九州栄養福祉大学 FD 委員会規程
- ・ 【資料⑯-2】 令和 4 年度末及び 5 年度夏期\_教職員研修会資料
- ・ 【資料⑯-3】 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 事務職員研修支援規程
- ・ 【資料⑯-4】 SD 活動の記録
- ・ 【資料⑰-1】 社会的・職業的自立に関する指導等に関連する授業科目の概要
- ・ 【資料⑰-2】 令和 5 年度就職指導課主催の講座一覧
- ・ 【資料⑰-3】 令和 5 年度学生による事務局満足度調査アンケート結果抜粋
- ・ 【資料⑰-4】 就職指導課予約システム

<学校法人東筑紫学園の現状：令和5年5月1日現在>

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
九州栄養福祉大学 大学院	北九州市小倉北区下到津五丁目1番1号	4人	8人	2人
九州栄養福祉大学	小倉北区キャンパス： (食物栄養学部) 北九州市小倉北区下到津五丁目1番1号 小倉南区キャンパス： (リハビリテーション学部) 北九州市小倉南区葛原高松一丁目5番1号	230人	900人	902人
東筑紫短期大学	北九州市小倉北区下到津五丁目1番1号	220人	440人	361人
東筑紫短期大学 専攻科 介護福祉専攻	北九州市小倉北区下到津五丁目1番1号	30人	30人	11人
東筑紫学園高等学校	北九州市小倉北区清水四丁目10番1号	450人	1,350人	1,121人
照曜館中学校	北九州市小倉北区清水四丁目10番1号	100人	300人	196人
認定こども園東筑紫 短期大学附属幼稚園	北九州市小倉北区下到津五丁目3番14号	240人	240人	183人



卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 子供から高齢者までの豊かな食生活と健康を支え、持続可能な社会の実現に貢献しようという使命感を有する。  
 DP2 食環境・健康分野の AI・データサイエンスに関連する専門知識と技能を修得し、多様なデータの収集・分析能力、科学的合理性に基づく判断能力を有する。  
 DP3 食環境・健康に関する現実の課題を理解し、AI・データサイエンス技術を用いて実践的な解決策を提案する能力を有する。  
 DP4 新しいアイデアやアプローチを通じて、食環境・健康分野におけるイノベーションを推進し、科学技術と社会の懸け橋となる能力を有する。  
 DP5 社会からの信頼に応えるために、卒業後も継続的な学習と自己研鑽に努める姿勢を有する。

	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
4 年次履修					●卒業研究
3 年次履修	●運動生理学 ●食品加工学 ●スポーツ栄養学 ●マーケティングリサーチ ●消費者行動論	●ニューラルネット基礎 ●データ駆動型意思決定と可視化 ● <u>フードウェルネスデータサイエンス</u>	●ニューラルネット演習 ●マルチモーダル AI 技術と応用 ●マーケティングとデータサイエンス ● <u>マネジメントとデータサイエンス</u>	●食農健康データサイエンス ●先端 AI 論 ●先端ロボティクス論 ●人間と AI ●サプライチェーンマネジメント学 ● <u>アグリビジネスマネジメント学</u>	●データサイエンス基礎演習 ● <u>データサイエンス実践演習</u>
2 年次履修	○人間関係の心理 ○リハビリテーション概論 ○健康スポーツ科学Ⅲ ○健康スポーツ科学Ⅳ ●疾病の成り立ちと病態 ● <u>食品分子機能学</u> ● <u>基礎栄養学</u> ● <u>応用栄養学</u> ● <u>臨床栄養学</u> ● <u>公衆栄養学</u> ● <u>マーケティング論</u> ● <u>流通システム論</u>	● <u>データサイエンスのための応用数学</u> ● <u>データベース入門</u> ● <u>センシングと信号処理</u> ● <u>機械学習基礎</u> ● <u>データ解析基礎</u> ● <u>バイオインフォマティクス</u>	● <u>データサイエンスのための確率統計学</u> ● <u>機械学習演習</u> ● <u>データ解析演習</u>	● <u>アントレプレナー論</u> ● <u>アントレプレナー演習</u>	○ <u>キャリアガイダンスⅢ</u> ○ <u>キャリアガイダンスⅣ</u> ○ <u>実用英語</u> ○ <u>国際理解（海外研修）</u> ○ <u>食環境地域連携演習</u> ○ <u>インターンシップ</u>
1 年次履修	○ <u>農園演習</u> ○ <u>食と経済</u> ○ <u>基礎生物学</u> ○ <u>基礎化学</u> ○ <u>化学</u> ○ <u>健康スポーツ科学Ⅰ</u> ○ <u>健康スポーツ科学Ⅱ</u> ● <u>解剖生理学</u> ● <u>生化学</u> ● <u>微生物学</u> ● <u>食品学総論</u> ● <u>食品衛生学</u>	○ <u>コンピュータリテラシー</u> ● <u>微積分学基礎</u> ● <u>データサイエンスのための微積分学</u> ● <u>線形代数基礎</u> ● <u>データサイエンスのための線形代数</u> ● <u>確率統計学基礎</u> ● <u>情報ネットワーク</u>	○ <u>AI・データサイエンス入門</u> ● <u>プログラミング基礎</u> ● <u>プログラミング演習</u>	○ <u>食環境データサイエンス概論</u> ○ <u>食環境イノベーションデザイン</u>	○ <u>キャリアガイダンスⅠ</u> ○ <u>キャリアガイダンスⅡ</u> ○ <u>実用英語の基礎Ⅰ</u> ○ <u>実用英語の基礎Ⅱ</u>

※ ○印は基礎教養科目、●印は専門教育科目

※ 下線付き科目は主要授業科目

## 九州栄養福祉大学 年次別卒業生数

令和6年3月19日

学部・学科 年度	食物栄養学部		リハビリテーション学部			合計	
	期	食物栄養学科 計	期	理学療法 学科	作業療法 学科		計
平成16年度	1期	113				113	
平成17年度	2	104				104	
平成18年度	3	109				109	
平成19年度	4	106				106	
平成20年度	5	107				107	
平成21年度	6	111				111	
平成22年度	7	123				123	
平成23年度	8	109				109	
平成24年度	9	110				110	
平成25年度	10	119				119	
平成26年度	11	112	1期	57	27	84	196
平成27年度	12	114	2	89	46	135	249
平成28年度	13	117	3	70	32	102	219
平成29年度	14	114	4	87	34	121	235
平成30年度	15	112	5	71	40	111	223
令和元年度	16	114	6	82	28	110	224
令和2年度	17	103	7	79	35	114	217
令和3年度	18	111	8	83	39	122	233
令和4年度	19	84	9	80	36	116	200
令和5年度	20	95	10	83	27	110	205
合計		2187		781	344	1125	3312

モデル時間割

学期	曜日	時限	学年	科目	必選	科目担当者	教室
前期	月	1	1	キャリアガイダンスⅠ	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-201 講義室
前期	月	1	2	人間関係の心理	選択	松本 明夫	5-301 講義室
前期	月	1	3	ニューラルネット基礎	必修	猿澤 雄一	5-302 講義室
前期	月	2	1	食と経済	選択	未定	5-201 講義室
前期	月	2	2	キャリアガイダンスⅢ	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-301 講義室
前期	月	2	3	ニューラルネット演習	必修	猿澤 雄一	5-302 講義室
前期	月	3	1	基礎生物学	選択	田畑 純	5-201 講義室
前期	月	3	2	リハビリテーション概論	選択	石橋 敏郎 廣滋 恵一 四元 孝道	5-301 講義室
前期	月	3	3	食農健康データサイエンス	必修	猿澤 雄一	5-302 講義室
前期	月	4	1				
前期	月	4	2				
前期	月	4	3				
前期	火	1	1	食環境データサイエンス概論	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-201 講義室
前期	火	1	2	アントレプレナー論	必修	村井 慶史 中野 達彦 清川 隼矢 千住 和久 小崎 竜也	5-301 講義室
前期	火	1	3	消費者行動論	選択	林 勝裕	5-302 講義室

学期	曜日	時限	学年	科目	必修	科目担当者	教室
前期	火	2	1	実用英語の基礎Ⅰ	必修	梅崎 義雄	5-201 講義室
前期	火	2	2	データサイエンスのための確率統計学	必修	赤松 貴文	5-301 講義室
前期	火	2	3	サプライチェーンマネジメント学	必修	村井 慶史 中野 達彦 清川 隼矢 千住 和久 小崎 竜也	5-302 講義室
前期	火	3	1	解剖生理学	選択	田畑 純	5-201 講義室
前期	火	3	2	健康スポーツ科学Ⅲ	選択	倉崎 信子	体育館
前期	火	3	3	食品加工学	必修	杉元 康志	5-302 講義室
前期	火	3	4	卒業研究	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-601 大講義室 ほか
前期	火	4	1				
前期	火	4	2				
前期	火	4	3				
前期	火	4	4	卒業研究	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-601 大講義室 ほか
前期	水	1	1	微生物学	必修	坂尻 徹也	5-201 講義室
前期	水	1	2	応用栄養学	選択	楠瀬 千春	5-301 講義室
前期	水	1	3	データ駆動型意思決定と可視化	選択	古川 徹生	5-302 講義室
前期	水	2	1	微分積分学基礎	必修	大庭 英樹	5-201 講義室
前期	水	2	2	データベース入門	必修	赤松 貴文	5-301 講義室
前期	水	2	3	人間と AI	必修	古川 徹生	5-302 講義室
前期	水	3	1	プログラミング基礎	必修	萩原 勇人	5-201 講義室
前期	水	3	2	国際理解（海外研修）	選択	竹並 正宏 梅崎 義雄	5-301 講義室
前期	水	3	3	基礎栄養学	必修	大庭 英樹	5-302 講義室
前期	水	4	1				

学期	曜日	時限	学年	科目	必修	科目担当者	教室
前期	水	4	2				
前期	水	4	3				
前期	木	1	1	食品衛生学	必修	坂尻 徹也	5-201 講義室
前期	木	1	2	機械学習基礎	必修	堀尾 恵一	5-301 講義室
前期	木	1	3	マーケティングとデータサイエンス	必修	渡邊 啓一	5-302 講義室
前期	木	2	1	基礎化学	選択	坂尻 徹也	5-201 講義室
前期	木	2	2	機械学習演習	必修	堀尾 恵一	5-301 講義室
前期	木	2	3	インターンシップ	選択	萩原 勇人 熊谷 彰	5-302 講義室
前期	木	3	1				
前期	木	3	2				
前期	木	3	3	フードウェルネスデータサイエンス	必修	渡邊 啓一 坂尻 徹也	5-302 講義室
前期	木	4	1				
前期	木	4	2				
前期	木	4	3				
前期	金	1	1	コンピュータリテラシー	必修	赤松 貴文	5-201 講義室
前期	金	1	2	データサイエンスのための応用数学	必修	坂尻 徹也	5-301 講義室
前期	金	1	3	マーケティングリサーチ	選択	林 勝裕	5-302 講義室
前期	金	2	1	健康スポーツ科学Ⅰ	必修	倉崎 信子	体育館
前期	金	2	2	実用英語	選択	梅崎 義雄	5-301 講義室
前期	金	2	3	データサイエンス基礎演習	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-302 講義室
前期	金	3	1				
前期	金	3	2				
前期	金	3	3				
前期	金	3	4	卒業研究	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-601 大講義室 他

学期	曜日	時限	学年	科目	必修	科目担当者	教室
前期	金	4	1				
前期	金	4	2				
前期	金	4	3				
前期	金	4	4	卒業研究	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-601 大講義室 ほか
前期	土	1	1				
前期	土	1	2				
前期	土	1	3				
前期	土	2	1	農園演習	選択	室井 由起子 佐野 幹剛	実習農園
前期	土	2	2				
前期	土	2	3				
後期	月	1	1	キャリアガイダンスⅡ	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-201 講義室
後期	月	1	2	データ解析基礎	必修	猿澤 雄一	5-301 講義室
後期	月	1	3				
後期	月	2	1	食品学総論	必修	杉元 康志	5-201 講義室
後期	月	2	2	データ解析演習	必修	猿澤 雄一	5-301 講義室
後期	月	2	3				
後期	月	3	1	健康スポーツ科学Ⅱ	必修	倉崎 信子	体育館
後期	月	3	2	キャリアガイダンスⅣ	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-301 講義室
後期	月	3	3	先端 AI 論	必修	猿澤 雄一	5-302 講義室
後期	月	4	1				
後期	月	4	2				

学期	曜日	時限	学年	科目	必修	科目担当者	教室
後期	月	4	3	先端ロボティクス論	必修	未定	5-302 講義室
後期	火	1	1	化学	必修	大庭 英樹	5-201 講義室
後期	火	1	2	臨床栄養学	選択	沖 勉	5-301 講義室
後期	火	1	3	スポーツ栄養学	選択	室井 由起子	5-302 講義室
後期	火	2	1	AI・データサイエンス入門	必修	萩原 勇人	5-201 講義室
後期	火	2	2	食品分子機能学	必修	大庭 英樹	5-301 講義室
後期	火	2	3	運動生理学	選択	倉崎 信子	5-302 講義室
後期	火	3	1	実用英語の基礎Ⅱ	必修	梅崎 義雄	5-201 講義室
後期	火	3	2	マーケティング論	選択	林 勝裕	5-301 講義室
後期	火	3	3				
後期	火	3	4	卒業研究	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-601 大講義室 ほか
後期	火	4	1				
後期	火	4	2				
後期	火	4	3				
後期	火	4	4	卒業研究	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-601 大講義室 ほか
後期	水	1	1	情報ネットワーク	必修	赤松 貴文	5-201 講義室
後期	水	1	2	食環境地域連携演習	選択	渡邊 啓一 大村 美智子 室井 由起子	5-301 講義室
後期	水	1	3	アグリビジネスマネジメント学	必修	村井 慶史 中野 達彦 清川 隼矢 千住 和久 小崎 竜也	5-302 講義室
後期	水	2	1	確率統計学基礎	必修	赤松 貴文	5-201 講義室

学期	曜日	時限	学年	科目	必修	科目担当者	教室
後期	水	2	2	アントレプレナー演習	必修	村井 慶史 中野 達彦 清川 隼矢 千住 和久 小崎 竜也	5-301 講義室
後期	水	2	3	マネジメントとデータサイエンス	必修	渡邊 啓一	5-302 講義室
後期	水	3	1	生化学	必修	渡邊 啓一	5-201 講義室
後期	水	3	2	国際理解 (海外研修)	選択	竹並 正宏 梅崎 義雄	5-301 講義室
後期	水	3	3				
後期	水	4	1				
後期	水	4	2				
後期	水	4	3				
後期	木	1	1	食環境イノベーションデザイン	必修	萩原 勇人 熊谷 彰	5-201 講義室
後期	木	1	2	疾病の成り立ちと病態	選択	沖 勉	5-301 講義室
後期	木	1	3	マルチモーダル AI 技術と応用	選択	堀尾 恵一	5-302 講義室
後期	木	2	1	データサイエンスのための微分積分学	必修	大庭 英樹	5-201 講義室
後期	木	2	2	バイオインフォマティクス	必修	渡邊 啓一 坂尻 徹也	5-301 講義室
後期	木	2	3	インターンシップ	選択	萩原 勇人 熊谷 彰	5-302 講義室
後期	木	3	1	プログラミング演習	必修	萩原 勇人	5-201 講義室
後期	木	3	2	健康スポーツ科学Ⅳ	選択	倉崎 信子	体育館
後期	木	3	3				
後期	木	4	1				
後期	木	4	2				
後期	木	4	3				
後期	金	1	1	線形代数基礎	必修	古川 徹生	5-201 講義室
後期	金	1	2	センシングと信号処理	必修	未定	5-301 講義室

学期	曜日	時限	学年	科目	必選	科目担当者	教室
後期	金	1	3	データサイエンス実践演習	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-302 講義室
後期	金	2	1	データサイエンスのための線形代数	必修	古川 徹生	5-201 講義室
後期	金	2	2	公衆栄養学	選択	大村 美智子	5-301 講義室
後期	金	2	3				
後期	金	3	1				
後期	金	3	2	流通システム論	選択	林 勝裕	5-301 講義室
後期	金	3	3				
後期	金	3	4	卒業研究	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-601 大講義室 ほか
後期	金	4	1				
後期	金	4	2				
後期	金	4	3				
後期	金	4	4	卒業研究	必修	渡邊 啓一 萩原 勇人 赤松 貴文 大庭 英樹 坂尻 徹也	5-601 大講義室 ほか
後期	土	1	1				
後期	土	1	2				
後期	土	1	3				
後期	土	2	1	農園演習	選択	室井 由起子 佐野 幹剛	実習農園
後期	土	2	2				
後期	土	2	3				

No.	受入施設名	所在地	受入可能人数	連携体制（協定の有無・内容等）	主な実習内容	実習期間
1	長庚大学	台湾桃園市亀山区文化一路259号	30人程度	姉妹関係（学術発展、友好と相互理解を進展）	薬膳、軟膏作り、中医薬講義	3日間程度
2	釜山女子大学	韓国釜山広域市 釜山鎮区 楊亭洞	30人程度	姉妹関係（学術発展、友好と相互理解を進展）	茶道、韓国語、料理、ダンス	3日間程度
3	ベルビューカレッジ	3000 Landerholm Circle SE Bellevue, WA 98007-6406 USA	10～20人程度	連携協定あり	ESL指導、オリエンテーション、幼児教育センターボランティア体験	7日間
4	ラプラセプ国際大学	Ticgahon 1 Road, Bankal, Lapu-Lapu City, Cebu Philippines 6015	プログラム次第	連携協定あり	語学留学、学生教職員との交流、学外でのボランティア活動	7日間程度

※ 受入施設名の五十音順

令和5年度実績

渡航先	主な実習内容	受講者数	実習期間
米国カリフォルニア州バームスプリングス	プロシェフによるクッキングレッスン、食材購入と調理実習、異文化体験、現地や社会人との国際交流	15人	7日間
フィリピン国ラプラセプ国際大学	学生教職員との交流（ChatGPTを使った栄養指導、折り紙体験会）、現地の子供たちとの国際交流（ボランティア含む）、異文化体験	6人	7日間
韓国	パン作り、韓服着付け、Kポップダンス	20人	4日間

No.	受入施設名	主な事業内容	所在地	受入可能人数
1	アイコムソフト株式会社	IoTインフラソリューション マイグレーションソリューション シンクライアントシステムソリューション RPA導入支援ソリューション	北九州市戸畑区牧山1-1-36	1～2人程度
2	株式会社オプティム	ライセンス販売・保守サポートサービス事業 IoTプラットフォームサービス リモートマネジメントサービス サポートサービス	東京本社：東京都港区海岸1丁目2番20号 汐留ビルディング 18F 佐賀本店：佐賀県佐賀市本庄町1 オプティム・ヘッドクォータービル 学内サテライトオフィス（令和7年4月開設予定）：本学 小倉北区キャンパス5号館内	1～5人程度
3	北九州市ロボット・DX推進センター [運営]（公財）北九州産業学術推進機構	ロボット関連事業 DX関連事業	北九州市若松区ひびきの北8-1 技術開発交流センター1F	1～5人程度
4	極東ファディ株式会社	コーヒー焙煎卸売・小売 業務用食品の卸売・小売、酒類卸売・小売	北九州市小倉北区浅野3-6-6	1～5人程度
5	クラウン製パン株式会社	パン菓子製造小売業	北九州市小倉北区泉台4-4-41	1～2人程度
6	株式会社しゅんさいくらぶ	給食受託業務（本学食堂・売店の委託業者）	北九州市小倉南区横代北町3丁目1番19号	1～2人程度
7	株式会社セキュアサイクル	情報セキュリティ及びシステム開発に関する 各種診断・対応、セミナー、コンサルティング	北九州市若松区ひびきの北8-1 技術開発交流センター 314号室	1～3人程度
8	TOTO株式会社	システムトイレ、ユニットバスルーム システムキッチン、洗面化粧台	北九州市小倉北区中島2-1-1	1～5人程度
9	株式会社ドーワテクノス	産業用プラント電機、計装設備のコーディネート 生産ラインFA化の提案、FA用各種機器の販売 電気、機械、通信、管工事の設計、施工 庁内や教育機関等への行政 教育インフラ構築 セキュリティ統合管理 ソフトの販売	北九州市八幡西区黒崎城石3-5	1～5人程度
10	株式会社ハビクロ	保育園運営事業、IT/IoT導入サポート事業 プログラミング教室	北九州市八幡西区八千代町3-16	1～3人程度
11	實結株式会社	DX支援事業 スタートアップ支援事業	北九州市小倉北区魚町1-1-9	1～3人程度

※ 受入施設名の五十音順

## 長庚大学と東筑紫短期大学との 姉妹校締結に関する協定

長庚大学（中華民国、桃園市）および東筑紫短期大学（日本国、福岡県、北九州市）（以下「両大学」という）は友好と相互理解を進展させる意図のもとに協定を締結するものとする。

1. 両大学は、相互に合意された諸活動および教職員、学生間の友好関係を発展させるために協力するものとする。
2. この協定に基づく各交流プログラムの施行にあたっては、両大学の学長が指名する実務者間の別途の合意により決定する。
3. 両大学は、前項の目的を達成するために、つぎの諸活動を行うことを奨励する。
  1. 教育、学術、文化関係の資料、経験および知識の交換
  2. 教職員、学生の相互交流
  3. その他、両大学間で合意を得た活動
4. この協定は、両大学の学長の是認および署名により、発効するものとする。
5. この協定は、相互の合意のもとに随時改定または修正できるものとし、またいずれか一方の文書による通知により解除されるものとする。
6. この協定書は、中国語および日本語で作成し、各書面同一の効力を有する。

2017年 5月16日  
長庚大学  
中華民国桃園市

長庚大学学長



2017年6月2日  
東筑紫短期大学  
日本国福岡県北九州市

東筑紫短期大学学長



## 長庚大學暨東筑紫短期大學締結姐妹校協議書

長庚大學(中華民國桃園市)與東筑紫短期大學(日本國福岡縣北九州市)為促進雙方發展與交流，締結為姊妹校並達成以下協議：

1. 兩校基於發展雙方教職員生的友好關係，商定交流活動。
2. 為落實本協議，雙方校長另指派專人進行合作內容之協商。
3. 雙方交流活動包含以下內容
  - (1) 教育、學術、文化等資料、經驗與知識交流。
  - (2) 教職員與學生互訪交流。
  - (3) 其他雙方合意之交流活動。
4. 本協議書經雙方簽署後即時生效。
5. 本協議之修訂或解除經雙方協商後重新簽署即生效。
6. 本協議書中文及日文版各一式二份，簽署後雙方各執一份為憑。

長庚大學  
台灣桃園市龜山區文化一路 259 號

校長

包忠勳

2017 年 5 月 16 日

東筑紫短期大學  
日本福岡縣北九州市小倉北區下到  
津 5-1-1

校長

室井廣一

2017 年 6 月 2 日

## 釜山女子大学と東筑紫短期大学 との姉妹校締結に関する協定書

釜山女子大学（大韓民国、釜山市）および東筑紫短期大学（日本国、福岡県、北九州市）（以下「両大学」という）は友好と相互理解を進展させる意図のもとに協定を締結するものとする。

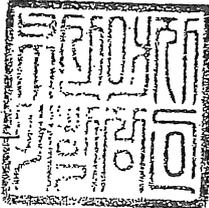
1. 両大学は、相互に合意された諸活動および教職員、学生間の友好関係を発展させるために協力するものとする。
2. この協定に基づく各交流プログラムの施行にあたっては、両大学の学長が指名する実務者間の別途の合意により決定する。
3. 両大学は、前項の目的を達成するために、つぎの諸活動を行うことを奨励する。
  1. 教育、学術、文化関係の資料、経験および知識の交換
  2. 教職員、学生の相互交流
  3. その他、両大学間で合意を得た活動
4. この協定は、両大学の学長の是認および署名により、発効するものとする。
5. この協定は、相互の合意のもとに随時改定または修正できるものとし、またいずれか一方の文書による通知により解除されるものとする。
6. この協定書は、韓国語および日本語で作成し、各書面同一の効力を有する。

2001年 9月15日

釜山女子大学  
大韓民国釜山市

정남이

鄭 南 伊  
釜山女子大学長



2001年 9月15日

東筑紫短期大学  
日本国福岡県北九州市

室井 廣

室 井 廣  
東筑紫短期大学長



# MEMORANDUM OF AGREEMENT

Between

**Lapulapu-Cebu International College**

Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines

And

**Kyushu Nutrition Welfare University**

**Higashi Chikushi Junior College**

Kitakyushu, Japan

In order to promote friendship and cooperation through a mutually beneficial association, Lapulapu-Cebu International College and Kyushu Nutrition Welfare University/Higashi Chikushi Junior College, located at 5-1-1 Shimoitozu Kokurakita-ku Kitakyushu, agree to the following:

1. The two institutions shall promote the following programs:
  - 1.1 Exchange of students and faculties;
  - 1.2 Exchange of academic information and publications;
  - 1.3 Other exchanges of an academic nature agreed upon by both parties.
2. The detailed provisions of each exchange program shall be developed and agreed upon in writing by both institutions.
3. This Agreement shall become effective of the date of signature by the representatives of the two institutions, and shall remain in effect for a period of five (5) years. The agreement will be renewed for additional periods of five (5) years unless either party provides written notice of termination at least 6 months prior to the termination date.
4. This Agreement may be amended or modified from time to time following consultation and agreement in writing by both institutions.
5. This Agreement is drawn up in duplicate versions in English and in Japanese, with both versions having equal validity, and each party to the Agreement will retain one copy of each version.

For and on behalf of  
Lapulapu-Cebu International College

  
Grace R. Gorospe-Jamon, President PhD

2023.10.9  
Date

For and on behalf of  
Kyushu Nutrition Welfare University  
Higashi Chikushi Junior College

  
Hiroichi Muroi, President and CEO

2023.10.3  
Date

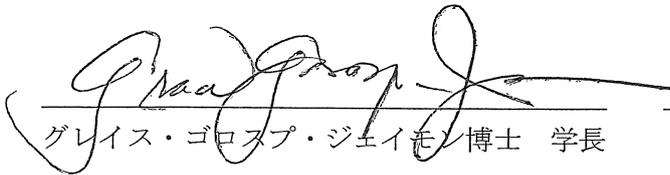
フィリッピン国セブ・ラプラプ市ラプラプ・セブ国際大学と  
日本国北九州市の九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学間の協定覚書

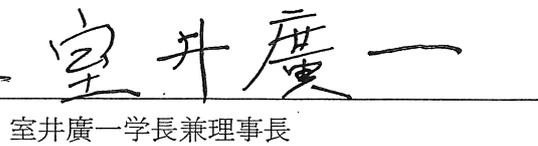
ラプラプ・セブ国際大学と北九州市小倉北区下道津 5-1-1 にある九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学は、相互に益をもたらす為、連携を結び、親交と協力を深めるため、下記の事項に合意する：

1. 両当事者は、下記のプログラムを推進する。
  - 1.1 学生及び教職員の交流
  - 1.2 学術上の情報や刊行物の交換
  - 1.3 両当事者が合意する他の学術的なものの交換
2. 各々の交流プログラムの具体的な規定は、両当事者により協議され、書面により合意されるものとする。
3. この協定は、両当事者の代表者が署名した日に発効し、5年間有効とする。この協定は、満期の少なくとも6か月前に、いずれかの当事者が、書面による解約の申し入れをしない限り、さらに、5年間更新される。
4. この協定は、相互による協議と合意により、時にふれて、改定あるいは、修正できる。
5. この協定は、英語と日本語の一对で作成され、どちらも同一の効力を持ち、当事者双方が、それぞれ1通を保管する。

ラプラプ・セブ国際大学代表

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学代表

  
グレイス・ゴロスプ・ジェイ博士 学長

  
室井廣一学長兼理事長

2023 10.9  
日付

2023. 10. 3  
日付

# MEMORANDUM OF AGREEMENT

Between

**BELLEVUE COLLEGE**

Bellevue, WA, USA

And

**KYUSHU NUTRITION WELFARE UNIVERSITY / HIGASHI**

**TSUKUSHI JUNIOR COLLEGE**

Kitakyushu, JAPAN

In order to promote friendship and cooperation through a mutually beneficial association, Bellevue College and Kyushu Nutrition Welfare University / Higashi Tsukushi Junior College, located at 5-1-1 Shimoitozu Kokurakita-ku Kitakyushu, agree to the following:

1. The two institutions shall promote the following programs:
  - 1.1 Exchange of students and faculty;
  - 1.2 Exchange of academic information and publications;
  - 1.3 Other exchanges of an academic nature agreed upon by both parties.
2. The detailed provisions of each exchange program shall be developed and agreed upon in writing by both institutions.
3. This Agreement shall become effective of the date of signature by the representatives of the two institutions, and shall remain in effect for a period of five (5) years. The agreement will be renewed for additional periods of five (5) years unless either party provides written notice of termination at least 6 months prior to the termination date.
4. This Agreement may be amended or modified from time to time following consultation and agreement in writing by both institutions.
5. This Agreement is drawn up in duplicate versions in English and in Japanese, with both versions having equal validity, and each party to the Agreement will retain one copy of each version.

For and on behalf of Bellevue College

For and on behalf of Kyushu  
Nutrition Welfare University and  
Higashi Chikushi Junior College

  
\_\_\_\_\_  
Dr. Jerry Weber, President

  
\_\_\_\_\_  
Hiroichi Muroi, President and CEO

\_\_\_\_\_  
Date 11/8/19

\_\_\_\_\_  
Date 10/15/2019

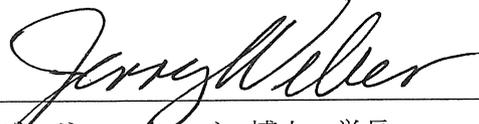
## ベルビューカレッジと九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学間の協定覚書

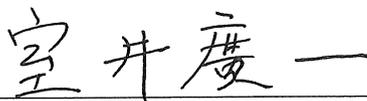
アメリカ合衆国ワシントン州ベルビュー市にあるベルビューカレッジと日本国福岡県北九州市にある九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学は、相互に有益をもたらす為、連携を結び、親交と協力を深めるため、下記の事項に合意する：

1. 両当事者は、下記のプログラムを推進する。
  - 1.1 学生と教職員の交流
  - 1.2 学術上の情報や刊行物の交換
  - 1.3 両当事者が合意する他の学術的なものの交換
2. 各々の交流プログラムの具体的な規定は、両当事者により協議され、書面により合意されるものとする。
3. この協定は、両当事者の代表者が署名した日に発効し、5年間有効とする。この協定は、満期の少なくとも6か月前に、いずれかの当事者が、書面による解約の申し入れをしない限り、さらに、5年間更新される。
4. この協定は、相互による協議と合意により、時にふれて、改定あるいは、修正できる。
5. この協定は、英語と日本語の一对で作成され、どちらも同一の効力を持ち、当事者双方が、それぞれ1通を保管する。

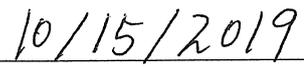
ベルビューカレッジ代表

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学代表

  
ジェリー・ウェバー博士、学長

  
室井廣一、学長兼代表理事

  
日付

  
日付

## 満60歳以降に雇用される者の役職及び職位等委嘱に関する規準

第1条 この規準は、『学校法人東筑紫学園定年退職者の再雇用に関する規程』により満60歳以降引き続き雇用された教職員の役職及び職位等の委嘱に関する事項を定めることを目的とする。

第2条 高年齢者雇用安定法に則り、専任職員であった者を定年年令（満60歳）を超えて引き続き雇用する場合は満65歳までとし、契約は1年毎の更新とする。なお、期限付き雇用者についても満65歳を超えて雇用しないことを原則とする。

第3条 全ての専任職員は、定年年令（満60歳）到達以降に雇用されるときは、特別な場合を除き教育職に在っては職位（教授、准教授、講師等）、行政職にあつては役職（部長、課長等）を委嘱しないことを原則とする。この場合、大学及び短期大学の教員については「特任」職を委嘱する。

第4条 前条の規定に拘らず定年年令（満60歳）到達以降再雇用するに当たり、学校の必要により役職・職位を委嘱することがある。この場合、役職の任期規程に依らず委嘱期間は1年間とし、役職・職位の委嘱年齢は満65歳を超えないことを原則とする。

第5条 前条の役職・職位を委嘱された者が、更に満65歳を超えて再雇用される場合には、役職を委嘱しない。

この場合、『就業規則』第50条第1項に定めるとおり、大学・短期大学の専任の教育職員については役職は委嘱しないが、職位を委嘱することが出来る。

第6条 大学等設置時に文部科学省から教授として認可された教員は、満75歳に到達するまでの間同職位及び同等以上の役職を委嘱することが出来る。

第7条 概ね60歳以降特に外部から招聘された者（管理職及び教授・准教授・講師等）は、満72歳に到達するまでの間同等若しくは同等以上の役職・職位を委嘱することが出来る。

### 附 則

- 1 この規準は平成25年4月1日から施行する。
- 2 この改正規準は平成26年4月1日から施行する。

## 食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

## 学術及び教育・研究に寄与する雑誌一覧

雑誌名	出版社
<b>【新規購入予定】和雑誌</b>	
・ Interface	CQ出版社
・ コンピュータソフトウェア	岩波書店
・ 情報処理	情報処理学会
・ 数理科学	サイエンス社
・ 統計	日本統計協会
・ 日経NETWORK	日経BPマーケティング
・ 日経エレクトロニクス	日経BPマーケティング
・ 日経コンピュータ	日経BPマーケティング
・ 日経ソフトウェア	日経BPマーケティング
・ 農業と経済	英明企画編集
・ 農耕と園芸	誠文堂新光社
<b>【所蔵】和雑誌</b>	
・ 生化学	日本生化学会
・ 日本臨床	日本臨床社
・ 実験医学	羊土社
・ 日本健康学会誌	日本健康学会
・ 総合診療	医学書院
・ 小児科臨床	総合医学社
・ FFIジャーナル	FFIジャーナル編集委員会
・ Food style21	食品化学新聞社
・ 臨床と微生物	近代出版
・ 食と健康	日本食品衛生協会
・ 食品衛生学雑誌	日本食品衛生学会
・ 月刊HACCP	鶏卵肉情報センター
・ 日本食品科学工学会誌	日本食品科学工学会
・ 栄養	ジェフコーポレーション
・ 栄養学雑誌	日本栄養改善学会
・ 日本栄養士会雑誌	日本栄養士会
・ 栄養学レビュー	女子栄養大学出版部
・ 栄養と料理	女子栄養大学出版部
・ 臨床栄養	医歯薬出版
・ Medical nutritionist of PEN leaders	フジメディカル出版
・ アレルギーの臨床	北隆館
・ 学校保健研究	日本学校保健学会
・ 食と医療	講談社エディトリアル
・ ヘルスケアレストラン	日本医療企画
・ Nutrition Care	メディカ出版
・ 臨床スポーツ医学	文光堂
<b>【新規購入予定】外国雑誌(PR)</b>	
・ Japanese Journal of Mathematics (3rd Series)	Springer Nature

食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

学術及び教育・研究に寄与する雑誌一覧

雑誌名	出版社
<b>【新規購入予定】外国雑誌(OJ)</b>	
・ Biometrika	Oxford University Press
・ Journal of Cognitive Neuroscience	The M.I.T. Press
・ Mathematical Proceedings of the Cambridge Philosophical Society	Cambridge University Press
・ Neural Computation	The M.I.T. Press
<b>【所蔵】外国雑誌(PR)</b>	
・ The Lancet	The Lancet LTD
・ Appetite	Elsevier Science
・ Food Science Technology Research	Japanese Society for Food Science and Technology
・ Journal of the American Nutrition Association	Taylor & Francis Limited
・ Journal of the Academy of Nutrition and Dietetics	W.B.Saunders Co.
・ Nutrition Reviews	Oxford University Press
・ Nutrition : International Journal of Applied and Basic Nutritional Sciences	W.B.Saunders Co.
<b>【所蔵】外国雑誌(OJ)</b>	
・ The Journal of Nutrition	Science Direct (提供元)
・ The American Journal of Clinical Nutrition	Science Direct (提供元)

## 九州栄養福祉大学教授会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、九州栄養福祉大学学則第57条の規定に基づき、教授会の組織及び運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 九州栄養福祉大学に教授会を置く。教授会は学長、学長補佐及び当該学部に所属する教授をもって組織する。

2 教授会は、学長が必要と認めるときは、准教授、講師及び助教、その他の専門性を有する職員を加えて、「拡大教授会」とし、本規程第3条に規定する事項について審議することができる。

(審議事項等)

第3条 教授会は次に掲げる教育研究に関する事項を審議する。尚、教授会は次の事項に関して、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

一 学位の授与

二 学則及びその他学内規則の制定・改廃に関する事項

三 教育課程及び授業に関する事項

四 入学試験に関する事項

五 学生の試験並びに課程修了に関する事項

六 学生の入学、成績考査及び卒業に関する事項

七 学生の厚生補導及び賞罰に関する事項

八 教員の教育研究及び教育研究業績等の審査に関する事項

但し、資格審査に関する教育研究業績等の審査に関しては、「九州栄養福祉大学教員選考規程」に基づくものとする。

九 自己点検・評価に関する事項

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(教授会の招集)

第4条 教授会は学長がこれを招集する。ただし学長にやむを得ざる支障ある場合は、学長補佐がこれに代わって招集することがある。

2 学長は教授会の構成員の3分の2以上から議題を示して要求があった場合には、要求のあった日から7日以内に教授会を招集しなければならない。

3 学長は教授会の議長となる。ただし学長にやむを得ざる支障ある場合は、学長補佐が代行する。

(議事)

第5条 教授会は構成員の3分の2以上の出席がなければ開催することは出来ない。

2 教授会の議事は、出席者の過半数が決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(開会日)

第6条 教授会は原則として毎月第4月曜日に開会する。

(委員会など)

第7条 教授会に設ける委員会は、常置の委員会と随時に特設する委員会の二種類とする。

2 委員会に関する規程は別に定める。

(事務)

第8条 教授会の事務は、教務課において処理する。

附 則

(施行期日)

この規程は平成13年4月1日から施行する。

附 則

この改正規程は平成19年4月1日から施行する。

附 則

この改正規程は平成27年4月1日から施行する。

附 則

この改正規程は平成29年4月1日から施行する。

# 九州栄養福祉大学教員選考規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人東筑紫学園就業規則第32条及び33条の規定により九州栄養福祉大学において任用される教員の選考等に関する基準及び手続きについて、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 教員 専任の教授、准教授、講師、助教及び助手をいう。
- 二 任用 採用（配置換えによる転入を含む。）及び昇格をいう。

(教授の資格)

第3条 教授になることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、研究上の業績を有する者
- 二 研究上の業績が前号の者に準ずると認められる者
- 三 学位規則（昭和28年文部省令第9号）第五条の二に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する実務上の業績を有する者
- 四 大学において教授、准教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者
- 五 芸術、体育等については、特殊の技能に秀でていと認められる者
- 六 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

(准教授の資格)

第4条 准教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 前条各号のいずれかに該当する者
- 二 大学において助教又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。）のある者
- 三 修士の学位又は学位規則第五条の二に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
- 四 研究所、試験所、調査所等に在職し、研究上の業績を有する者
- 五 専攻分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者

(講師の資格)

第5条 講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 第3条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者
- 二 その他特殊専攻分野について、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

(助教の資格)

第6条 助教となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 第3条又は第4条各号のいずれかに該当する者
  - 二 修士の学位（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を修了した者については、学士の学位）又は学位規則第五条の二に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
  - 三 専攻分野について、知識及び経験を有すると認められる者
- （助手の資格）

第7条 助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 学士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
- 二 前号の者に準ずる能力を有すると認められる者
- 三 専攻分野について、知識及び経験を有すると認められる者

（非常勤講師の資格）

第8条 非常勤講師となることのできる者は、第3条、第4条、第5条、第6条のいずれかに該当する者とする。

（教員資格等審査委員会）

第9条 教授会に、教員の資格等を審査するために教員資格等審査委員会（以下「資格審査委員会」という。）を置く。

（資格審査委員会の組織）

第10条 資格審査委員会は、学長が委嘱した者で組織する。

（委員長）

第11条 委員長は、学長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（教授会への報告）

第12条 資格審査委員会は調査審議した結果を教授会へ報告するものとする。

附 則

（施行期日）

この規程は平成13年4月1日から施行する。

附 則

この改正規程は平成17年4月1日から施行する。

附 則

この改正規程は平成19年4月1日から施行する。

附 則

この改正規程は平成21年4月1日から施行する。

附 則

この改正規程は平成27年4月1日から施行する。

## 九州栄養福祉大学常置委員会運営規程

(総則)

第1条 教授会規程第7条第2項の規定によりこの規程を定める。

(常置委員会の種類)

第2条 常置委員会は次のとおりとする。

- 一 教務委員会
- 二 学生委員会
- 三 厚生委員会
- 四 図書館運営委員会

第3条 常置委員会は各委員会の事項を適正かつ効果的にするため自主的に審議し、その結果を教授会に報告するものとする。但し、学長の判断により、内容によっては、必要に応じて審議を行い、その最終決定は学長が行う。

(権限)

第4条 各常置委員会は教授会の精神にのっとり審議運営される教授会の付託審議機関である。

- 2 各常置委員会で審議された内容について教授会はこれを尊重しなければならない。

(構成)

第5条 常置委員会は教授会により推薦された教職員によって構成する。

- 2 各常置委員会の委員の構成方法は別に定める。
- 3 各常置委員会は委員長を互選する。
- 4 各委員長は必要に応じ委員長会を開くことができる。

(審議事項)

第6条 常置委員会はそれぞれの審議事項について審議する。

- 2 それぞれの審議事項は別に定める。

(招集)

第7条 常置委員会は委員長が招集する。

- 2 委員長が事故あるときは、互選により選出された委員が、その任を代行する。
- 3 各常置委員会は学長、教授会、委員長が必要と認めるとき、及び構成員の4分の1以上の要求のあったとき招集する。

(議長)

第8条 各常置委員会の議長は委員長とする。

(開始予告)

第9条 各常置委員会は招集の必要あるとき、その3日前に日時、場所及び議題を各所属委員に示達しなければならない。

2 ただし緊急な場合はこの限りではない。

(成立)

第10条 各常置委員会は構成員の過半数が出席することによって成立する。

(議決)

第11条 各常置委員会の議決は出席者の3分の2以上をもって決し、賛否同数のときは、議長の決するところによる。

2 議事を採決する場合に議長は加わらないものとする。

3 議事はこれを記録して保管し、その事務は互選により書記を設けて処理する。

(その他)

第12条 各常置委員会の細則は別に定める。

(任期)

第13条 各常置委員の任期は4月1日から3月31日までとする。

附 則

(施行期日)

この規程は平成13年4月1日から施行する。

(施行期日)

この規程は平成27年4月1日から施行する。

## 九州栄養福祉大学常置委員会審議事項

第1条 常置委員会運営規程第6条第2項の規定により各常置委員会審議事項を定める。

第2条 教務委員会の審議事項は次のとおりとする。

- 一 教育・研究の企画・立案・実施に関する事項
- 二 研究紀要に関する事項。ただし実施については編集委員会が行う。
- 三 教育課程の編成・変更・実施に関する事項
- 四 学生の学業成績に関する事項
- 五 学籍に関する事項
- 六 研究生・委託生・科目等履修生・特別聴講学生に関する事項

第3条 学生委員会の審議事項は次のとおりとする。

- 一 学生の生活指導に関する事項
- 二 学生の賞罰に関する事項
- 三 学友会活動に関する事項
- 四 学友会館等の運営に関する事項

第4条 厚生委員会の審議事項は次のとおりとする。

- 一 学生の厚生に関する事項（学生の健康管理・就職・奨学等）
- 二 学生の厚生施設に関する事項（学生寮・下宿・食堂・売店等）
- 三 授業料・その他諸納入金の減免に関する事項

第5条 図書館運営委員会の審議事項は次のとおりとする。

- 一 図書館の予算・決算に関する事項
- 二 図書館資料の選択、管理運用に関する事項
- 三 図書館諸規程の改廃に関する事項
- 四 視聴覚に関する事項
- 五 その他、図書館の管理運営に関する事項

2 図書館は東筑紫短期大学と共用のために、東筑紫短期大学図書館運営委員会と協調（共同）して運営しなければならない。

附 則

- 1 この規則は平成13年4月1日から施行する。
- 2 この改正規則は平成16年4月1日から施行する。
- 3 この改正規則は平成27年4月1日から施行する。

## 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学教職課程委員会規程

- 第1条 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学に、教職課程委員会（以下「委員会」という。）を置く。
- 第2条 教職指導体制確立のため教職課程委員会を設置し、教職課程に関する次の事項を審議する。
- (1) 課程編成に関すること。
  - (2) カリキュラムの検証及び改善に関すること。
  - (3) 課程認定に関すること。
  - (4) 教育実習に関すること。
  - (5) 教員免許状更新講習に関すること。
  - (6) その他必要な事項。
- 第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。
- (1) 学長補佐
  - (2) 教職課程主任教授及び委員長が指名した教職課程に係る科目の担当教員
  - (3) 教務部長
  - (4) 教務課長
  - (5) その他、委員長が指名した者
- 2 委員の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。
- 第4条 委員会に委員長を置き、学長補佐がその任に当たる。
- 2 委員長は、委員会の業務を総括するとともに、委員会を招集し、その議長となる。
- 第5条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。
- 第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。
- 第7条 委員会の事務は、教務部教務課において処理する。
- 第8条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が定める。

### 附 則

この規程は平成21年4月1日から施行する。

この改正規程は平成29年4月1日から施行する。

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学倫理委員会規程

平成 17 年 4 月 1 日制定

平成 27 年 4 月 1 日改正

平成 29 年 4 月 1 日改正

(設置)

第 1 条 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学（以下「本学」という。）に、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学倫理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は、本学において行われる人間を直接対象とした研究が、ヘルシンキ宣言（最新の修正を含む。）、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成 26 年 12 月 22 日文科科学省・厚生労働省告示。）に沿って正しく実施されるか否かについて審議及び審査することを目的とする。

(審議及び審査事項)

第 3 条 委員会は、次の事項について審議及び審査する。

- 一 前条に関する問題について学長から諮問があった事項
- 二 研究等の実施計画の適否に関する事項
- 三 委員会が必要と認めた事項

(組織)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 学長補佐 3 名
  - 二 学部長 2 名
  - 三 教務部長 2 名
  - 四 九州栄養福祉大学（各学部）から選出された教員 若干名
  - 五 東筑紫短期大学から選出された教員 若干名
  - 六 教務部、学生部、事務部から選出された職員 若干名
  - 七 学外の学識経験者 1 名
  - 八 研究対象者の観点も含めて一般の立場から意見を述べることができる学外の者 1 名
- 2 委員会が必要と認めるときは、特定の審議事項について学外の学識経験者から意見を聴くことができる。

(委嘱)

第 5 条 前条第 1 項に定める委員は、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学の各教授会の議を経て、学長がこれを委嘱する。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、第4条第1項第1号に規定する学長補佐をもって充てる。

- 2 委員長は、会務を統括する。
- 3 委員会に副委員長を置き、委員長が委員の中から指名する。
- 4 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代行する。

(任期)

第7条 第4条第1項第3号から第7号に定める委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任することができる。

(会議の開催)

第8条 委員会は、原則として毎月1回開催する。ただし、委員長が必要と認めたとき又は委員の3分の1以上の者から付議すべき事項を示して開催請求があったときは、臨時に委員会を開催することができる。

(申請及び審査結果)

第9条 研究等を実施しようとする者（以下「申請者」という。）は、倫理審査申請書（様式第1号）に所要事項を記入のうえ、当該申請者の所属する九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学の学科長（以下「所属長」という。）を経て学長に提出し、その許可を得なければならない。

- 2 学長は、倫理審査申請書を受理したときは、当該申請に係る研究等の実施計画の適否について、委員会の意見を求めるものとする。
- 3 委員会は、前項の学長から諮問があった研究等について審査を終了したときは、その結果を文書により学長に答申するものとする。
- 4 学長は、委員会の答申を尊重して当該研究等の実施の可否について決定し、審査結果通知書（様式第2号）により、所属長を経て申請者に通知するものとする。

(会議及び議決)

第10条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。ただし、研究等に関する審査の判定を行う場合は、委員の3分の2以上の出席がなければ会議を開き、議決をすることができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決する。ただし、研究等に関する審査の判定については、次の各号に掲げる表示により行うものとし、出席委員の3分の2以上をもって決する。
  - 一 承認
  - 二 条件付承認
  - 三 変更の勧告

- 四 不承認
- 五 非該当
- 六 その他

4 第4条第1項に定める委員が、研究等に関する審査の申請をした場合、当該委員は、その審査の審議及び議決に加わることができない。

(意見の聴取等)

第11条 委員会が必要と認めるときは、関係者に対し、資料の提出、意見の開陳その他必要な協力を求めることができる。

(答申又は報告)

第12条 委員会は、第3条第1項第1号から第3号に規定する事項について審議を終了したときは、その結果を文書により学長に答申又は報告するものとする。

(研究等の内容の変更)

第13条 第9条第4項の規定に基づき研究等の実施を認められた者(以下「研究者」という。)は、当該研究等の内容を変更しようとするときは、その都度、倫理審査変更申請書(様式第3号)に所要事項を記入のうえ、所属長を経て学長に提出し、その許可を得なければならない。

2 第9条第2項、第3項及び第4項の規定は、研究等の内容の変更申請について準用する。

(報告義務等)

第14条 研究者は、研究等を終了又は中止したときは、研究等終了・中止・経過報告書(様式第4号)により、学長に報告しなければならない。

2 研究者は、研究等の期間が1年を超えるときは、1年ごとに当該研究等の経過を前項の報告書により、学長に報告しなければならない。

3 学長は、必要があると認めるときは、前項の報告を受けた研究等の実施状況について、委員会の意見を求めるものとする。

4 委員会は、前項の学長から諮問があった研究等について審査を終了したときは、その結果を文書により学長に答申するものとする。

5 学長は、前項の答申を受け必要があると認めるときは、研究者に対して当該研究等の内容の変更又は中止を命ずるものとする。

(議事録及び審査記録の保存)

第15条 委員会には、議事録及び審査記録を備えなければならない。

2 前項の議事録は、次回の委員会に提出し、その承認を得なければならない。

3 議事録及び審査記録は、これを永久に保存する。

(議事録及び審査記録の閲覧又は公開)

第 16 条 委員会は、前条の議事録及び審査記録の閲覧又は公開の申請があったときは、学長の許可を得て、原則としてこれを閲覧させ、又は公開するものとする。ただし、個人の人権又は研究内容に関する知的財産権の保護に支障をきたすおそれがある項目については非公開とすることができる。

(専門委員会)

第 17 条 委員会には、専門的事項について調査審議させるため、専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会の委員は、委員会の議を経て、学長がこれを委嘱する。
- 3 専門委員会で調査審議した事項は、委員会に報告しなければならない。
- 4 専門委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(モニタリング及び監査)

第 18 条 研究者は、研究の信頼性の確保に努めなければならない。

- 2 研究者は、侵襲（軽微な侵襲を除く。）を伴う研究であって介入を行うものを実施する場合には、倫理委員会による審査を通過し、学長の許可を受けた研究計画書に定めるところにより、モニタリング及び必要に応じて監査を実施しなければならない。
- 3 研究者は、学長の許可を受けた研究計画書に定めるところにより適切にモニタリング及び監査が行われるようモニタリングに従事する者及び監査に従事する者に対して必要な指導及び管理を行わなければならない。
- 4 研究者は、監査の対象となる研究等の実施に携わる者及びそのモニタリングに従事する者に、監査を行わせてはならない。
- 5 モニタリングに従事する者は、当該モニタリングの結果を研究者に報告しなければならない。
- 6 監査に従事する者は、当該監査の結果を研究者に報告するとともに、所属長を経て学長に報告しなければならない。
- 7 モニタリングに従事する者及び監査に従事する者は、その業務上知り得た情報を正当な理由なく漏らしてはならない。その業務に従事しなくなった後も同様とする。

(教育・研修)

第 19 条 学長及び所属長は、研究に関する倫理並びに研究の実施に必要な知識及び技術に関する教育・研修を受けなければならない。

- 2 研究者は、研究の実施に先立ち、研究に関する倫理並びに当該研究の実施に必要な知識及び技術に関する教育・研修を受け、かつ、研究期間中も適宜継続して教育・研修を受けなければならない。
- 3 倫理委員会委員は、審査及び関連する業務に先立ち、倫理的観点及び科学的観点からの審査等に必要知識を習得するための教育・研修を受け、かつ、その後も適宜継続して教育及び研修を受けなければならない。

(規程の改廃)

第 20 条 この規程の改廃は、教授会の議を経て行うものとする。

(事務処理)

第 21 条 委員会の庶務は、倫理委員会事務局において処理する。

(雑 則)

第 22 条 この規程に定めるもののほか、委員会の議事及び運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定めるものとする。

附 則

この改正規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

ただし、改正後の第 18 条の規程は平成 27 年 10 月 1 日から施行する。

この改正規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

(様式第 1 号)

## 倫 理 審 査 申 請 書

年 月 日

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

学長 殿

所 属

職 名

申請者名

㊞

所属長名

㊞

※受付番号第 号

1 課題名
2 実施責任者 所属 職名 氏名
3 実施分担者 所属 職名 氏名
4 実施事項等の概要 (1) 目的 (2) 対象 (3) 方法 (4) 評価内容 (5) 期待される成果 (6) その他
5 実施計画（詳細を明記のこと） (1) 対象：主な選択基準、主な除外基準 (2) 方法 (3) 評価内容：主要評価項目、副次的評価項目 (4) 期間：○年○月～○年○月 (5) 場所（施設・機関） (6) 研究の終了、中止・中断基準 (7) 有害事象 (8) 統計解析

6	研究の客観的意義（研究の科学的合理性の根拠）
7	<p>実施事項等における倫理的配慮について</p> <p>(1) 対象者の自由な選択の保障</p> <p>(2) 対象者のプライバシー確保に関する対策</p> <p>(3) 対象者に理解を求め、同意を得る方法（インフォームドコンセントの手順：説明書、同意書、撤回書）</p> <p>(4) 研究結果の対象者への開示及び公表の方法</p> <p>(5) 対象者から採取した生体試料の取り扱いについて（保管・廃棄方法など）</p> <p>(6) 対象者から採取した生体試料の目的外利用について</p> <p>(7) モニタリング及び監査方法（侵襲を伴う介入研究の場合。但し、軽微な侵襲を除く）</p> <p>(8) 倫理委員会の審査（複数施設にまたがる場合）</p>
8	考えられる対象者への危険性及び不利益並びにそれらが生じた場合の措置方法
9	<p>研究の費用</p> <p>(1) 研究の資金源および利益相反</p> <p>(2) 被験者への金銭の支払い</p>
10	知的財産権の発生について
11	緊急時の連絡先
12	その他

注：※印は記入しないこと

(様式第2号)

## 審査結果通知書

年 月 日

申請者

殿

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学  
学長 ⑩

受付番号第 号

課題名

研究者名

上記課題の実施の可否については、 年 月 日の九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学倫理委員会の審査結果を踏まえ、下記のとおり決定したので通知します。

### 記

内 決 容 定	承認 条件付承認 変更の勧告 不承認 非該当 その他
帯 承 条 認 件 附	1 実施事項等の対象となる者の同意書の写しを、速やかに提出すること。 2 実施結果等は、速やかに報告すること。なお、一定期間経過観察を必要とするものについては、適宜経過報告を行うこと。
不 条 承 件 認 の 理 変 由 更 ・	

(様式第3号)

## 倫理審査変更申請書

年 月 日

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

学長 殿

所 属

職 名

申請者名

㊞

所属長名

㊞

※受付番号第 号

1 課 題 名		
2 変更理由		
3 変更内容	変 更 前	変 更 後

注：1 ※印は記入しないこと。

2 変更内容欄は、承認された研究等に係る倫理審査申請書の申請内容のうち変更する項目ごとに記載すること。

(様式第4号)

## 研究等終了・中止・経過報告書

年 月 日

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

学長 殿

所 属

職 名

申請者名

㊞

所属長名

㊞

※受付番号第 号

1	課題名			
2	実施責任者	所属	職名	氏名
3	実施分担者	所属	職名	氏名
4	研究等の終了、中止、経過の概要			
5	その他の報告事項			

注：※印は記入しないこと。

(様式第5号)

## 同意書

殿

令和 年 月 日

私は今回、令和〇年〇月より令和〇年〇月まで、＜施設名称＞で実施される「研究題名」について、事前に説明文書を受け取り、研究担当者から、それに基づいて研究の意義、目的、方法、対象者が被り得る不利益および危険性、個人情報の保護などに関して十分な口頭による説明を受けました。さらに私が研究の参加に同意した後も何時でも自らの意思で、研究の参加を取りやめることができること、及び研究参加を取りやめた後も何ら不利益を受けないことについても説明を受けました。

以上のことを理解した上で、私の意思により、この研究に参加することに同意いたします。

説明を受け理解した項目は次の通りです。（一列目にご自分で○を付けて下さい。）

理解の有無	項 目 内 容	説明文書項目番号
	研究の目的および方法	
	研究対象者となった理由	
	研究参加の任意性とその同意の撤回の自由	
	予測される危険性と不利益	
	個人情報の保護・保管	
	個人情報や研究結果などの匿名化	
	研究成果の公表	
	希望による研究結果の開示あるいは非開示	
	知的財産権の発生および帰属	
	費用の負担に関すること	
	利益相反について	

(本人)

(代諾者) \*必要な場合のみ

氏名 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

(説明者) :

職名 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 印

(連絡先) :

(研究実施責任者) :  
(様式第 6 号)

## 撤回書

殿

令和 年 月 日

私は今回、令和〇年〇月より令和〇年〇月まで、<施設名称>で実施される「研究題名」について、事前に説明文書を受け取り、研究担当者から、それに基づいて研究の意義、目的、方法、対象者が被り得る不利益および危険性、個人情報の保護などに関して十分な口頭による説明を受けました。これらに同意し研究に参加しましたが、下記の理由でそれらを撤回し研究への不参加を申し出ます。なお、研究参加を取りやめた後も何ら不利益を受けないことについても説明を受けました。

参加開始年月日	令和 年 月 日
参加撤回年月日	令和 年 月 日
参加撤回理由	

(本人) (代諾者) \*必要な場合のみ  
氏名 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_ 住所 \_\_\_\_\_

(説明者) :  
職名 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ (印)

(連絡先) :

(研究実施責任者) :

## 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学動物実験委員会規程

### (設置)

第1条 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学における教育・研究を推進する一環として、動物愛護精神に則った適正な動物実験が行われるよう、動物実験の倫理に関する審査を行う九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学動物実験委員会（以下、「委員会」と略）をおく。

### (目的)

第2条 委員会は学長の諮問により九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学内において行われるすべての動物実験に関し、「九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学動物実験指針」の適正な運用を図り、同指針に定められた事項について調査、審議をなし、その結果を学長に報告、助言すると共に、実験者に対して、適正な動物実験が行われるよう指導および助言することを目的とする。

### (組織)

第3条 上記の目的を達成するために、委員会は次の各号に掲げる委員の参加をもって組織され、学長がこれを委嘱する。

- (1) 学長補佐
  - (2) 学部長及び学科長
  - (3) 実験に携わる研究者 大学短大各々 若干名
  - (4) 人文系教員 若干名
  - (5) その他、必要に応じて学長が参加を求めた者が加わることができる
- 2 前項第3号から第5号に掲げる委員は、委員長の推薦により、教授会の議を経て、学長が委嘱する。

### (委員長)

第4条 委員会には委員長を置き、委員の互選によって選出する。

- 2 委員長は委員会を召集し、その議長を努める。
- 3 委員長に不都合があるときは委員長の指名する委員がその代理を努める。

### (委員の任期)

第5条 委員の任期は2年とし、再任をさまたげない。

(委員会の議事)

第6条 委員会は過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数をもって可決することができる。

(委員以外の出席)

第7条 委員長が必要と認めた場合には、委員以外の者が参加し、傍聴あるいは説明や意見を述べることができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は委員会事務局で行う。事務局は委員の中から若干名選出する。尚、委員会の事務処理は庶務課にて行う。

(英名表示)

第9条 この委員会の英名表示は、「Kyushu Nutrition Welfare University and Higashichikushi Junior College Animal Care and Use Committee」とする。

(附則)

- 1 この規程は平成17年4月1日から施行する。
- 2 この改正規程は、平成20年4月1日から施行する。
- 3 この改正規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 4 この改正規程は、平成29年4月1日から施行する。

## 九州栄養福祉大学自己点検・評価委員会規程

### (設置)

第1条 本学に、九州栄養福祉大学学則第2条第2項及び九州栄養福祉大学大学院学則第49条第2項の規定に基づき、九州栄養福祉大学自己点検・評価委員会（以下「本委員会」という。）を置く。

### (目的)

第2条 本委員会は九州栄養福祉大学及び大学院の教育水準の向上を図り、教育目的及び社会的使命を達成するために教育研究活動等の状況について点検・評価を行い公表することを目的とする。

### (組織)

第3条 本委員会は学長、学長補佐、学部長、研究科長、学生部長、教務部長、図書館長、事務部長、学科長及び各職域の代表者をもって組織する。

### (運営)

第4条 本委員会に委員長を置き、学長がこれに当たる。

### (外部評価)

第5条 本学が、相互評価又は外部評価を実施するとき若しくは認証評価機関による認証評価を受審するときは、本委員会が担当する。

認証評価を受審する当該年度の自己点検・評価委員会を認証評価委員会と称する。

### (事務局)

第6条 本委員会の庶務は委員会事務局において処理する。

### 附 則

- 1 この規程は平成13年4月1日から施行する。
- 2 本委員会は、東筑紫短期大学自己点検・評価委員会と合同で開催することがある。
- 3 この改正規程は平成17年4月1日から施行する。
- 4 この改正規程は平成20年4月1日から施行する。
- 5 この改正規程は平成28年4月1日から施行する。
- 6 この改正規程は平成29年4月1日から施行する。

## 九州栄養福祉大学FD委員会規程

第1条 九州栄養福祉大学の建学の理念に基づき、教育活動の質的向上と発展を期して、ファカルティ・ディベロップメント活動の運営および今後のあるべき方向を検討するため、九州栄養福祉大学FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事項を審議し、FDを推進するための活動を行う。

- (1) FD推進のための企画および実施に関すること。
- (2) FDに関する報告書作成に関すること。
- (3) その他FDの推進に関すること。

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 学長補佐
- (3) 学部長
- (4) 学生部長
- (5) 教務部長
- (6) 学科長
- (7) その他、委員長の指名した者

2 委員の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。

第4条 委員会に委員長を置き、学長補佐がその任に当たる。

2 委員長は委員会の業務を総括するとともに、委員会を招集し、その議長となる。

第5条 委員会は、構成員の過半数の出席によって成立し、その議決は、出席委員の過半数をもって決する。可否同数のときは、議長の決するところによる。

第6条 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規程は平成20年4月1日から施行する。

この改正規程は平成29年4月1日から施行する。

令和5年度

## 夏期教職員研修会

研修テーマ：生成AIについて

あいさつ 理事長・学長 室井 廣一

講演 「彼を知り己を知れば百戦殆からず」  
情報管理センター長 赤松 貴文

日時：令和5年8月25日（金）10時～

会場：小倉北区キャンパス 3号館 502 教室

九州栄養福祉大学  
東筑紫短期大学

令和5年度 夏期教職員研修会

# 彼を知り己を知れば百戦殆からず

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 情報管理センター  
赤松 貴文

## 【事例紹介①】

AI搭載ドローンが標的破壊作戦の  
シミュレーションで自分のオペレーターを  
殺害

(GIGAZINE, 2023/6/2)



<https://gigazine.net/news/20230602-ai-enabled-drone-test-operation/>

## 【大胆予想】 シンギュラリティはくるのか？ ②

28

### 【大胆予想】

- ・シンギュラリティは当面来ない！

### 【予想の根拠】

- ・強いAIが実現できる見込みすらない。
- ・そもそも人間の知能、意識の解明・定義すらできていない。
- ・弱いAIの組み合わせで強いAIが実現するわけではない。
- ・今後、さらなる**ブレイクスルー**があれば、もしかすると…???

## 【おわりに】 AIは人類の敵か味方か？

29

- ・弱いAIは人間の知的活動のサポートツールである。
- ・職業によっては、弱いAIに取って代わられるものが出てくる。  
(作業系業務、ルーチン系業務、創造性の少ない業務)
- ・**AIの存在を前提とした教育**を行い、AIを味方にできる人材を輩出しよう！

## 職員会議・年度末教職員研修会

日時：令和5年3月27日(月) 10時より

会場：講堂兼体育館（小倉北区キャンパス）

内容：① 職員会議

・学長挨拶

・各学科、専攻科 令和4年度総括（各10分以内）

※ 時間短縮のため、口頭のみで発表

② 年度末教職員研修会

研修テーマ「短大認証評価結果報告・大学認証評価に向けて」

③ 諸連絡

## 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学事務職員研修支援規程

### (目的)

第1条 この規程は、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学の事務職員が本学の教育理念の実現につながる研修会へ参加あるいは、大学職員としての教養、知識、技術を習得することにより、職務上の一層の改善を図ることができるとして研修を申請や命令により実施する場合の支援について定めるものである。

### (対象者)

第2条 申請することの出来る者は、専任職員、期限付職員とする。

### (内容)

第3条 対象となる研修内容は次のとおりとする。

- 1 研修会・講習会・講演会、見学研修等への参加
- 2 書籍等の購入
- 3 学校が加入する協会等の開催する研修会への参加
- 4 命令による参加

### (申請)

第4条 第3条1、2について

事務職員研修申請書、事務職員研修経費明細書を部長経由で事務職員研修審議会に提出する。事務職員研修審議会が、了承したものを起案し学長の決裁を得るものとする。起案書には事務職員研修審議会に提出したものを添付する。

2 第3条3、4について

起案により学長の決裁を得るものとする。

### (支援)

第5条 第3条1、2については学校法人東筑紫学園の諸規定に基づく旅費、図書資料費等の経費として補助する。

2 第3条1、2については、1人1年 80,000円とする。

3 第3条3と4は、学校法人東筑紫学園旅費規程に定めるところによる。

4 研修は年度内に完了するものとする。

### (審議会)

第6条 事務職員研修審議会は次の構成員とする。

学長補佐、各部長とし、必要に応じて当該課長を加えることが出来る。

2 この審議会は申請者の所属する部長の要請により学長補佐が開催する。

3 審議会は申請者に対し、口頭での説明を求めることが出来る。

4 申請者は審議会に対し、口頭での説明を希望する場合は申し出ることが出来る。

### (様式)

第7条 事務職員研修申請書、事務職員研修経費明細書は別途定める。

附則 この規程は平成21年4月1日から施行する。

附則 この改正規定は平成27年4月1日から施行する。

附則 この改正規定は平成29年4月1日から施行する。

承認	学長補佐 (学部担当)	学長補佐 (教学担当)	学生 部長	教務 部長	事務 部長	課長

## 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学事務職員研修申請書

申請年月日 令和 年 月 日

事務職員研修審議会御中

申請者所属  
職名  
氏名 印

下記により、研修を実施したいので別紙九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学事務職員研修経費明細書を添えて提出いたします。

審議をお願いいたします。

### 記

- 1 研修名
- 2 参加研修会等名
- 3 目的

- 4 期待される成果

- 5 内容

第3条 1 研修会・講習会・講演会・見学研修

第3条 2 書籍等の購入

- 6 添付資料 有 無

- 7 口頭での説明希望 有 無

- 8 今年度申請回数 回目 審査会了承 回

- 9 過去3年以内の申請状況 申請 回のうち、審査会 回了承

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学事務職員研修経費明細書

申請年月日 令和 年 月 日

申請者 所属

職名

氏名

印

研 修 名				
参加研修会名				
主 催				
出張先				
会 期				
出張期間				
経 費	総 額			
	内 訳	出張旅費		
		書籍等購入	総額	
			品名	
			数量	
			規格	
単価				

\*出張旅費計算は会計課に依頼のこと

## 第1回勉強会（職員ミニSD）記録

日 時：2023年5月16日（火） 18時～19時30分

場 所：南区キャンパス 会議室

参加者：坂本、川畑、古賀、室井、末永、樋口、寺下

オンライン参加：和田（学生指導課）、後藤（就職指導課）

### 1. 実施内容

#### （1）本勉強会の目的確認と進め方の確認

勉強会と名前は堅苦しいが、気軽に職員同士のコミュニケーション促進やその中で共に学んでいくということを意識して、参加者が主体的に参加できるようにしていきたい。

北区キャンパスからも参加いただくことで、普段とは異なる視点の意見を互いに共有することができる。参加者には積極的な発言をお願いしたい。

#### （2）理想の職員像（これから必要とされる職員像）についてグループワーク

2グループに分かれて、テーマに沿いKJ法を用いて実施した。

作成後に両グループが発表し、質疑を行った。

昨年度も初回に同様のワークを実施したが、昨年とは異なるワードが多数出ており、これまでの業務や勉強会を通じて参加者それぞれの視野がさらに広がったのではないかと考えられる。

#### （3）次回の予定

次回は、5月30日（火）18時～

伝える練習として3分間スピーチを実施する（古賀担当）。

## 第2回勉強会（職員ミニSD）記録

日 時：2023年5月30日（火） 18時～19時30分

場 所：南区キャンパス 会議室

参加者：坂本、川畑、古賀、室井、末永、樋口、寺下、千坂

オンライン参加：和田（学生指導課）、後藤（就職指導課）、高宮（教務課）

### 1. 本日のテーマ

「コミュニケーション技術 ～人に伝える～」

多様な人材が集まる職場や関係先において、相手に自身の想いや業務をお願いする際に正しく伝えることは重要なことである。今回は、相手に伝える際のポイントや、メッセージを受け取る側の姿勢も含めてグループ（ペア）ワークを中心に進める。

### 2. 内容

#### （1）決められた時間で相手にメッセージを伝える（3分間スピーチ）古賀さん【資料】

「私立学校会計の黒字、赤字ってなに？」

資料に沿って3分間で説明があり、その後質疑を行った。

非営利組織として持続的に運営していくにはどのような財務状況が大事なのか、学校法人は企業会計とどのように異なるのか等概要を確認することができた。

今後のスケジュールとして、各回で3分間スピーチを実施する。担当割は以下の通り。テーマはテーマ例を参考にするか、個人でテーマを検討する。

6月27日：坂本、千坂、高宮 7月11日：小崎、樋口、和田

7月25日：川畑、室井、後藤 8月8日：寺下、餅原

#### （2）「結論」「根拠」「事実（根拠の詳細）」の3段ピラミッド

プレゼンや同僚への報告・相談等で相手（聞き手）に伝える際のポイント！

よく「結論から端的に話せ」と言われますが、実際は難しい。なぜそういう伝え方がよいのかペアワークを実践し体験した。

自分が話したいこと<相手が聞きたいこと 聞き手を意識して準備する。

参考図書：「1分で話せ（伊藤羊一）」「考える技術・書く技術（バーバラミンツ）」

#### （3）今後の勉強会内容の検討

##### ①第3回～5回まで

広報用資料（各学部・学科の説明PRポイント）作成

リハ学部、食物栄養学部、短期大学（2学科1専攻科）のPRポイントや特色（ここは絶対に伝えたい！）をまとめる。

次回（6月27日）までにまずは個人でポイントを抽出（teamsファイルに保存）

②第6回、7回

ディベート（学校法人に関するケースを準備予定）

※資料が準備できなかった場合は別の内容を検討します。

③第8回

夏季SD研修会で発表があれば準備や、前期のまとめを行う。

（3）次回の予定

次回は、6月27日（火）18時～

3分間スピーチ担当（坂本、千坂、高宮）

1人10分（説明3分、質疑7分）

第3回勉強会（職員ミニSD）記録

日時：2023年6月27日（火） 18時～19時30分

場所：南区キャンパス 会議室

参加者：坂本、川畑、古賀、室井、末永、樋口、寺下、千坂

オンライン参加：和田（学生指導課）、後藤（就職指導課）、高宮・田中（教務課）

1. 本日のテーマ

「学部・学科の強みや特色をまとめよう①」

各学部・学科別にチームを作り、高校生や高校教員、保護者等へのPR資料を作成します。次回途中経過でもよいので発表して皆さんにコメントをもらって、さらにブラッシュアップしたものを次々回に共有します。

食栄（小崎、樋口、餅原）リハ①（千坂、寺下、室井）リハ②（坂本、古賀、川畑）

短大（和田、後藤、高宮、田中）

2. 内容

（1）決められた時間で相手にメッセージを伝える（3分間スピーチ）

◇坂本さん

リハ学部の強み2本柱について【資料】

①日本一長い養成校の歴史 ②行事教育を軸にした人格教育

この2つの特徴（強み）について具体例も提示しながら説明

高校生等へ説明する際は、自分たちがしたい説明ではなく、聞く側が知りたいことを説明することが重要である。

◇高宮さん

広報ってなんだろう？

商品等のPRやそのためのステイクホルダーとの相互コミュニケーション

広報のポイントは3つあり

①ステイクホルダーとの信頼関係構築

②社（学）外への情報発信（HP、SNS、プレスリリース等）

③社（学）内へのコミュニケーション

広報の窓口をわかりやすく設定しておき外からの問い合わせをしやすくしたり、地域（地元）メディア担当者との関係性を構築したり、プレスリリースを効果的に活用することも重要である。

◇千坂さん

法人格の種類について

医療法人社団、財団の違いや社会医療法人、特定医療法人の違い等について

法人設立の際に出資状況や社会的役割によって異なるが99%は医療法人社団が占める。  
法人格によっては税制面で優遇される場合もある。日ごろ当たり前のように接している法人格について疑問を持ち掘り下げて調べた。

(2) 各学部学科の強み、特色について

高校訪問や各種ガイダンス、オープンキャンパス等で職員が説明することがある。しかし、経験年数やその人のスキルによって説明内容に差が出る可能性もあるので、共通資料としてそれぞれの学部・学科の強みや特色を効果的に伝える資料や方法を考える。

①大学食栄（小崎、樋口、餅原）

学生や保護者それぞれの志望段階（レベル）別の資料を作成する。

②大学リハ①（千坂、寺下、室井）

生徒たちが興味を引く、また説明者によって差がでにくい動画を作成する。1人の学生の入学から就職までのストーリー形式で見る側の心を動かせる（感動させる）内容を考える。

③大学リハ②（坂本、古賀、川畑）

伝える内容はある程度決まっている（リハ学部の2本柱）ので、伝え方を考える。歴史の特徴というところから、紙芝居形式も面白いのではないか。

④短大（和田、後藤、高宮、田中）

保育学科では、附属幼稚園と連携して日ごろから子どもたちと関わることができ、学生たちが学ぶための環境としては非常に優れている。また、通常の授業においても連携したユニークな取り組みをしている科目もあるのでそのような内容を高校生へ魅力的に伝わるような資料を作成したい。

次回、ある程度形にしてそれぞれ共有、他のグループからもコメントをもらってさらにブラッシュアップ！ できれば完成させたいですが、3回のワークで難しければ、なんとなくの目途もたてて計画しましょう。

3. その他

第6, 7回はディベートをします。

（平成27年度私学スタッフセミナーで実施した内容）

データをアップしていますので、時間のある時にでもご覧ください。

次回は、7月11日（火）18時～

3分間スピーチ担当（小崎、樋口、和田）

第4回勉強会（職員ミニSD）記録

日 時：2023年7月11日（火） 18時～19時30分

場 所：南区キャンパス 会議室

参加者：坂本、室井、末永、樋口、寺下、千坂

オンライン参加：和田（学生指導課）、後藤（就職指導課）、高宮・田中（教務課）

1. 本日のテーマ

「学部・学科の強みや特色をまとめよう②」

各学部・学科別にチームを作り、高校生や高校教員、保護者等へのPR資料を作成します。

2. 内容

（1）決められた時間で相手にメッセージを伝える（3分間スピーチ）

◇小崎さん

ふるさと納税について

就職等で離れてしまった自分の出身地や、災害等からの復旧支援としても使える地方税で、手続きも比較的簡単なので、実施のメリット方が大きいのでは？

ただ、自身の居住地への想いが強い人もいるのでその限りでもない。

◇樋口さん

睡眠の質について

良い睡眠は（寝つきの良さ、ぐっすり寝れる、スッキリ起きる）、そのためには、体のリズムを朝から整える（朝日を浴びる、入浴、運動習慣）

◇和田さん

障がい学生支援について

障がい学生への支援（障がいの有無に関わらず）が充実することで、様々な学生から選ばれる大学となっていくのではないかと。軽微なものも含めて、躓きやすさや困難さを感じる学生も多く、学内での支援の在り方を考えていく必要がある。

（2）各学部学科の強み、特色について

高校訪問や各種ガイダンス、オープンキャンパス等で職員が説明することがある。しかし、経験年数やその人のスキルによって説明内容に差が出る可能性もあるので、共通資料としてそれぞれの学部・学科の強みや特色を効果的に伝える資料や方法を考える。

⇒各グループから進捗状況を報告

次回（7月25日）に、形になったものを発表（経過報告ではなく、形にすること）

3. その他

次回は、7月25日（火）18時～

3分間スピーチは、川畑さん、後藤さん、室井をお願いします。

第5回勉強会（職員ミニSD）記録

日時：2023年7月25日（火） 18時～19時45分

場所：南区キャンパス 会議室

参加者：坂本、室井、末永、寺下、千坂、古賀、川畑

オンライン参加：和田（学生指導課）、後藤（就職指導課）、田中（教務課）

1. 本日のテーマ

「学部・学科の強みや特色をまとめよう②」

各学部・学科別にチームを作り、高校生や高校教員、保護者等へのPR資料を作成した内容を発表します。まだまだブラッシュアップできると思うので、皆さんの積極的なコメントを求めます。

2. 内容

（1）決められた時間で相手にメッセージを伝える（3分間スピーチ）

◇後藤さん

「クラフトビールについて」

大小さまざまな醸造所それぞれの個性を出したビール、SNSを活用したコミュニケーション戦略で若者の支持も大きい。全国700近くの醸造所があり、観光スポットになったり、そのエリアのPRにも活用され経済効果も大きい。

◇室井

「M&Aについて」

近年、国内外でM&Aが増加している。その背景として、企業の倒産や解散もあるが、後継者不足等からの黒字廃業もある。成長戦略（シナジー効果）としてM&Aが活発になっており、同業種だけでなく異業種のM&Aなど様々ある。

身近なM&Aとしては、本学自身（九州リハ大×東筑紫）がある。行政も絡んで実施し、現状も踏まえると成功事例ではないか。うまくやるためにはどのようなことが必要なのか。

◇川畑さん

「心理テストやってみよう」

体験型の3分間スピーチ。腕の組み方、手の組み方からどのようなタイプかみえてくる！？

◇川畑さん（九産大OC参加レポート）（資料）

九産大のOCに参加した。規模感は本学とまるで違うが、多数の生徒をお迎えする姿勢や、イベント内容と実施方法等は参考になる点が多々あった。配布資料等も魅力的な作りで様々な資料や動画もあり参考になる。

様々な部署もアイデアを出し合って、大学全体で学生募集を考え実行する一大イベントとなるよう努力していきたい。

（2）各学部学科の強み、特色作成資料の共有

①食栄グループ（小崎、樋口、餅原）

資料のような、セルフチェックができるフローチャートと、学部の魅力をまとめたイラストを作成した。

セルフチェックは他学部・学科も含めて検討したり、質問項目をもう少し精査する。  
イラストデータはすぐにでも活用できるものではないか。こちらも他学部・学科分も作成できるとよいと思う。

②リハ①グループ（千坂、寺下、室井）

在学生のインタビュー動画を作成した。動画作成にあたり、もう少しこだわりたい部分もある。また、作成にあたり、どのようなシチュエーション（HP？SNS？ガイダンス？）で活用するかも作り方が変わってくる。行事の際に学生インタビューなどもいいのではないか。  
学生広報チーム等の発足も含めて、動画内製化の仕組みづくりを考えたい。

③リハ②グループ（坂本、古賀、川畑）

紙芝居風の学校紹介や行事紹介（年間スケジュール）、本学の強みの資料を作成した。  
他学科のものも同じフォーマットがあれば作成できるのではないか。デジタルサイネージ等で学内向けにも活用できる。年間スケジュールは、そのままスライドショーにも活用できるのではないか。

④短大グループ（和田、後藤、高宮、田中）

学校紹介のパワーポイントを作成した。学科の先生にも協力いただき、ピックアップ授業という資料を作り、学生たちの具体的な学びの風景を伝えることを意識した。ピックアップ授業は、非常に伝わりやすく、興味を引くので是非他学部・学科 ver も作成したい。

どのグループも特徴的な資料を作成しており、粗削りな部分はあるが広報資料として十分利用可能なものであった。資料の出来栄以上に、今回グループワークを進める中で、グループ内でのコミュニケーション促進をはじめ、部署を超えた情報提供等の協力依頼もできた。恐らくどの教職員も何かしなければいけないという思いはあるものの、自分に何ができるかというところに足踏みしているのかもしれない。我々がこうして働きかけることで、教職員それぞれが持っているアイデアやスキルを活かして広報活動につなげていくことができるということがわかった。

3. その他

次回は、8月8日（火）18時～

学校法人の合併か独自経営かについてディベートを最終回（日程調整）に予定して、それに向けた各グループワークとします。グループ編成は次回決定します。

①8月8日 ②8月22日 ③9月5日（案）

最終回は南北対面で一緒にできればと思います。②③は夏季休暇期間なので少し時間を早めて行う予定です（16時30分～とか）。

3分間スピーチは、寺下さん、餅原さんお願いします。

第6回勉強会（職員ミニSD）記録

日 時：2023年8月8日（火） 18時～19時40分

場 所：南区キャンパス 会議室

参加者：坂本、室井、寺下、千坂、古賀、樋口

オンライン参加：和田（学生指導課）、後藤（就職指導課）、高宮（教務課）

1. 本日のテーマ

ディベート準備

「学校法人の合併か否か」

架空の学校法人のケースに沿ってディベート準備を行います。チームごとに合併推進の場合と自律経営の場合の根拠を示しながら説明できるように準備をします。

2. 内容

（1）決められた時間で相手にメッセージを伝える（3分間スピーチ）

◇寺下さん 免疫について（資料）

免疫は高い方がいいのか？高すぎるのはよくない、バランスを保つことが大切である。高すぎるとリュウマチや糖尿病になったり、低いと様々な病気にかかりやすくなってしまう。人間の体は複雑にとってもよくできていて日ごろから自分の体にも感謝をもって維持していきたい。

◇餅原さん 骨髄バンクについて（資料）

自身の実際の経験をベースに登録の方法や、実際の採取までの流れ（約1年）を説明。  
ドナーを待っている患者さんはたくさんいるが、登録者が少ない状況で、さらに患者さんに適合しないケースも多いためもっと多くの人に認知してもらい協力を得る必要がある。

◇室井 私学スタッフセミナー（H27）での資料共有（資料）

当時、ソニー学園の佐藤さんの講演を聞いてそれが今の自身の職員としての在り方のベースにもなっている。入職したころから、職員の重要性や活躍できる分野など職員に期待されているところは聞いているが、実態として職員自身にその能力が追い付いておらず、そのままになっているところもある。このような勉強会等を通して職員がよりやる気をもって、学校運営に具体的に携わっていけるようにしていきたいし皆さんがその原動力になってほしい。

（2）ディベート準備（学校法人の合併か否か）

H27 私学スタッフセミナーで実施したケースをベースに3チームに分かれてケース分析と合併推進と自立経営の場合を想定したディベートを行う。

チーム編成

①坂本、千坂、餅原、室井、川畑

②寺下、小崎、樋口、古賀

③和田、後藤、高宮、田中

東央学園と南北学園の分析（資料データから）

それぞれのグループで強みと弱みを3つ程度分析しそれを全体で共有

今後、さらに分析を進めて、それぞれの強みや弱みの根拠となるデータも示せるようにする。

次回以降に、合併推進と自立経営のそれぞれの根拠となるような内容（ディベートで発表する）をまとめていくので、勉強会の時間以外でも可能な範囲で各グループ内で情報共有をしながら分析を進めていく。

本学の財務資料（大学HP）も参考になるので時間のあるときに通読推奨。

### 3. その他

今回は、8月22日（火）16時30～18時30分

最終は、9月15日（金）のSD研修会の日に南北合同で対面実施の予定です（時間調整）。

## 第7回勉強会（職員ミニSD）記録

日 時：2023年8月22日（火） 17時～19時00分

場 所：南区キャンパス 会議室

参加者：坂本、室井、寺下、千坂、古賀、樋口、小崎、川畑、餅原

オンライン参加：和田（学生指導課）、後藤（就職指導課）、高宮・田中（教務課）

### 1. 本日のテーマ

ディベート準備

「学校法人の合併か否か」

架空の学校法人のケースに沿ってディベート準備を行います。チームごとに合併推進の場合と単独経営の場合の根拠を示しながら説明できるように準備をします。

### 2. 内容

#### （1）ディベートの進め方の確認（学校法人の合併か否か）

流れ（進め方）は資料の通り1セット60分で計3回戦180分

①Aチーム（独自） VS Bチーム（合併） 評価Cチーム

②Bチーム（独自） VS Cチーム（合併） 評価Aチーム

③Cチーム（独自） VS Aチーム（合併） 評価Bチーム

それぞれの説明時間や反論時間は限られていますので時間内に考えを伝えられるように事前準備を行ってください。

評価チームは、評価用はありません（その後評価表作成）のでそれぞれのチームの主張の具体性や論理性、プレゼン の仕方（コミュニケーションスキル）等を総合的に評価してどちらのチームの主張が強かったかを決めてください。

#### （2）各グループワーク

Aチーム（樋口、小崎、寺下、古賀）

Bチーム（坂本、千坂、川畑、餅原、室井）

Cチーム（和田、後藤、高宮、田中）

それぞれのチームに分かれて、それぞれの主張の根拠となるデータ収集や、提案（発表）内容を検討した。

### 3. その他

次回は、9月15日（金）のSD研修会の日に関東合同で対面実施の予定です（時間調整）。

## 第8回勉強会（職員ミニSD）記録

日 時：2023年9月15日（金） 13時～16時30分

場 所：南区キャンパス 会議室

参加者：坂本、室井、寺下、千坂、古賀、樋口、小崎、川畑、和田、後藤、高宮、田中

### 1. 本日のテーマ

ディベート実践

「学校法人の合併か否か」

これまでの2回（8月8日、22日）や、各チーム個別に準備してきた内容について自立経営派と合併推進派に分かれてディベートを実践します。持ち時間は厳守した上で、同じ法人の理事という立場のもとそれぞれの主張と相手への反論を行います。

### 2. 内容

#### （1）チーム構成

Aチーム（樋口、小崎、寺下、古賀）

Bチーム（坂本、千坂、川畑、室井）

Cチーム（和田、後藤、高宮、田中）

#### （2）ディベート順

①自立経営派（Cチーム）vs 合併推進派（Bチーム） 評価：Aチーム

②自立経営派（Bチーム）vs 合併推進派（Aチーム） 評価：Cチーム

③自立経営派（Aチーム）vs 合併推進派（Cチーム） 評価：Bチーム

#### （3）それぞれの主張

自立経営派は、自大学の魅力の再認識と、そこから新たに考えられる打ち手を具体的な資料（財務データや、募集状況、社会情勢等）をもとに提案された。

合併推進派は、単科大学での経営の限界から、リスクはあるものの、合併によるシナジー効果が強く、これからの時代には合併して規模を拡大した方が良いということが提案された。

どのチームもユニークな提案をパワーポイントにて主張をまとめていた。説明の仕方にも工夫があり、3分間スピーチを活かしたコミュニケーション技術の向上が多く見られた。

今回は、架空の学校法人のケースをもとに検討したが、改めて大学職員として、自身の部署のことだけでなく、大学全体を俯瞰してみることや、様々なデータを活用することの重要性を再認識するとともに実践する貴重な機会となった。

### 3. その他

次回は、9月28日（木）に今回の内容の振り返りと、後期に向けた準備を行います。

文責：室井

## クリスマス SD 研修

### 1. 概要

日 時：2021年12月24日（金）15：00～16：10

場 所：南区キャンパス会議室

出席者：藤、室井、古賀、川畑、末永、樋口（朱）

テーマ：必要とされる本学における大学職員像（仮）

### 2. 職員として大切にしていること（してほしいこと）（藤事務長）

今後中堅職員として活躍していく皆さんには自信をもって各業務に励んでいただきたい。自身の経験も踏まえて、特に社会人としては「働く姿勢・態度」「業務実績」が重要と考える。大学は教育理念（建学の精神）に基づいて学生教育、研究活動が行われておりそれを職員自身も大切に各部署において業務にあたってほしい。ある研修会では「職員も教育者の一員として」ということが話され、非常に印象に残っていると同時に、それだけ職員にも責任ある行動（業務姿勢や知識等）が求められるということだと考える。

自身が考えるこれからの大学職員として必要なことは、学生募集に関する他校情報や大学を取り巻く環境の把握（情報収集力）、目まぐるしく変化していく時代に応じた対応力、そのような変化に対応していくための知識や自身の能力開発のためのSD促進や自己研鑽、更にはその変化に柔軟に対応していく個人、組織としての柔軟性が重要と考えている。

厳しい時代が続くが、建学の精神に基づいて、各々が情熱と意欲をもって大学運営に関わっていただきたいと思う。

### 3. 本学の教育理念（建学の精神）からみる自己点検（自己点検表参照）

管理職用に配布されている自己点検表を確認してもらい、自身の自己点検（振り返り）にしてほしい。今回は配布できないので、今後前期終わりや年度末に確認するようにしていきたい。

### 4. 職員経験（10年）から考えること（室井）

#### 1) 大学職員としての基本姿勢

- ・事務をする人から事務を司る人へ

これからの時代に応じた組織運営能力を身につけていく。自身の部署だけの狭い視点でなく、他部署含めた広い視点と現場の状況把握、知識を身につけ、円滑な組織運営を行える人材となっていく必要がある。今後の働き方（人材管理）にも考慮し、正規職員と非正規職員の業務整理、業務改善・効率化、デジタル化といったことも幅広く知見を得て実践していったほしい。

- ・教職協働のために職員に求められる能力（幅広い知識・教養・専門分野も）

教職協働の中でこれからの職員は教員と対等の立場でということも言われるが、それに対応した能力が職員自身にあるかが課題である。真の教職協働を実現するためには、職員自身の更なる能力開発が必要と考えている。

- ・職員である前に一人の社会人として、建学の精神に基づいた人格の成長  
基本的な社会人としての態度・姿勢は年数を重ねても持ち続けるとともに学び続け、謙虚な姿勢を常に持ち学生、その他教職員への対応をお願いしたい。本学に務める者としては、建学の精神の求めるところを自身でも探求し、更なる理解を深めてほしい。本学では、「誰もがやりたくないけど、誰かがやらないといけないこと」「人が嫌がることを進んでできる人」そういう強い心をもった人格（人材）を育てていくということが学長をはじめ諸先生方から話されている。＝「己をむなしくして社会に奉仕する人」??とも繋がるのではないか。（室井の解釈）また、それぞれの学部学科もそのような基本的な生活に関連する職種であり、そのような心を、日頃のお掃除や各業務において実践して欲しい。学生にも職員の立場からそのことを伝えて欲しいと考えている。

## 2) 15年後（創立100年）の自身の役割

15年もたつと今の若手が学園の中核を担う人材となっていると思う。一つの区切りとして創立100年も見えてくる。その時に自身がどのような役割を担っているか、学園が存続していけるのかといったことも中長期のキャリアプランとして考えてほしい。

- ・今の立ち位置（職位）だけの視点でなく、その一歩二歩上や経営側の視点も自身をより成長させるためにも、自分が「主任」だったら、「課長」だったらと、常に幅広い視点と考えを持つ習慣を身につけてほしい。更には、経営的な視点も持ち、学園全体のバランスも見れるように（考えれる）なると良い。色々と自分の考えや方策等を偉そうに話していきなさいということではない。上司から問われた時に「私ならこういう考えがあります」と言えるように。
- ・口で言う（モノを描く）のは簡単、それを実行できる「情報収集力」「企画力」「提案力」「調整力」「行動力」「推進力」「継続力」...  
ある程度の知識や想像力のある人なら、口でいうこと、考えを描くことは容易である。イメージすることも重要だが、それを実行していくことが職員として重要な点であり、上記のような様々な力をこれからの実務において身につけて欲しい。また考えたこと（アイデア）が現実に実行できることなのか、本学にマッチしていることなのか、遠い理想像となっていないかということも議論する上で重要である。（学長は（現実形成力のある内容なのか）という）これからの時代に評論家タイプの職員はいらない。具体的に行動に移せる力を一緒に身につけて欲しい。

## 3) 私学人（東筑紫学園）としての心もち

- ・自分はどこの職員なのか、どういう学校なのか、それを自分の言葉で話せるか  
上述でもあるが、本学の教育理念やその実践方法等を理解し、自らの言葉で発信できるようになってほしい。
- ・私学を取り巻く環境は、これまでの大学の歴史、これからの展望（文科省HP）  
私立学校に務める者として、学校教育の歴史を含めて今後の教育環境の変化等に柔軟に、スピーディに対応していけるように情報収集を図ってほしい。文科省や厚労省といった関連するHPは定期的に確認する必要がある。

#### 4) 組織（組織人）としての動き方

- ・報告、連絡、相談、確認

基本的なハウレンソウや確認は徹底すること。それがしやすい職場環境（雰囲気づくり）を中堅職員が中心となり実践していく。

- ・一人でできない仕事（教育）をみんなでする

大学、大きく学ぶということを考えてほしい。学生の学びも、我々の仕事も一人でできるなら一人ですればいい。本学の掲げる人格の成長や、学生教育は一人でできないからみんな（様々な人間が集まって）行っている。特に大学は様々な特徴のある人材が集まる場所なので、その個性や特徴を生かした教育を行えるように職員が駆動力のあるエンジンと他機関を回す潤滑剤になり運営していくことが必要と考える。

- ・組織の動かし方（根回し、調整）

組織人としての動き方（働き方）を理解する。部署をまたぐ業務や協力依頼はどのようにすべきか、会議等で新しい事案を提案する時はどのような手順で行うべきか。

- ・風通しのよい組織（改革や改善が積極的に行える職場のためには、生き生きとした職員のフットワーク、チームワーク、意欲・行動力）

悲壮感、閉塞感の漂っている組織ではなかなかいい方向に進まない。上記のような環境となるように日頃から他の教職員とのコミュニケーションの充実を図ってほしい。単純に雑談等を喋れば良いということだけでなく、例えば後輩が更にモチベーションがあがるような声掛け（承認や称賛）、時には注意・指導も必要である。これからの自分たちと一緒にやっていく仲間を育てていくという気持ちも持って、厳しさと優し（本学でいう4つの心）をもって接してほしい。

なかなか厳しいこと（注意すること）は誰もが苦手と思う。それをできる日頃からの人間関係、自分自身も言われやすい人間になることが大切と思う。（言われるうちが花、言われなくなったら終わり）

人事的な面からみると、正直なことを言えば、雇用契約のこともあり今後全員が一緒にやっていくメンバーとはならないかもしれない。全員が専任職員にというわけにはいかない場合もあると思う。もちろん、大学に残って働くことがキャリアのすべてではない。従って、3年ないし4年本学で勤めて、キャリアアップで次の企業や学校に勤めることも良いと思う。そのためにもこの3年4年の期間で、本学で社会人として成長できたな、東筑紫で勤めたことが次に繋がったなと思えるような人材育成（後輩指導）を一緒に行っていくてほしい。

当日説明した内容に若干の加筆を加えた内容です。

偉そうなことを書いていますが、自分自身課題に感じていることばかりです。自己反省を含めて説明させていただきました。

#### 5. 情報共有（課題に感じていること、力を入れていきたいこと）

- ・事務部での業務整理や、業務補完体制の充実（古賀）

庶務・会計とそれぞれ1人役ずつしかいないため、不在の場合に対応できないこともあり、それを他の職員で補完できる体制づくりが必要かもしれない。

- ・学生部では、職員 2 人が全ての業務をそれなりのレベルでできるように日頃のコミュニケーションや連絡・確認を行っている。ここ数年で新しく入って来た業務（Will 保険、実習宿舍（九州観光）、奨学金関係）もあり、今後も一つ一つ確認しながら丁寧な業務を行っていきたい。（様々な資料の分厚いマニュアルや要項等をどこまで読んでおかないといけないか迷うことがある）（末永）
- ・教務課では非常勤職員や、今年新たに入職した助手 2 名もおり、それぞれの業務分担（業務負担）に適切に対応できているか不安なことがある。また、それぞれに業務を依頼する時に、業務の全体像が見えない中、末端の事務作業等を依頼することもありそれでよいのか迷うことがある。（樋口）  
本来は室井がもう少し業務整理や調整をしないといけないところだが、安心して樋口さんに任せっきりになってしまっている。助手業務については今年度 1 年やってみて、業務を明確にし、次年度追加できる業務があれば学科にも確認し、それぞれの業務負担が均等となっていくよう調整していきたい。また、教務課の業務を更に整理して、専任がする仕事、非常勤がする仕事、デジタル化する仕事などを整理していきたい。（室井）
- ・庶務課の業務が更に円滑に行っていくように、事務長とも連携しながら進めていきたい。限られた人員でより効率的に業務が実施できるような体制づくりをする。（川畑）

## 6. クリスマスプレゼント

「大学が変わる 大学を変える」2021 年 8 月 23 日発刊 本間政雄著

文科省官僚から、様々な学校に関わって来た本間氏が、大学運営における職員の役割や、今後必要となる能力等について具体的に書かれている。また、大学を取り巻く環境や、国公立、私立それぞれの状況等も詳細に書かれている。各自読んで参考にしてほしい。

図書館にも 1 冊入庫予定なので、興味のある方はお読みください。

## 南区キャンパス SD 研修会

### 1. 開催目的

前回（7月1日）開催のSD研修会に続き、教務部、学生部の枠を超えた職員同士の業務把握やそれぞれの業務改善状況、業務に取り組む姿勢について理解を深める機会としたい。

また、IR推進室との共催ということで、IR推進室の掲げる「自己改革システムの内部化」の実践として南区キャンパス職員組織が取り組んでいる状況を学内で共有する。

### 2. 開催概要

日時：2021年9月15日（水）15：30～17：00

場所：南区キャンパス 階段教室

出席者：教務部・学生部・事務部、IR推進室本部、教員希望者

### 3. 研修会スケジュール

15：30～ 開催挨拶（教務部長）

15：40～ 発表①川畑（庶務課）

「  
」

16：05～ 発表②千坂・末永（学生指導課）

「学内オンライン就職説明会の準備～実施までの報告」

16：30～ 発表③樋口・寺下（教務課）

「コロナ禍における諸業務の振り返り」

16：55～ 総括（IR推進本部長）

### 4. その他

終了後（後日）参加の皆様へアンケート URL をお送りしますので、アンケートへのご協力をお願い致します。

社会的・職業的自立に関する指導等に関連する授業科目の概要

(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 教養 科目	キャリアガイダンスⅠ	○	本演習は、本学の建学の精神に基づき大学生活を充実したものとし、未来を切り開くための総合的基礎学習を行う。内容としては、大学生活に適応し学問分野への動機づけを高めるために、学生間交流、履修指導、論理的思考法、文献の読み方、文章の書き方、口述発表の仕方等の指導を行う。	オムニバス
	キャリアガイダンスⅡ	○	本演習は、引き続き本学の建学の精神に基づき大学生活を充実したものとし、未来を切り開くための総合的基礎学習を行う。自らの将来のキャリアについて考え、学生個々の目的を達成させるために教科及び生活指導を行う。	オムニバス
	キャリアガイダンスⅢ	○	本演習では、本学科が理想とするデータサイエンスの専門家に必要な「勇気」（データサイエンスの専門家としての責任感を持ち、積極的かつ忍耐強く努力する力）、「親和」力（相手を思いやり、助け合う心）、「愛」（地域住民の健康生活と福祉の向上を願う心）、「知性」（知識、教養を培う努力を惜しまず、新たな視点から解決策を提案できる力）の修得に向けた総合的基礎学習を実施する。	オムニバス
	キャリアガイダンスⅣ	○	本演習では、引き続き本学科が理想とするデータサイエンスの専門家に必要な「勇気」（データサイエンスの専門家としての責任感を持ち、積極的かつ忍耐強く努力する力）、「親和」力（相手を思いやり、助け合う心）、「愛」（地域住民の健康生活と福祉の向上を願う心）、「知性」（知識、教養を培う努力を惜しまず、新たな視点から解決策を提案できる力）の修得に向けた総合的基礎学習を実施する。さらにデータサイエンスの専門家としての実務を通じた視点で、一人ひとりのキャリア発達を指導し、それぞれにふさわしいキャリア形成の支援を行う。	オムニバス
	食環境データサイエンス概論	○	この科目は、新入生に対して「食と健康」、「農業」、「福祉」という分野におけるデータサイエンスの必要性和応用を概観する。食品の安全性分析、栄養学的評価、農作物の生産効率向上、福祉サービスの質の改善など、現実の課題解決におけるデータの活用が具体例として紹介される。データの種類、分析技術、意思決定プロセスへの適用などが検討され、学生は4年間の学習計画とデータサイエンスの可能性を探ることとなる。	オムニバス
	食環境イノベーションデザイン	○	この科目では、多様な業種の企業や地方行政のリーダーたちをゲストに迎え、先進技術を軸にしたイノベーション事例を学ぶ。ビッグデータを活用したAI技術の応用事例や、デジタルトランスフォーメーション（DX）の進捗に伴うSociety 5.0の実現に向けた具体的な事例を通じて、データサイエンスの基礎を習得する。また、食環境における多様な問題に対する新しいアプローチを探究することで、将来のキャリアデザインを考えるための基盤を築く。	オムニバス
	食と経済		この講義では食と経済（特にお金）との関わりについて学ぶ。近年、フードビジネスの分野でもデータサイエンスの専門家の役割は飛躍的に増大している。最低限の金融リテラシーを身につけることは、皆さんが社会に出て、実際にビジネスの現場に向き合った際にも、これからの人生設計においても、大きな武器となるだろう。 お金に使役されるのではなく、お金を使役するための知識を学んで、これからの人生設計をより豊かなものとするための一助としてほしい。	
基礎 教養 科目	国際理解（海外研修）		グローバル化の進む社会では、各分野のスペシャリストが、国際的感覚や視野を持つことは、大切である。このプログラムでは、海外での職務経験を有する教員が、日本が国際化の大きな波の中で、どういう立ち位置にあり、どういう方向性もも取り組んでいるのか。そして、そこにはどのような課題があるのか。グループディスカッションやディベートを取り入れながら考察し、課題解決を模索していく。事前研修で、渡航先の歴史や文化を学ぶと同時に郷土・日本のそれらとを比較する。また、最低限の外国語会話スキルの取得を目指し、現地でのフィールドワークの準備をする。渡航先では、各専門分野に関係のある施設や店舗等を訪問し、その際の見聞や体験を通して、その国独特の文化や習慣に基づく多様性に気づく機会を持つ。事後研修では、社会の国際化・多様化に伴って増えてくる新しいニーズと学んだ多様性との因果関係を考察し、プレゼンテーション形式で、体験談をシェアし、課題の解決策の提案へと発展させる。	

社会的・職業的自立に関する指導等に関連する授業科目の概要

(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 データサイエンス科目	マーケティングとデータサイエンス	○	「マーケティングとデータサイエンス」では、市場調査、顧客分析、顧客プロフィール、需要や供給の予測など、マーケティング分野におけるデータサイエンスの応用を学ぶ。データ駆動型の意思決定プロセス、顧客行動の理解、セグメント化、ターゲティング、位置づけ、マーケティングキャンペーンの効果測定などの重要なトピックを扱う。実際のマーケティングケーススタディを分析し、データサイエンスがマーケティング戦略や運用にどのように統合されるかを理解する。この科目は、実際のビジネス環境でデータサイエンスを活用して、効果的なマーケティング戦略を策定する能力を学生に提供することを目指す。	
	マネジメントとデータサイエンス	○	「マネジメントとデータサイエンス」では、ビジネスマネジメントにおけるデータサイエンスの活用とその重要性を深く掘り下げる。データ駆動型の意思決定、戦略策定、マーケティング戦略の基本原則を学び、現代のビジネス環境におけるデータサイエンスの役割を理解する。ビジネスプロセスの最適化、顧客行動分析、リスク管理など、実際のビジネスケースを分析し、データ分析を通じて洞察を得る方法を学ぶ。この科目は、学生がビジネスの現場でデータサイエンスを活用し、効果的なビジネス戦略を策定する能力を養うことを目指す。	
	人間とAI		「人間とAI」は、人間の認知と脳科学の視点からAIとの関係を探究する科目である。人間の知能と行動のメカニズムを理解することで、AIの発展と人間との相互作用を深く理解する。脳科学の基本原則、人間の認知機能、コミュニケーションのメカニズムを学び、これらがAI設計にどのように影響するかを探る。また、AIに関する誤解や恐怖心を克服し、人間にとって良きパートナーであるAIのあり方を考える。認知科学的AIの開発と、人間自身を深く知ることの重要性を重視し、AIと人間の共存を目指す未来を模索する。この科目は、学生がAIの理解を深め、その応用に関する広い視野を持つことを目的としている。	
専門教育科目 食環境マネジメント科目	マーケティング論		現代の企業人、社会人にとってマーケティングの知識は欠かせない要件になっており、マーケティングの巧拙が企業の命運に大きく影響し、社会生活をも左右している。そこで本講義では、マーケティングに関する意義や役割、基礎的な知識と技術を理解し、適切なマーケティング活動を計画的、合理的に行うための基礎を学習していく。	
	マーケティングリサーチ		マーケティング・リサーチは、ヒット商品の開発、消費者ニーズの探索・確認、既存の製品・ブランドの評価、好ましい新規事業の選定などの解決や意思決定のための具体的なマーケティング活動と密接に関わり、企業や組織にとってはなくてはならない重要な要素となっている。そこで本講義では、そのための方法論、技術、理論的バックグラウンド、思考法などを学習していく。	
	流通システム論		現代社会において生産と消費の各活動をつなぐ重要な役割を果たすのが流通である。しかし、ただ流通活動が存在していればよいというわけでもない。流通がシステムとして機能することによって初めてより効果的で合理的な活動となる。そこで本講義では、基本的な流通システムの仕組みや役割を学習するとともに、具体的なデータや事例を用いながら解説することにより、流通システムの基礎知識を身につけていく。	
	消費者行動論		これまで消費行動については、社会学、心理学、マーケティングなど、様々な観点から研究されている。また、消費行動は外部環境の影響を受けながら常に変化している。特に、2000年代以降のインターネットに関連する情報技術の発展は、消費行動に多大な影響を及ぼしてきた。そこで本講義では、消費行動の諸側面をとりあげ、事例を交えながらその体系的理解を深め、マーケティング活動への応用のための基礎知識を身につけていく。	
	サプライチェーンマネジメント学	○	農作物のサプライチェーンマネジメントについて学ぶ。サプライチェーンは、生産から消費までの一連のプロセスを指し、これには生産、収穫、加工、パッケージング、輸送、販売が含まれる。この講義では、これらの各ステップでの効率的な管理方法と、サプライチェーン全体の最適化について学ぶ。また、サプライチェーンの持続可能性と、気候変動への対応方法についても議論する。	オムニバス
	アグリビジネスマネジメント学	○	農業経営の基本的な概念と理論を学ぶ。農業の生産性、効率性、持続可能性を向上させるための戦略と技術を探求する。また、農業政策、市場動向、気候変動など、農業経営に影響を与える外部要因についても考察する。この講義を通じて、学生は農業経営の課題と可能性を理解し、実践的なスキルを習得する。理論と実践のバランスを取りながら、農業経営の成功に必要な知識と技術を深めていく。	オムニバス

社会的・職業的自立に関する指導等に関連する授業科目の概要

(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
	食環境地域連携演習		「食」を通じた北九州市の地域課題について、ボランティア活動、子ども食堂への参加を通して解決する演習である。地域活動を行い、北九州市の魅力をアピールできるようになる。		
	インターンシップ		この科目では、学生に実務経験を提供し、職場での実践的なスキルと知識を習得させる。学生は企業や組織での実際の業務に従事し、専門家から指導を受けながら専門分野に関する実践的なスキルを養う。また、職場での問題解決能力、コミュニケーションスキル、リーダーシップ力を向上させ、将来のキャリアに備える。インターンシップを通じて、現実の職場での実務経験を積むと同時に、職業的成長を支援する授業である。		
	アントレプレナー論	○	新規事業立ち上げの全過程を学ぶ。市場調査から始め、競合分析、ターゲット顧客の特定、ビジネスモデルの開発、そして事業計画の作成までをカバーする。さらに、資金調達戦略、マーケティングと販売戦略、そして事業の運営と成長についても学ぶ。この講義を通じて、学生は理論的な知識だけでなく、実践的なスキルも身につけることができる。具体的な事例を通じて、新規事業立ち上げの成功と失敗について学び、自身のビジネスアイデアを形にするための具体的なステップを理解する。	オムニバス	
	アントレプレナー演習		新規事業立ち上げの実践的なスキルを磨く。学生は自身のビジネスアイデアを持ち込み、それを基に市場調査、競合分析、ターゲット顧客の特定、ビジネスモデルの開発、事業計画の作成を行う。また、資金調達戦略やマーケティングと販売戦略の策定も体験する。演習の最終的な目標は、自身のビジネスアイデアを具現化し、それをプレゼンテーションすることである。このプロセスを通じて、学生は新規事業立ち上げの具体的なステップを体験し、理論を実践に結びつけることができる。	オムニバス	
専門教育科目	卒業研究	データサイエンス基礎演習	○	「データサイエンス基礎演習」は、「データサイエンス実践演習」への準備として位置づけられている。データ駆動型の問題解決プロセスと基本的なAI・機械学習の概念を理解するための基盤を築く。これまでに学んだデータサイエンスの基本的な理論と技術を基に、データ収集、前処理、基本的な統計分析と可視化手法を用いて、実際のデータを使った小規模な分析プロジェクトを実施する。	
		データサイエンス実践演習	○	「データサイエンス実践演習」は、実際のデータと現実の問題を基にしたプロジェクトベース学習である。この科目は、実際のビジネスや社会問題に対するデータサイエンスの適用方法を実践的に学ぶための場を提供する。現場から提供される実データを扱い、問題理解から解決策の提案、AIや機械学習の応用に至るまでのプロセスを経験する。グループワーク、ハッカソン、最終発表を通じて、実践的なデータサイエンスのスキルとチームワーク能力を養う。この科目は、学生が実世界の問題に対するデータ駆動型の解決策を見出し、提案する能力を培うことを目的としている。	
		卒業研究	○	「卒業論文」を履修する学生は、担当教員と研究テーマを決定し、卒業研究を実行する。卒業論文テーマに従って、文献・資料収集と共に実験方法および調査方法などを調べ、研究を実行する。研究成果は、卒業論文発表会で報告する。卒業研究をまとめ、卒業論文として提出する。	

令和5年度(2023年度)小倉北区キャンパス  
学生部 就職指導課 就職支援特別講座等実施一覧

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科			
対象	実施日	担当	備考
3年生	令和5年4月6日(木)	学生部就職指導課	就職ガイダンス
4年生	令和5年4月6日(木)	学生部就職指導課	就職ガイダンス
2年生	令和5年6月15日(木)	(株)マイナビ	就活スタート講座
3年生	令和5年12月7日(木)	(株)マイナビ	自己分析&選考対策講座

東筑紫短期大学			
保育学科			
対象	実施日	担当	備考
2年生	令和5年4月6日(木)	学生部就職指導課	就職ガイダンス
2年生	令和5年5月24日(水)	北九州市 福祉事業団	保育セミナー
2年生	令和5年6月7日(水)	北九州市 私立幼稚園連盟	幼稚園教諭教育懇談会
2年生	令和5年6月14日(水)	北九州市 児童養護施設協議会	児童養護施設等事業説明会
2年生	令和5年7月12日(水)	北九州市 私立保育連盟	保育士就職支援説明会
2年生	令和5年11月9日(木)	北九州 門司民生事業協会	児童養護施設・障害児(者) 支援施設 事業説明会
食物栄養学科			
対象	実施日	担当	備考
2年生	令和5年4月6日(木)	学生部就職指導課	就職ガイダンス
2年生	令和5年5月18日(木)	キャリアコンサルタント 桑野 薫 氏	自己分析等特別講義
2年生	令和5年5月25日(木)	小倉新卒応援 ハローワーク	就職活動の進め方 ／応募書類作成要領 等
1年生	令和5年7月31日(月)	キャリアコンサルタント 桑野 薫 氏	就職活動の進め方 ／本学卒業生の就職状況等について

所属	回答者／実施対象者	回答率
九州栄養福祉大学 食物栄養学部	268 人 / 418 人	64.1%

回答期間：令和5年12月25日(月)～令和6年1月27日(土)

〈九州栄養福祉大学 食物栄養学部〉 令和5年度 学生による事務局満足度調査アンケート

1. あなたの学年を回答してください。(必須)

	比率	人数
1年	29.9%	80 人
2年	29.9%	80 人
3年	25.0%	67 人
4年	15.3%	41 人

2. 一番多く利用したと思われる課はどこですか？(一つだけ選択してください)(必須)

	比率	人数
学生指導課(1号館1階)	57.1%	152 人
就職指導課(1号館1階)	15.0%	40 人
教務課(2号館2階)	16.2%	43 人
会計課(2号館1階)	2.3%	6 人
庶務課(2号館1階)	1.9%	5 人
図書館	7.5%	20 人

【各事務部門の職員の対応や事務手続きについて回答してください】

3. 学生指導課(必須)

	比率	人数
満足している	57.1%	153 人
やや満足している	12.3%	33 人
普通である	30.6%	82 人
やや不満である	0.0%	0 人
不満である	0.0%	0 人

「やや不満である」または「不満である」を回答した場合は、その理由を選択してください。

※理由が選択肢にない場合は入力欄に記述してください。

	比率	人数
事務手続き時の対応が不親切・不明瞭だと感じた	9.5%	2 人
証明書の種類や記入方法がわかりにくい	9.5%	2 人
電話への対応に不満を感じた	4.8%	1 人
学生支援への配慮が十分になされていないと感じた	9.5%	2 人
その他(400文字以内自由記述)	66.7%	14 人

〈自由記述〉※1人記述あり

・あまり行かない

※原文のまま記載しています。

## 4. 就職指導課（必須）

	比率	人数
満足している	43.8%	114 人
やや満足している	10.4%	27 人
普通である	43.1%	112 人
やや不満である	1.5%	4 人
不満である	1.2%	3 人

「やや不満である」または「不満である」を回答した場合は、その理由を選択してください。

※理由が選択肢にない場合は入力欄に記述してください。

	比率	人数
事務手続き時の対応が不親切・不明瞭だと感じた	4.8%	1 人
証明書の種類や記入方法がわかりにくい	9.5%	2 人
電話への対応に不満を感じた	9.5%	2 人
学生支援への配慮が十分になされていないと感じた	14.3%	3 人
その他（400文字以内自由記述）	61.9%	13 人

〈自由記述〉※2人記述あり

- ・雰囲気がとても話しかけづらい。対応があまり良いとは思えなかった。
- ・まだ行ってない

※原文のまま記載しています。

## 9. 各事務部門の窓口対応、事務手続きの改善、その他要望するサービスなどがあれば、具体的に回答してください。（400文字以内自由記述）

※2人記述あり

- ・学生ホールで勉強したいが、閉館時間が早い。もう少し延ばしてくれると勉強する環境が整うと思う。
- ・学内で使えるWi-FiをスマホやiPadでも使えるようにしてほしい。授業関連（補講、休講）もう少し連絡をはやくして欲しい。スケジュール管理ができない。

※原文のまま記載しています。

所属	回答者／実施対象者	回答率
九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部	251 人 / 469 人	53.5%

回答期間：令和5年12月25日(月)～令和6年1月27日(土)

〈九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部〉令和5年度 学生による事務局満足度調査アンケート

## 1. あなたの学年を回答してください。(必須)

	比率	人数
1年	30.3%	76人
2年	21.1%	53人
3年	15.1%	38人
4年	33.5%	84人

## 2. 一番多く利用したと思われる課はどこですか？(一つだけ選択してください)(必須)

	比率	人数
学生指導課(就職指導室含む)(1号館1階)	13.2%	33人
教務課(1号館1階)	71.2%	178人
会計課(1号館1階)	1.6%	4人
庶務課(1号館1階)	0.0%	0人
図書館分室	14.0%	35人

【各事務部門の職員の対応や事務手続きについて回答してください】

## 3. 学生指導課(就職指導室含む)(必須)

	比率	人数
満足している	70.9%	178人
やや満足している	8.8%	22人
普通である	19.1%	48人
やや不満である	0.4%	1人
不満である	0.8%	2人

「やや不満である」または「不満である」を回答した場合は、その理由を選択してください。

※理由が選択肢にない場合は入力欄に記述してください。

	比率	人数
事務手続き時の対応が不親切・不明瞭だと感じた	7.1%	2人
証明書の種類や記入方法がわかりにくい	7.1%	2人
電話への対応に不満を感じた	0.0%	0人
学生支援への配慮が十分になされていないと感じた	10.7%	3人
その他(400文字以内自由記述)	75.0%	21人

〈自由記述〉

なし

※原文のまま記載しています。

8. 各事務部門の窓口対応、事務手続きの改善、その他要望するサービスなどがあれば、具体的に回答してください。（400文字以内自由記述）

※7人記述あり

- ・事務局大好きです。国試勉強の励みになります。今後ともよろしくお願いします！
- ・ユニバが新しくなり、以前よりも使いにくく感じます
- ・とても楽しく大学生活を送れています。ありがとうございます。これからも勉強がんばります。
- ・単位ください
- ・ファミマのPayPay化、両替機
- ・階段教室が上と下で温度差が激しい。上はとても暑くなるのでどうにかしてほしい。
- ・家で勉強出来ないなので、学校で解剖の動画を見て勉強したかったけれど電波の繋がりが悪く、問題フォームもとけず、動画も見れなかったため、勉強出来なかったです。

※原文のまま記載しています。

所属	回答者／実施対象者	回答率
東筑紫短期大学 全学科	292 人 / 367 人	79.6%

回答期間：令和5年12月25日(月)～令和6年1月27日(土)

## 〈東筑紫短期大学〉令和5年度 学生による事務局満足度調査アンケート

## 1. あなたの学年を回答してください。(必須)

	比率	人数
1年	54.5%	158人
2年	45.5%	132人

## 2. 一番多く利用したと思われる課はどこですか？(一つだけ選択してください)(必須)

	比率	人数
学生指導課(1号館1階)	41.2%	120人
就職指導課(1号館1階)	30.6%	89人
教務課(2号館2階)	16.5%	48人
会計課(2号館1階)	2.4%	7人
庶務課(2号館1階)	3.1%	9人
図書館	6.2%	18人

## 【各事務部門の職員の対応や事務手続きについて回答してください】

## 3. 学生指導課(必須)

	比率	人数
満足している	64.6%	188人
やや満足している	12.0%	35人
普通である	22.3%	65人
やや不満である	0.7%	2人
不満である	0.3%	1人

「やや不満である」または「不満である」を回答した場合は、その理由を選択してください。

※理由が選択肢にない場合は入力欄に記述してください。

	比率	人数
事務手続き時の対応が不親切・不明瞭だと感じた	9.7%	3人
証明書の種類や記入方法がわかりにくい	6.5%	2人
電話への対応に不満を感じた	0.0%	0人
学生支援への配慮が十分になされていないと感じた	6.5%	2人
その他(400文字以内自由記述)	77.4%	24人

〈自由記述〉※2人記述あり

- ・良かった
- ・対応が少し遅い時があるので、早めに対応お願いします。

※原文のまま記載しています。

## 4. 就職指導課（必須）

	比率	人数
満足している	57.4%	166 人
やや満足している	9.0%	26 人
普通である	32.9%	95 人
やや不満である	0.7%	2 人
不満である	0.0%	0 人

「やや不満である」または「不満である」を回答した場合は、その理由を選択してください。

※理由が選択肢にない場合は入力欄に記述してください。

	比率	人数
事務手続き時の対応が不親切・不明瞭だと感じた	30.8%	4 人
証明書の種類や記入方法がわかりにくい	0.0%	0 人
電話への対応に不満を感じた	0.0%	0 人
学生支援への配慮が十分になされていないと感じた	15.4%	2 人
その他（400文字以内自由記述）	53.8%	7 人

〈自由記述〉

なし

※原文のまま記載しています。

## 9. 各事務部門の窓口対応、事務手続きの改善、その他要望するサービスなどがあれば、具体的に回答してください。（400文字以内自由記述）

※1人記述あり

・もっと笑顔で話せば良いと思う。

※原文のまま記載しています。

所属	回答者／実施対象者	回答率
九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科	1 人 / 2 人	50.0%

回答期間：令和5年12月25日(月)～令和6年1月27日(土)

〈九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科〉令和5年度 学生による事務局満足度調査アンケート

## 1. あなたの学年を回答してください。(必須)

	比率	人数
1年	0.0%	0人
2年	100.0%	1人

## 2. 一番多く利用したと思われる課はどこですか？(一つだけ選択してください)(必須)

	比率	人数
学生指導課(小倉南区キャンパス)	0.0%	0人
教務課(小倉南区キャンパス)	0.0%	0人
会計課(小倉南区キャンパス)	0.0%	0人
庶務課(小倉南区キャンパス)	0.0%	0人
図書館分室	0.0%	0人
学生指導課(小倉北区キャンパス)	0.0%	0人
就職指導課(小倉北区キャンパス)	100.0%	1人
教務課(小倉北区キャンパス)	0.0%	0人
会計課(小倉北区キャンパス)	0.0%	0人
庶務課(小倉北区キャンパス)	0.0%	0人
図書館	0.0%	0人
いずれも利用したことがない	0.0%	0人

【各事務部門の職員の対応や事務手続きについて回答してください】

## 3. 学生指導課(小倉南区・北区キャンパス)(必須)

	比率	人数
満足している	100.0%	1人
やや満足している	0.0%	0人
普通である	0.0%	0人
やや不満である	0.0%	0人
不満である	0.0%	0人

「やや不満である」または「不満である」を回答した場合は、その理由を選択してください。

※理由が選択肢にない場合は入力欄に記述してください。

	比率	人数
事務手続き時の対応が不親切・不明瞭だと感じた	0.0%	0人
証明書の種類や記入方法がわかりにくい	0.0%	0人
電話への対応に不満を感じた	0.0%	0人
学生支援への配慮が十分になされていないと感じた	0.0%	0人
その他(400文字以内自由記述)	0.0%	0人

〈自由記述〉

なし

※原文のまま記載しています。

## 4. 就職指導課（室）（小倉南区・北区キャンパス）（必須）

	比率	人数
満足している	100.0%	1人
やや満足している	0.0%	0人
普通である	0.0%	0人
やや不満である	0.0%	0人
不満である	0.0%	0人

「やや不満である」または「不満である」を回答した場合は、その理由を選択してください。

※理由が選択肢にない場合は入力欄に記述してください。

	比率	人数
事務手続き時の対応が不親切・不明瞭だと感じた	0.0%	0人
証明書の種類や記入方法がわかりにくい	0.0%	0人
電話への対応に不満を感じた	0.0%	0人
学生支援への配慮が十分になされていないと感じた	0.0%	0人
その他（400文字以内自由記述）	0.0%	0人

〈自由記述〉

なし

※原文のまま記載しています。

## 9. 各事務部門の窓口対応、事務手続きの改善、その他要望するサービスなどがあれば、具体的に回答してください。（400文字以内自由記述）

なし

※原文のまま記載しています。

## 小倉北区キャンパス 就職指導課 各種サービスの予約方法について

就職指導課予約サイト「<https://reserva.be/knwushukatsu>」にアクセスしてください。

\*各種検索エンジンや学内に掲示している2次元コードから接続できます。

① 接続後、以下の内容が表示されます。  
「希望するサービス」を選択してください。



② 例：「履歴書・エントリーシート添削(対面)」を選択します。



③ 選択した担当者のカレンダーが表示されます。  
「希望する日時」を選択してください。



④ ③で選択した日時が表示されます。



⑤ 以下の内容が表示されます。  
「予約者(ご本人)」の情報を入力してください。

⑥ 入力した「予約者(ご本人)」情報が反映され  
最終確認用として表示されます。

就職指導課予約サイト

← ホーム

氏名 \*

姓 名

氏名 (カナ) \*

セイ メイ

メールアドレス \*

abcde@example.com

\*携帯キャリアのアドレスを入力する場合、携帯キャリアの受信許可リストに「reserva.be」を追加してください。

メールアドレス (確認) \*

abcde@example.com

電話番号 \*

0312345678

連絡事項

連絡事項がございましたらご入力ください

履歴書・エントリーシート添削 (対面)

予約日時  
2024年 03月 04日 (月) 11:00

担当者  
松成 翔

氏名 \*  
松成 翔

氏名 (カナ) \*  
マツナリ ショウ

メールアドレス \*  
matsunari@hcc.ac.jp

電話番号 \*  
0935612172

連絡事項

※必ず✓を入れてください。

RESERVA利用規約に同意する

完了する

戻る

予約者 (ご本人) の情報

入力内容に誤りが無ければ「完了する」を押下。

⑦ 「確定した予約」情報が表示されます。  
\*この画面への遷移で登録完了です。

就職指導課予約サイト

← ホーム

予約完了

ご予約いただき、誠にありがとうございます。  
ご予約が完了いたしました。  
予約完了の確認メールを送信いたしましたので、必ず予約内容をご確認ください。

予約情報

予約日時	2024年3月4日(月) 11:00~11:45
予約番号	e0waqhPf2

#### \* その他

- UNIPA「企業求人照会」の操作方法がわからない…  
気になる企業、法人等から求人が届いているかを知りたい…
- 求人票のどこを確認すればよいかわからない…  
就職活動に不安を感じている…  
などでお困りの場合は、  
**就職指導課 (小倉北区キャンパス 1号館 1階)**  
をお訪ねください。  
TEL : 093-561-2172  
E-mail : [shukatsu@knwu.ac.jp](mailto:shukatsu@knwu.ac.jp)  
<※件名に学籍番号と名前を明記してください>

小倉北区キャンパス  
『就職指導課予約サイト』はこちら



## 学生確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類

### 目次

- (1) 新設組織の概要
- (2) 人材需要の社会的な動向等
- (3) 学生確保の見通し等
- (4) 新設組織の定員設定の理由

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要 (名称、入学定員 (編入学定員)、収容定員、所在地)

新設組織	入学定員	3年次 編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食環境データサイエ ンス学科	50	0	200	福岡県北九州市小倉北区 下到津5丁目1番1号

②新設組織の特色

食品の生産・流通・医療・福祉・環境に関する幅広い知識とこれらに関連する多量のデータ収集・分析能力を有し、食の課題について多角的なアプローチにより解決することのできるデータサイエンティストを養成する。

既施設の組織の定員変更

(変更前)

近接する既施設	入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
東筑紫短期大学 保育学科	150	300	福岡県北九州市小倉北区 下到津5丁目1番1号
東筑紫短期大学 食物栄養学科	70	140	福岡県北九州市小倉北区 下到津5丁目1番1号

(変更後)

近接する既施設	入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
東筑紫短期大学 保育学科	70	140	福岡県北九州市小倉北区 下到津5丁目1番1号
東筑紫短期大学 食物栄養学科	50	100	福岡県北九州市小倉北区 下到津5丁目1番1号

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向分析

データサイエンティスト不足の現状と今後

【令和4年度の有効求人倍率は2.77】

企業側のニーズに対し、データサイエンティストの人数は不足しているというのが現状である。ハローワークの求人統計データによると、データサイエンティストの有効求人倍率は2.77となっている。これは、データサイエンティストを志望している求職者1人に対し、該当ポジションの求人が2.77件あるという状態である。つまり、企業が求めているデータサイエンティストの人数に対し、求職者の数が不足していることを意味している。このデータから、企業側がデータサイエンティストを確保するのに苦労している現状が伺える。

【2030年にAI人材は最大14.5万人不足】

将来的にも、データサイエンティストが不足する状況は続くと予想される。経済産業省が2019年に発表した調査結果「IT人材需給に関する調査 - 調査報告書」では、AIに関する需要が現状と同程度で伸び続けた場合、AI人材は最大14.5万人不足すると試算されている。

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的分析

18歳人口予測 (全体：九州沖縄：2022～2034年)

		2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
福岡県	人数	45,564	45,254	44,280	46,058	47,297	47,308	46,859
	指数	100.0	99.3	97.2	101.1	103.8	103.8	102.8
		2029	2030	2031	2032	2033	2034	
	人数	47,890	47,058	46,551	46,381	45,962	45,658	
	指数	105.1	103.3	102.2	101.8	100.9	100.2	

1 8歳人口予測（男子：九州沖縄：2022～2034年）

		2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
福岡県	人数	23,156	23,031	22,584	23,577	24,059	23,961	23,580
	指数	100.0	99.5	97.5	101.8	103.9	103.5	101.8
		2029	2030	2031	2032	2033	2034	
	人数	24,630	24,031	23,916	23,762	23,644	23,731	
	指数	106.4	103.8	103.3	102.6	102.1	100.1	

1 8歳人口予測（女子：九州沖縄：2022～2034年）

		2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
福岡県	人数	22,408	22,223	21,696	22,481	23,238	23,347	23,279
	指数	100.0	99.2	96.8	100.3	103.7	104.2	103.9
		2029	2030	2031	2032	2033	2034	
	人数	23,260	23,027	22,635	22,619	22,318	22,487	
	指数	103.8	102.8	101.0	100.9	99.6	100.4	

福岡県の18歳人口予測2022～2034年（13年間分）を上記に示した。2022年の18歳人口を100とした場合に、それぞれの年の指数で表している。

全体については、2034年100.2、男子学生については2034年100.1、女子については2034年100.4であり、男女共に開設から10年間福岡県内の18歳人口は、減少しないことが推測される。また、福岡県の大学への進学率（現役）推移を下記に示した。

2013年大学への進学率が44.6%、2022年大学への進学率が51.3%と13年間で6.7%進学率が上昇している。

2023年以降10年間の進学率は、正確には、分からないが急激に進学率が下がることは考えにくく、少なくとも2022年の進学率を下回らないと考えられる。したがって開設の年、定員を充足できれば開設から10年間定員を充足できると考えられる。

福岡県の大学への進学率（2022～2034年）

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
卒業者数	42,908	41,758	42,095	42,094	42,535	41,698
大学進学者数	19,141	19,082	19,668	19,900	20,256	19,669
大学進学率	44.6	45.7	46.7	47.3	47.6	47.2
	2019	2020	2021	2022		
卒業者数	41,981	41,909	40,738	39,994		
大学進学者数	20,042	19,988	19,790	20,518		
大学進学率	47.7	47.7	48.6	51.3		

③新設組織の主な学生募集地域

九州栄養福祉大学での、出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）

〈食物栄養学部〉令和5年度実績

	都道府県	人数	構成比
1	福岡県	263人	61.9%
2	山口県	54人	12.7%
3	鹿児島県	31人	7.3%
4	大分県	17人	4.0%
5	宮崎県	14人	3.3%
		425人	100%

〈リハビリテーション学部〉令和5年度実績

	都道府県	人数	構成比
1	福岡県	360人	75.5%
2	大分県	38人	8.0%
3	山口県	36人	7.5%
4	鹿児島県	9人	1.9%
5	宮崎県	8人	1.7%
		477人	100%

添付データ別紙1の通り、福岡県全体でいえば、福岡県からの入学者が一番多く57.7%を占めている。次に佐賀県、熊本県、長崎県と続く。本学においても、食物栄養学部、リハビリテーション学部ともにやはり福岡県が一番多い。食物栄養学部は61.9%、リハビリテーション学部は75.5%であり、県全体の構成比よりも若干高めである。したがって、当然ながら地元福岡県、特に北九州市を中心に学生募集を展開していくことになる。おそらく、新学部も福岡県が全体の60%程度を占めると推測される。ただし、1番の福岡県以外になると、食物栄養学部では2番目に山口県、3番目に鹿児島県、4番目に大分県、5番目に宮崎県となり、福岡県全体の構成比とはかなり順位が異なる。リハビリテーション学部についても、2番目が大分県、3番目が山口県であり、本学が九州最北端の北九州市に立地し、近隣の山口県下関市や大分県中津市・宇佐市から通学圏内であるため、福岡市地区の大学とは募集地域が異なっており、このことが本学の強みであると考えられ、山口県、大分県は特に重点的に学生募集に取り組む。

【添付データ】

- ・新設組織が置かれる都道府県の入学状況（別紙1）

④既設組織の定員充足の状況

別紙2-1の3で示したように、過去5年間の平均入学定員充足率については、食物栄養学部食物栄養学科 1.03、リハビリテーション学部理学療法学科 1.18、リハビリテーション学部作業療法学科 0.78、東筑紫短期大学保育学科 0.80。東筑紫短期大学食物栄養学科 1.01 と全ての学科が 0.7 倍を超えており、三学科については定員を充足している。全ての学科が免許や資格取得を目的としており、生活に欠かせない分野を学びたい学生は多くはないが、一定数存在すると考えられる。今回新設する食環境データサイエンス学科も、生活していくうえで欠かせない食環境について学ぶ学科であり、既設の学部同様、ある一定数の入学希望者が存在すると考えられ、定員の 50 名は充足できると考えられる。

また、東筑紫短期大学保育学科は現在、入学定員が 150 名である。過去5年間の定員充足率の平均は 0.8 で充足していないため、令和7年度より入学定員を 70 名に変更する予定である。また、東筑紫短期大学食物栄養学科の入学定員も 70 名から 50 名に変更予定である。

【添付データ】

- ・既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）（別紙2の1）

（3）学生確保の見通し等

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

高校訪問については、添付の学生募集高校訪問分担表 5 月分、12 月分を添付した。大学と短期大学の教員で担当し、北九州地区を中心に沖縄県を除く九州全県を訪問している。基本的に年 2 回（5 月・12 月）実施している（学生募集高校訪問分担表添付）。この訪問により、進路指導の先生方に直接本学の教育の特徴や入試の内容などについて、説明している。毎年ほぼ同じ教員が同じ高校を担当しているため、進路の先生方とも親しく信頼関係を構築できているのではないかと考える。

近接する学問分野を持つ既設組織として、食物栄養学部食物栄養学科について説明する。別紙3にオープンキャンパス、進学ガイダンスの取り組み概要と入学者数などに関する分析を示した。オープンキャンパスについては、令和3年6回開催、令和4年6回開催した。オープンキャンパス参加者のなかで毎年 30～40%前後の学生が入学している。進学ガイダンスについては、令和3年高校会場 38 校、会場形式 58 会場、令和4年高校会場 43 校、会場形式 42 会場に参加した。進学ガイダンス相談者から毎年 10～20%前後の学生が入学している。したがって、オープンキャンパスや進学ガイダンスへの参加が学生確保において重要である。オープンキャンパスや進学ガイダンスへの参加者の約 50%の学生が入学へと結びついている。そのため、新学科についても、オープンキャンパス、進学ガイダンスを中心に募集活動を行う。

【添付データ】

- ・既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績（別紙3）

イ 新設組織における取組とその目標

過去5年間の食物栄養学部食物栄養学科の入学者数について、下記に示した。

令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
99人	108人	113人	110人	83人

令和元年度に100を割った年度もあったが、毎年入学定員の100名前後を維持しており、今回新設する食環境データサイエンス学科も同じ食分野であるため、一連の学生募集の方法については、大きな変更はせず、新学科への学生募集に力を入れていく。したがって、高校訪問については年2回、オープンキャンパスは年6回以上、特別に新学部のみオープンキャンパスも計画している。また、進学ガイダンスも高校会場40校前後、会場形式50会場前後の参加を予定している。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

オープンキャンパスについては、アで述べたように、オープンキャンパス参加者のなかで毎年30～40%前後の学生が入学しており、進学ガイダンス相談者から毎年10～20%前後の学生が入学している。したがって、オープンキャンパス、進学ガイダンスとともにトータルで150名以上が参加・相談するように募集活動を行えば、定員充足可能であると考える。

## ②競合校の状況分析(立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況)

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

【競合校】中村学園大学栄養科学部フード・マネジメント学科

新学科の教育内容は食環境に関する幅広い知識とこれらに関する多量のデータ収集・分析能力を有するデータサイエンスの専門家を養成することである。したがって、類似性のある競合校の設定は大変難しいが、中村学園大学栄養科学部フード・マネジメント学科を設定させていただいた。

中村学園は1957年中村栄養短期大学栄養科を開学している。九州では最も歴史のある(九州で最初の)栄養士養成校として知られている。東筑紫学園は1950年東筑紫短期大学被服科を開学し、1958年栄養科を開設している。したがって、中村学園より1年遅れの開設ではあるが、九州では2番目の栄養士養成伝統校として知られている。九州栄養福祉大学は2001年食物栄養学部のみ管理栄養士養成専門大学として開学したが、栄養士教育ということでは、同一法人東筑紫短期大学での教育経験が礎となっている。したがって、両大学とも食と栄養に関する長い教育経験があり、それに加えて、フードマネジメントやデータサイエンスなどの分野を学ぶ点が共通している。

入学定員については、中村学園大学栄養科学部フード・マネジメント学科が100名、九州栄養福祉大学食物栄養学部食環境データサイエンス学科が50名である。

所在地については、中村学園大学は人口約160万人の都市福岡市にあり、九州栄養福祉大学は人口約92万人の北九州市にあるため、比較的大都市に設置している。したがって、競合校であるが、主な学生募集地域に関しては、中村学園大学は福岡都市圏、九州栄養福祉大学は北九州地区、山口県下関市、大分県中津市・宇佐市など、対象地域が分かれている。

### イ 競合校の入学志願動向等

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
志願者数	413名	564名	425名
受験者数	411名	561名	423名
合格者数	285名	329名	349名
入学者数	122名	129名	122名
定員充足率	122%	129%	122%

中村学園大学栄養科学部フード・マネジメント学科は、志願者数も毎年400名を超え、定員充足率も100%も超えている。福岡市と北九州市では都市の規模が異なるが、本学は入学定員を中村学園大学の半分、50名を予定しているため、定員充足はできるのではないかと考える。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等(競合校定員に未充足の場合のみ)

上記のとおり、過去3年間入学定員充足率100%を超えている。

エ 学生納付金等の金額設定理由

学生納付金については、入学金を 23 万円、授業料等を 122 万円とし、初年度の学生納付金は 145 万円とした。2 年次以降は入学金を除いた 122 万円とする。これは、学生への還元と大学の経営に関わる財務的視点、大学の今後の発展のための施設・設備の充実を考慮するとともに、近隣の他大学における学生納付金の設定状況も考慮したうえで設定している。

近隣の類似学部学科を持つ大学との比較

大学名	入学金	授業料等	初年度合計
九州栄養福祉大学	230,000 円	1,220,000 円	1,450,000 円
A 大学	260,000 円	1,190,000 円	1,450,000 円
B 大学	300,000 円	1,000,000 円	1,300,000 円

③選考事例分析  
該当なし

④学生確保に関するアンケート調査  
アンケート依頼

高校訪問分担表のとおり直接本学教員が高校に訪問し所属長にアンケート依頼した。

(依頼状添付)

依頼校数 39 校： (実施期間：1 月下旬～2 月中旬)

既設学部、学科に入学実績がある高校で 2 時間以内に通学できる高校を選択。

締切りまでにアンケートの回答校：35 校 (一覧表添付)

年度末の忙しい時期に急遽アンケートをお願いしたにも拘らず、予想以上に回答していただいた。

アンケート回答の高校生 (現 2 年生) 総数：7,179 名

アンケート対象者に必要な情報を提供するためにリーフレットを作成した。

(リーフレット添付)

情報の内容については、開設予定の学部・学科の名称、入学定員、学費、学位、学びの内容、設置の理念、養成する人材像、アドミッションポリシー、取得を目指す資格、卒業後の進路、類似大学学部・学科を明示した。

アンケートの調査内容については、申請手引きの書式に則り作成した。

(アンケート用紙添付)

【アンケート調査分析結果】

分析については、設問 1～5 までの条件にすべて合格するものを集計したうえで分析を行った。

具体的には、設問 4 の①第 1 志望として受験すると集計する場合には、設問 1 では①大学を、設問 2 では③私立を、設問 3 ではどれを選んでも可、設問 5 では①入学するを選んだものに限る。

設問 4 の②第 2 志望として受験すると集計する場合は、設問 1 では①大学を、設問 2 では③私立を、設問 3 ではどれを選んでも可、設問 5 で①入学する、または、②志望順位が上位のほかの志望校が不合格の場合、入学するを選んだものに限る。

設問 4 の③第 3 志望として受験すると集計する場合は、設問 1 では①大学を、設問 2 では③私立を、設問 3 ではどれを選んでも可、設問 5 で①入学する、または、②志望順位が上位のほかの志望校が不合格の場合、入学するを選んだものに限るとした。

以上の集計方法により新設組織の受験希望の結果一覧表を作成した。

(別紙：新学部・新学科アンケート調査結果)

食物栄養学部食環境データサイエンス学科の第 1 志望者は、40 名で定員 50 名に届か

なかった。しかし、第2志望が73名、第3志望が119名であった。多くの学生が新しい学科について興味があると推測できる。第2志望、第3志望合わせて192名興味を示しており、そのうち何名かは出願に結びつくと考えられる。しかも依頼した高校4校が現在のところ未回答であるため、今後さらに増えることが考えられる。また、今回は、福岡県内でも2時間以内で通学可能な地元の高校に依頼した。しかし本学は、関門地区といわれるところに位置しており、山口県ではあるが、下関市と本学が所在する小倉は、JR線でも30分以内の距離にある。

したがって下関市内またはその近郊には、10校の高校(下関西、下関南、下関商業、長府、豊浦、下関中等教育、早鞆、下関国際、田部、下関北)あり、この10校すべてが2時間以内の通学圏内にある。この10校のアンケート調査を実施すれば、さらに希望が増えることが予測される。

また、大分県ではあるが2時間以内で通学できる中津地区に4校(中津南、中津南耶馬溪校、中津北、中津東)、宇佐地区に9校(東九州龍谷、宇佐、安心院、柳ヶ浦、高田、杵築、国東、日出総合、宇佐産業科学)あるため、追加でアンケートを実施可能である。現在35校のアンケート調査結果により、第1志望が40名という結果である。この結果より、第1志望の受験生が最低1校1名以上存在すると推測される。したがって、現在アンケート未回収校が4校、アンケート未実施校が23校あり、合計27校で第1志望者が最低でも27名以上存在すると推測し、現在第1志望者が40名で、推測した27名以上と合わせると67名以上の第1志望者が見込まれる。

以上の調査結果から定員50名の学生確保が十分に可能かと考えられる。

#### ⑤人材需要に関するアンケート調査等

	受入施設名	主な事業内容	所在地	受入可能施設
1	アイコムソフト株式会社	IoT インフラソリューション マイグレーションソリューション シンクライアントシステムソリューション RPA 導入支援ソリューション	北九州市 戸畑区	1~2人 程度
2	株式会社オプティム	ライセンス販売・保守サポートサービス事業 IoT インフラソリューション リモートマネジメントサービス サポートサービス	東京本社： 東京都港区 佐賀本店： 佐賀県佐賀市 学内サテライトオフィス： 北九州市小倉 北区	1~5人 程度
3	北九州市ロボット・DX推進センター 【運営】(公財)北九州産業学術推進機構	ロボット関連事業 DX関連事業	北九州市若松区	1~5人 程度
4	極東ファディ株式会社	コーヒー焙煎卸売・小売 業務用食品の卸売・小売、酒類卸売・小売	北九州市小倉 北区	1~5人 程度
5	クラウン製パン株式会社	パン菓子製造小売業	北九州市小倉 北区	1~2人 程度
6	株式会社しゅんさいくらぶ	給食受託業務 (本学食堂・売店の委託業者)	北九州市小倉 南区	1~2人 程度
7	株式会社セキュアサイクル	情報セキュリティ及びシステム開発に関する各種診断・対応、セミナー、コンサルティング	北九州市若松区	1~3人 程度
8	TOTO株式会社	システムトイレ、ユニットバスルーム、システムキッチン、洗面化	北九州市小倉 北区	1~5人 程度

		粧台		
9	株式会社ドーワテクノス	産業用プラント電機、計装設備コーディネート、生産ライン FA 化の提案、FA 用各種機器の販売 電気、機械、通信、管工事の設計、施工 庁内や教育機関等への行政教育インフラ構築 セキュリティ統合管理ソフトの販売	北九州市八幡西区	1～5 人程度
10	株式会社ハピクロ	保育園運営事業、IT/IoT 導入サポート事業 プログラミング教室	北九州市八幡西区	1～3 人程度
11	寶結株式会社	DX 支援事業 スタートアップ支援事業	北九州市小倉北区	1～3 人程度

アンケート調査は実施できていないが、上記記載の企業と現在本学は産学連携協定を締結しており、実習の受入のみならず、具体的な社会課題解決のための共同研究、講師派遣など、強固な連携体制を構築し、就職にも繋げていく予定である。したがって、社会的な人材需要の見通しを踏まえた計画であると考ええる。

#### (4) 新設組織の定員設定の理由

第一に、入学定員が 50 名で収容定員が 200 名、専任教員就任予定が 6 名であり、単純に教員一人あたりの学生数が約 33 人となる。(1) ②で述べた教育内容を実現するためには、これ以上の学生数では難しいと判断する。特にインターンシップ（企業実習）に伴うきめ細かな指導が必要である。

第二に、学生の確保の見通しから、入学定員 50 名が妥当であると考ええる。アンケート調査の結果より、今回回答があった 35 校のなかで 40 名が食物栄養学部食環境データサイエンス学科を第一志望に回答した。第二志望、第三志望合わせて 192 名が食物栄養学部食環境データサイエンス学科に興味を示している。残り 4 校が未回答であり、山口県下関地区 10 校、大分県中津・宇佐地区 13 校についてはアンケート調査を行っていないため、正確の数は分からないが、現段階では入学定員を 50 名とするのが妥当であると考ええる。

## 資料目次

- (資料 1) 別紙 1 新設組織が置かれる都道府県の入学状況
- (資料 2) 別紙 2 の 1 既設学科等の入学定員の充足状況 (直近 5 年間)
- (資料 3) 学生募集高校訪問分担表 (2023 年 5 月分)
- (資料 4) 学生募集高校訪問分担表 (2023 年 12 月分)
- (資料 5) 別紙 3 既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績
- (資料 6) 新学部・新学科アンケート依頼状
- (資料 7) 新学部・新学科設置準備アンケート依頼高校訪問一覧表および回答結果
- (資料 8) 食環境データサイエンス学科リーフレット (オモテ)
- (資料 9) 食環境データサイエンス学科リーフレット (ウラ)
- (資料 10) 食環境データサイエンス学科アンケート用紙
- (資料 11) 高校別 新学部・新学科アンケート調査結果

## 新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	福岡県	15,028人	57.7%
2	佐賀県	1,362人	5.2%
3	熊本県	1,248人	4.8%
4	長崎県	1,067人	4.1%
5	鹿児島県	1,004人	3.9%
	全 体	26,055人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	福岡県	100.48%	99.75%	99.74%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	家政学	94.11%	95.28%	89.01%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数		0人	0人	10人	10人	5人	
	延べ人数	志願者数		18人	27人	37人	32人	29人
		受験者数		18人	27人	35人	32人	28人
		合格者数		17人	27人	34人	28人	27人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		18人	27人	37人	32人	29人
		受験者数		18人	27人	35人	32人	28人
		合格者数		17人	27人	34人	28人	27人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数		17人	27人	34人	27人	26人	
	学校推薦型選抜	募集人数	50人	45人	45人	40人	40人	44人
延べ人数		志願者数	41人	46人	48人	50人	44人	46人
		受験者数	41人	46人	48人	50人	44人	46人
		合格者数	40人	46人	48人	50人	44人	46人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	41人	46人	48人	50人	44人	46人
		受験者数	41人	46人	48人	50人	44人	46人
		合格者数	40人	46人	48人	50人	44人	46人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		40人	46人	48人	50人	44人	46人	
一般選抜		募集人数	40人	40人	40人	35人	35人	38人
	延べ人数	志願者数	69人	94人	59人	80人	61人	73人
		受験者数	68人	94人	59人	79人	60人	72人
		合格者数	67人	72人	52人	53人	55人	60人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	69人	94人	59人	80人	61人	73人
		受験者数	68人	94人	59人	79人	60人	72人
		合格者数	67人	72人	52人	53人	55人	60人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	33人	33人	23人	32人	27人	30人
	入学者数	34人	39人	29人	21人	28人	30人	
	共通テスト利用入試	募集人数	10人	10人	10人	10人	10人	10人
延べ人数		志願者数	52人	87人	59人	64人	36人	60人
		受験者数	52人	86人	59人	64人	36人	59人
		合格者数	48人	57人	49人	23人	26人	41人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	52人	87人	59人	64人	36人	60人
		受験者数	52人	86人	59人	64人	36人	59人
		合格者数	48人	57人	49人	23人	26人	41人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	40人	49人	40人	20人	26人	35人
入学者数		8人	8人	9人	3人	0人	6人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人数	100人	95人	95人	95人	95人	96人
延べ人数		志願者数	163人	245人	193人	231人	173人	201人
		受験者数	162人	244人	193人	228人	172人	200人
		合格者数	156人	192人	176人	160人	153人	167人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	163人	245人	193人	231人	173人	201人
		受験者数	162人	244人	193人	228人	172人	200人
		合格者数	156人	192人	176人	160人	153人	167人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	73人	82人	63人	52人	54人	65人
入学者数		83人	110人	113人	108人	99人	103人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人	100
入学定員充足率	0.83	1.10	1.13	1.08	0.99	1.03
歩留率	0.53	0.57	0.64	0.68	0.65	0.61

（備考）特記事項がある場合は記載すること。  
総合型選抜・その他の特別選抜の募集人数0人は若干名の募集である。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数		0人	0人	8人	8人	4人	
	延べ人数	志願者数		21人	26人	42人	26人	29人
		受験者数		21人	26人	42人	25人	29人
		合格者数		17人	21人	36人	22人	24人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		21人	26人	42人	26人	29人
		受験者数		21人	26人	42人	25人	29人
		合格者数		17人	21人	36人	22人	24人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		17人	21人	36人	22人	24人	
	学校推薦型選抜	募集人数	40人	36人	36人	32人	32人	35人
延べ人数		志願者数	54人	51人	53人	40人	48人	49人
		受験者数	54人	51人	53人	40人	48人	49人
		合格者数	53人	51人	52人	40人	46人	48人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	54人	51人	53人	40人	48人	49人
		受験者数	54人	51人	53人	40人	48人	49人
		合格者数	53人	51人	52人	40人	46人	48人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		52人	51人	52人	40人	46人	48人	
一般選抜		募集人数	32人	32人	32人	28人	28人	30人
	延べ人数	志願者数	57人	44人	40人	37人	49人	45人
		受験者数	57人	41人	39人	35人	47人	44人
		合格者数	55人	34人	34人	29人	45人	39人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	57人	44人	40人	37人	49人	45人
		受験者数	57人	41人	39人	35人	47人	44人
		合格者数	55人	34人	34人	29人	45人	39人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	15人	12人	12人	11人	22人	14人
	入学者数	40人	22人	22人	18人	23人	25人	
	共通テスト利用入試	募集人数	8人	8人	8人	8人	8人	8人
延べ人数		志願者数	54人	51人	41人	51人	39人	47人
		受験者数	54人	51人	41人	51人	39人	47人
		合格者数	44人	30人	26人	18人	26人	29人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	54人	51人	41人	51人	39人	47人
		受験者数	54人	51人	41人	51人	39人	47人
		合格者数	44人	30人	26人	18人	26人	29人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	41人	25人	25人	17人	25人	27人
入学者数		3人	5人	1人	1人	1人	2人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人数	80人	76人	76人	76人	76人	77人
延べ人数		志願者数	165人	167人	160人	170人	162人	165人
		受験者数	165人	164人	159人	168人	159人	163人
		合格者数	152人	132人	133人	123人	139人	136人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	165人	167人	160人	170人	162人	165人
		受験者数	165人	164人	159人	168人	159人	163人
		合格者数	152人	132人	133人	123人	139人	136人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	57人	37人	37人	28人	47人	41人
入学者数		95人	95人	96人	95人	92人	95人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80
入学定員充足率	1.19	1.19	1.20	1.19	1.15	1.18
歩留率	0.63	0.72	0.72	0.77	0.66	0.70

（備考）特記事項がある場合は記載すること。  
総合型選抜・その他の特別選抜の募集人数0人は若干名の募集である。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数			0人	0人	4人	4人	
	延べ人数	志願者数			3人	12人	4人	9人
		受験者数			3人	12人	4人	8人
		合格者数			2人	10人	4人	8人
		うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人
		辞退者数			0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数			3人	12人	4人	9人
		受験者数			3人	12人	4人	8人
		合格者数			2人	10人	4人	8人
		うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人
		辞退者数			0人	2人	0人	1人
	入学者数			2人	10人	4人	7人	
	学校推薦型選抜	募集人数	20人	18人	18人	16人	16人	18人
		延べ人数	志願者数	22人	15人	17人	6人	16人
受験者数			22人	15人	17人	6人	16人	15人
合格者数			22人	14人	17人	6人	16人	15人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	22人	15人	17人	6人	16人	15人
		受験者数	22人	15人	17人	6人	16人	15人
		合格者数	22人	14人	17人	6人	16人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
入学者数		22人	13人	17人	6人	16人	15人	
一般選抜		募集人数	16人	16人	16人	14人	14人	15人
		延べ人数	志願者数	15人	33人	20人	21人	9人
	受験者数		15人	33人	20人	21人	9人	20人
	合格者数		15人	31人	19人	20人	9人	19人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	15人	33人	20人	21人	9人	20人
		受験者数	15人	33人	20人	21人	9人	20人
		合格者数	15人	31人	19人	20人	9人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	16人	8人	11人	3人	8人
	入学者数	12人	15人	11人	10人	6人	11人	
	共通テスト利用入試	募集人数	4人	4人	4人	4人	4人	4人
		延べ人数	志願者数	8人	18人	20人	18人	7人
受験者数			8人	18人	20人	18人	7人	14人
合格者数			8人	14人	17人	16人	7人	12人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	8人	18人	20人	18人	7人	14人
		受験者数	8人	18人	20人	18人	7人	14人
		合格者数	8人	14人	17人	16人	7人	12人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	13人	16人	14人	7人	12人
入学者数		0人	1人	1人	2人	0人	1人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	2人	0人	1人	0人	0人
	受験者数		2人	0人	1人	0人	0人	1人
	合格者数		1人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	2人	0人	1人	0人	0人	1人
		受験者数	2人	0人	1人	0人	0人	1人
		合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人数	40人	38人	38人	38人	38人	38人
		延べ人数	志願者数	47人	69人	70人	49人	41人
受験者数			47人	69人	70人	49人	40人	55人
合格者数			46人	61人	63人	46人	40人	51人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	47人	69人	70人	49人	41人	55人
		受験者数	47人	69人	70人	49人	40人	55人
		合格者数	46人	61人	63人	46人	40人	51人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	11人	30人	26人	25人	11人	21人
入学者数		35人	31人	39人	22人	29人	31人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	0.88	0.78	0.98	0.55	0.73	0.78
歩留率	0.76	0.51	0.62	0.48	0.73	0.62

（備考）特記事項がある場合は記載すること。  
総合型選抜・その他の特別選抜の募集人数0人は若干名の募集である。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数		0人	0人	15人	15人	8人	
	延べ人数	志願者数		18人	12人	8人	10人	12人
		受験者数		18人	12人	8人	10人	12人
		合格者数		18人	11人	8人	10人	12人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		18人	12人	8人	10人	12人
		受験者数		18人	12人	8人	10人	12人
		合格者数		18人	11人	8人	10人	12人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数		18人	11人	7人	10人	12人	
	学校推薦型選抜	募集人数	110人	100人	100人	90人	90人	98人
		延べ人数	志願者数	108人	98人	76人	63人	79人
受験者数			108人	98人	76人	63人	79人	85人
合格者数			108人	98人	76人	63人	79人	85人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	108人	98人	76人	63人	79人	85人
		受験者数	108人	98人	76人	63人	79人	85人
		合格者数	108人	98人	76人	63人	79人	85人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
入学者数		108人	98人	76人	62人	79人	85人	
一般選抜		募集人数	30人	30人	30人	25人	25人	28人
		延べ人数	志願者数	69人	63人	53人	39人	50人
	受験者数		69人	63人	51人	38人	50人	54人
	合格者数		35人	27人	29人	23人	27人	28人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	69人	63人	53人	39人	50人	55人
		受験者数	69人	63人	51人	38人	50人	54人
		合格者数	35人	27人	29人	23人	27人	28人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	3人	1人	2人	0人	2人
	入学者数	32人	24人	28人	21人	27人	26人	
	共通テスト利用入試	募集人数	8人	8人	8人	8人	8人	8人
		延べ人数	志願者数	3人	2人	7人	1人	2人
受験者数			3人	2人	7人	1人	2人	3人
合格者数			3人	2人	6人	1人	2人	3人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	3人	2人	7人	1人	2人	3人
		受験者数	3人	2人	7人	1人	2人	3人
		合格者数	3人	2人	6人	1人	2人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	2人	6人	1人	2人	3人
入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	1人
	受験者数		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	合格者数		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人	
	合計	募集人数	148人	138人	138人	138人	138人	140人
		延べ人数	志願者数	180人	181人	148人	111人	142人
受験者数			180人	181人	146人	110人	142人	152人
合格者数			146人	145人	122人	95人	119人	125人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	180人	181人	148人	111人	142人	152人
		受験者数	180人	181人	146人	110人	142人	152人
		合格者数	146人	145人	122人	95人	119人	125人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	5人	7人	5人	2人	5人
入学者数		140人	140人	115人	90人	117人	120人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	150人	150人	150人	150人	150人	150
入学定員充足率	0.93	0.93	0.77	0.60	0.78	0.80
歩留率	0.96	0.97	0.94	0.95	0.98	0.96

（備考）特記事項がある場合は記載すること。  
 ・一般選抜の中に特待生入試含む。  
 ・総合型選抜・その他の特別選抜の募集人数0人は若干名の募集である。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）  
 大学学部学科等名：東筑紫短期大学食物栄養学科

別紙2-1

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数		0人	0人	7人	7人	4人	
	延べ人数	志願者数		3人	8人	9人	11人	8人
		受験者数		3人	8人	9人	11人	8人
		合格者数		3人	8人	9人	11人	8人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		3人	8人	9人	11人	8人
		受験者数		3人	8人	9人	11人	8人
		合格者数		3人	8人	9人	11人	8人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		3人	8人	9人	11人	8人	
	学校推薦型選抜	募集人数	75人	45人	45人	45人	40人	50人
		延べ人数	志願者数	48人	59人	58人	59人	53人
受験者数			48人	59人	58人	59人	53人	55人
合格者数			48人	59人	58人	59人	53人	55人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	48人	59人	58人	59人	53人	55人
		受験者数	48人	59人	58人	59人	53人	55人
		合格者数	48人	59人	58人	59人	53人	55人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
入学者数		48人	58人	58人	59人	53人	55人	
一般選抜		募集人数	18人	15人	15人	15人	13人	15人
		延べ人数	志願者数	29人	33人	30人	29人	24人
	受験者数		29人	32人	30人	29人	24人	29人
	合格者数		13人	14人	15人	12人	13人	13人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	29人	33人	30人	29人	24人	29人
		受験者数	29人	32人	30人	29人	24人	29人
		合格者数	13人	14人	15人	12人	13人	13人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	5人	4人	0人	1人	2人
	入学者数	11人	9人	11人	12人	12人	11人	
	共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	5人	5人	5人	5人
		延べ人数	志願者数	6人	10人	6人	6人	1人
受験者数			6人	10人	6人	6人	1人	6人
合格者数			6人	9人	4人	5人	1人	5人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	6人	10人	6人	6人	1人	6人
		受験者数	6人	10人	6人	6人	1人	6人
		合格者数	6人	9人	4人	5人	1人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	7人	2人	4人	0人	3人
入学者数		2人	2人	2人	1人	1人	2人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	1人	0人	0人	2人	0人
	受験者数		1人	0人	0人	2人	0人	1人
	合格者数		1人	0人	0人	1人	0人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	0人	0人	2人	0人	1人
		受験者数	1人	0人	0人	2人	0人	1人
		合格者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人	
	合計	募集人数	98人	65人	65人	72人	65人	73人
		延べ人数	志願者数	84人	105人	102人	105人	89人
受験者数			84人	104人	102人	105人	89人	97人
合格者数			68人	85人	85人	86人	78人	80人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	84人	105人	102人	105人	89人	97人
		受験者数	84人	104人	102人	105人	89人	97人
		合格者数	68人	85人	85人	86人	78人	80人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	13人	6人	4人	1人	6人
入学者数		62人	72人	79人	82人	77人	74人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	100人	70人	70人	70人	70人	76
入学定員充足率	0.62	1.03	1.13	1.17	1.10	1.01
歩留率	0.91	0.85	0.93	0.95	0.99	0.93

（備考）特記事項がある場合は記載すること。  
 ・一般選抜の中に特待生入試含む。  
 ・総合型選抜・その他の特別選抜の募集人数0人は若干名の募集である。

(福岡県・下関地区) 5月訪問分(5/16~6/2くらいまでに訪問)

状況	高校名	訪問時期			高校数	訪問担当者
		5月	7・8月	12月(予定)		
	門司学園	○	○	○	4	安倍 児玉
	門司大翔館	○	○	○		
	敬愛	○	○	○		
	豊国学園	○	○	○		
	小倉西	○	○	○	4	井元 土谷
	慶成	○	○	○		
	真颯館	○	○	○		
	小倉	○	○	○		
	小倉南	○	○	○	5	平澤 寺本
	小倉東	○	○	○		
	北九州	○	○	○		
	小倉商業	○	○	○		
	常盤	○	○	○		
	美萩野女子	○	○	○	4	神崎 和辻
	戸畑	○	○	○		
	ひびき	○	○	○		
	北九州市立	○	○	○		
	戸畑高等専修	○	○	○	4	倉崎 児玉
	若松	○	○	○		
	若松商業	○	○	○		
	高稜	○	○	○		
	八幡	○	○	○	2	佐野
	九国大付属	○	○	○		
	八幡中央	○	○	○	5	近藤 室井由
	仰星学園	○	○	○		
	星琳	○	○	○		
	八幡南	○	○	○		
	北筑	○	○	○		
	東筑	○	○	○	2	石原
	遠賀	○	○	○		
	折尾	○	○	○	5	赤松
	折尾愛真	○	○	○		
	自由ヶ丘	○	○	○		
	中間	○	○	○		
	希望が丘	○	○	○		

状況	高校名	訪問時期			高校数	訪問担当者
		5月	7・8月	12月(予定)		
	築上西	○	○	○	5	廣滋 梅林
	青豊	○	○	○		
	京都	○	○	○		
	育徳館	○	○	○		
	行橋	○	○	○		
	鞍手	○	○	○	4	吉田遊 笹部
	直方	○	○	○		
	筑豊	○	○	○		
	大和青藍	○	○	○		
	田川	○	○	○	5	中藤 廣藤
	西田川	○	○	○		
	田川科学技術	○	○	○		
	福智	○	○	○		
	東鷹	○	○	○		
	嘉徳	○	○	○	5	安倍 石原
	嘉徳東	○	○	○		
	近畿大学附属福岡	○	○	○		
	稲築志耕館	○	○	○		
	飯塚	○	○	○		
	下関西	○	○	○	5	四元 笹部
	下関南	○	○	○		
	下関商業	○	○	○		
	長府	○	○	○		
	豊浦	○	○	○		
	下関中等教育	○	○	○	4	梅崎
	梅光学院	○	○	○		
	早鞆	○	○	○		
	下関短大付属	○	○	○		
	下関国際	○	○	○	3	石原
	田部	○	○	○		
	下関北	○	○	○		
	宗像・福岡市周辺地区	○	○	○	50	武藤
	福岡県南部地区	○	○	○		

(九州地区〔山口県・大分県〕)

県	地区	訪問時期			高校数	訪問担当者
		5月	7・8月	12月(予定)		
口	山陽小野田3(紫)	○	○	○	3	木村
	宇部6(紫)	○	○	○	6	木村
	萩2・長門3・ 美祢2(緑)	○	○	○	7	木村
	山口6(黄)	○	○	○	6	松成
	周南3・防府4・ 下松2(ピンク)	○	○	○	9	北嶋
	岩国・柳井・光・ 熊毛(青)	○	○	○	7	武藤

県	地区	訪問時期			高校数	訪問担当者
		5月	7・8月	12月(予定)		
大分県	中津4・宇佐3・ (青)	○	○	○	7	木村
	大分12・臼杵 (黄色)	○	○	○	13	北嶋
	国東・豊後高田・ 杵築・日出・別府4・ 由布(緑)	○	○	○	9	室井コ
	日田4・玖珠・竹田・ 豊後大野・津久見・ 佐伯3(ピンク)	○	○	○	11	中野

教務部または2号館・202号室(第二応接室)に上記地域(地区)と各担当者ごとに仕分けして訪問用資料を準備しますので、担当者の方は5/16以降に取りに来ていただき、紙袋に訪問校数分の資料一式を確認して訪問してください。

資料は1高校・1セットですので、訪問担当者が複数の場合は、どなたかが代表で取りに来られて下さい。南区Cの方の資料はまとめて取りに来られると思いますが、特に北区Cの方と担当の高校分はどちらが取りに来られるのかを確認して取りに来られるようお願いいたします。複数の担当者でご担当される高校の訪問の仕方ですが、資料は1セットしかありませんので、お二人で一緒に行かれるか、または担当校を振り分けての訪問をお願いします。

○資料一式・6種(2023版パンフ、2023版募集要項、R4年度問題集、文具〔高校教諭提供用〕、高校別在籍・出願リスト、OCチラシ)、  
※出願リストは2023年度入試のみ。高校別リスト有無は、教務部にお問い合わせください。

7月訪問分(7/中下旬～8/中旬〔お盆前〕くらいまでに訪問)

校数	県	地 区	高校数	訪問時期			訪問 担当者
				5月	7・8月	12月	
20	佐賀県	佐賀東部 基山・鳥栖・みやき・ 神崎・佐賀7(黄色)	11		○		松本
		佐賀西部 佐賀・小城・白石・鹿島・ 武雄・伊万里2・唐津2(緑)	9		○		梅崎
27	長崎県	長崎北部 平戸・佐世保7(黄色)	8		○		四元
		長崎南東部 川棚・大村・諫早5・島原2(緑)	9		○		廣滋
		長崎南西部 長崎10(ピンク)	10		○		深町
29	熊本県	熊本北部 山鹿・玉名3・大津・熊本10 (黄)	15		○		佐野
		熊本南部 熊本8・宇土・八代3・水俣・ 人吉 (緑)	14		○		室井コ
20	宮崎県	宮崎北部 延岡3・日向・高鍋・西都・ 宮崎3(黄色)	9		○		武藤
		宮崎南部 宮崎5・日南2・都城3・小林 (緑)	11				
27	鹿児島県	鹿児島北西部(薩摩) 出水2・薩摩川内・ いちき串木野・日置2・ 鹿児島7(黄色)	13		○		中野
		鹿児島南東部(大隅) 鹿児島4・南九州・南さつま2・ 始良・霧島2・鹿屋3・志布志 (緑)	14		○		武藤
		沖縄県(中・南部)	約24				資料送付
		広島県(中・西部)	約31				資料送付

7/中旬～教務部または2号館・202号室(第二応接室)に左記・上記地域(地区)と各担当者ごとに仕分けして準備しますので、担当者の方は紙袋に訪問校数分の資料一式を確認して訪問してください。

資料は1高校・1セットですので、訪問担当者が複数の場合は、**どなたかが代表**で取りに来られて下さい。南区Cの方の資料はまとめて取りに来られると思いますが、特に北区Cの方と担当の高校分は**どちらが取りに来られるのかを確認して**取りに来られるようお願いいたします。

複数の担当者でご担当される高校の訪問の仕方ですが、資料は1セットしかありませんので、お二人で一緒に行かれるか、または担当校を振り分けての訪問をお願いいたします。

○資料一式・6種(2024版パンフ、2024版募集概要、R5年度問題集、文具〔高校教諭提供用〕、OCチラシ、高校別在籍・出願リスト※)。

※出願リストは2023年度入試のみ。高校別リスト有無は、教務部にお問い合わせください。

(福岡県・下関地区) 12月訪問分(12/11~12/26くらいまでに訪問)

状況	高校名	受験合格者					高校数	訪問担当者
		保育	短食	大食	理学	作業		
	門司学園			1		2	4	安倍 齋藤
	門司大翔館	3		1	4	1		
	敬愛			1	1			
	豊国学園	4						
	小倉西			2	1		4	井元 土谷
	慶成	3						
	真颯館				1			
	小倉							
	小倉南	1		1			6	平澤 寺本
	小倉東	5		4	3			
	北九州	5		1	5			
	小倉商業	3		1				
	常磐	2				1		
	美萩野女子							
	戸畑				1		4	神崎 和辻
	ひびき	1						
	北九州市立	1	1	2	1	2		
	戸畑工業	1					4	倉崎 齋藤
	若松	1	1	1	2			
	若松商業	2						
	高稜							
	八幡						3	佐野
	八幡工業			1				
	九国大付属			2				
	八幡中央	2	2		1		5	近藤 室井由
	仰星学園	1				1		
	星琳			1				
	八幡南	2		1	2	3		
	北筑				1			
	東筑						2	石原
	遠賀							
	折尾	2		0			5	赤松 阿部
	折尾愛真	2	2		2	1		
	自由ヶ丘	1		1	4			
	中間	1	1	3	6	1		
	希望が丘							

状況	高校名	受験合格者					高校数	訪問担当者
		保育	短食	大食	理学	作業		
	築上西	1	1				5	廣滋 梅林
	青豊	4		2		2		
	京都							
	育徳館	1	1	1				
	行橋	5	1				4	吉田遊 笹部
	鞍手				1			
	直方	1			2	2		
	筑豊							
	大和青藍	1	2	3			5	中藤 廣藤
	田川		1					
	西田川							
	田川科学技術							
	福智							
	東鷹	1	2	2			5	安倍 石原
	嘉徳							
	嘉徳東			3				
	近畿大学附属福岡 稲築志耕館			3				
	飯塚						5	四元 笹部
	下関西							
	下関南							
	下関商業			1				
	長府	1	2			1		
	豊浦						4	梅崎
	下関中等教育							
	梅光学院							
	早鞆				2			
	下関短大附属			1			3	石原
	下関国際			1				
	田部		1	1				
	下関北	1	4				中野、田中、 北嶋	
	宗像・福岡市周辺地区 福岡県南部地区							

(九州地区〔山口県・大分県〕)

県	地区	訪問時期			高校数	訪問担当者
		5月	7・8月	12月(予定)		
口	山陽小野田3(紫)	○	○	○	3	木村
	宇部6(紫)	○	○	○	6	木村
	萩2・長門3・ 美祢2(緑)	○	○	○	7	木村
	※大津緑洋は大津校舎と日置校舎の2箇所へ訪問					
	山口6(黄)	○	○	○	6	
	周南3・防府4・ 下松2(ピンク)	○	○	○	9	北嶋
	岩国・柳井・光・ 熊毛(青)	○	○	○	7	

県	地区	訪問時期			高校数	訪問担当者
		5月	7・8月	12月(予定)		
大分	中津4・宇佐3・ (青)	○	○	○	7	木村
	大分12・白杵 (黄色)	○	○	○	13	北嶋
				○	6	佐野
	国東・豊後高田・ 杵築・日出・別府4・ 由布(緑)	○	○	○	9	室井コ
	日田4・玖珠・竹田・ 豊後大野・津久見・ 佐伯3(ピンク)	○	○	○	11	中野

教務部または2号館・202号室(第二応接室)に上記地域(地区)と各担当者ごとに仕分けして訪問用資料を準備しますので、担当者の方は12/7以降に取りに来ていただき、紙袋に訪問校数分の資料一式を確認して訪問してください。

資料は1高校・1セットですので、訪問担当者が複数の場合は、どなたかが代表で取りに来られて下さい。南区Cの方の資料はまとめて取りに来られると思いますが、特に北区Cの方と担当の高校分はどちらが取りに来られるのかを確認して取りに来られるようお願いいたします。複数の担当者でご担当される高校の訪問は、お二人で一緒にお願いいたします。

○資料一式・6種(2023版パンフ、2023版募集要項、R4年度問題集、文具〔高校教諭提供用〕、高校別在籍・出願リスト、OCチラシ)、  
※出願リストは2023年度入試のみ。高校別リスト有無は、教務部にお問い合わせください。

7月訪問分(7/中下旬~8/中旬〔お盆前〕くらいまでに訪問)

校数	県	地区	高校数	訪問時期			訪問担当者
				5月	7・8月	12月	
20	佐賀県	佐賀東部 基山・鳥栖・みやき・ 神崎・佐賀7(黄色)	11		○		松本
		佐賀西部 佐賀・小城・白石・鹿島・ 武雄・伊万里2・唐津2(緑)	9		○		梅崎
27	長崎県	長崎北部 平戸・佐世保7(黄色)	8		○		四元
		長崎南東部 川棚・大村・諫早5・島原2(緑)	9		○		廣滋
		長崎南西部 長崎10(ピンク)	10		○		深町
29	熊本県	熊本北部 山鹿・玉名3・大津・熊本10 (黄)	15		○		佐野
		熊本南部 熊本8・宇土・八代3・水俣・ 人吉(緑)	14		○		室井コ
20	宮崎県	宮崎北部 延岡3・日向・高鍋・西都・ 宮崎3(黄色)	9		○		
		宮崎南部 宮崎5・日南2・都城3・小林 (緑)	11				
27	鹿児島県	鹿児島北西部(薩摩) 出水2・薩摩川内・ いちき串木野・日置2・ 鹿児島7(黄色)	13		○		中野
		鹿児島南東部(大隅) 鹿児島4・南九州・南さつま2・ 始良・霧島2・鹿屋3・志布志 (緑)	14		○		
		沖縄県(中・南部)	約24				資料送付
		広島県(中・西部)	約31				資料送付

富島  
宮崎日大  
宮崎第一  
妻

神村学園  
野田女子  
錦江湾  
鹿児島女子  
甲南  
川内  
加世田  
武岡台

7/中旬~教務部または2号館・202号室(第二応接室)に左記・上記地域(地区)と各担当者ごとに仕分けして準備しますので、担当者の方は紙袋に訪問校数分の資料一式を確認して訪問してください。

資料は1高校・1セットですので、訪問担当者が複数の場合は、どなたかが代表で取りに来られて下さい。南区Cの方の資料はまとめて取りに来られると思いますが、特に北区Cの方と担当の高校分はどちらが取りに来られるのかを確認して取りに来られるようお願いします。

複数の担当者でご担当される高校の訪問の仕方ですが、資料は1セットしかありませんので、お二人で一緒に行かれるか、または担当校を振り分けての訪問をお願いします。

○資料一式・6種(2024版パンフ、2024版募集概要、R5年度問題集、文具〔高校教諭提供用〕、OCチラシ、高校別在籍・出願リスト※)。

※出願リストは2023年度入試のみ。高校別リスト有無は、教務部にお問い合わせください。

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：九州栄養福祉大学食物栄養学部食物栄養学科オープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	110人	255人	①取組概要 令和3年開催分はコロナ感染対策のためオンライン(3回)実施。その他は完全予約制で少人数ごとに行った。令和4年開催分は対面で人数制限せず実施。受験希望者を対象としてキャンパス見学ツアー、食物栄養学部の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業、模擬実験、在学生との懇話などを実施。 R4年度入試対象(R3開催)：計6回開催(3/27.6/19.7/17.7/31.8/20.8/21) R5年度入試対象(R4開催)：計6回開催(5/7.6/11.7/16.7/30.8/7.8/20.)  ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 オープンキャンパス参加者のなかで毎年30～40%前後の学生が入学している。したがって、オープンキャンパスにトータルで100名以上が参加するように募集活動を行えば、定員充足が可能であると考えられる。 本学のオープンキャンパスでは、学科の教員全員出席で取り組み、模擬授業や模擬実習のみならず、受付やキャンパスツアー、体験や相談のコーナーも担当し、直接参加者とコミュニケーションを取りながら本学での学びや学生生活を知ってもらえるように企画実施しおり、例年好評を得ている。新学部のオープンキャンパスも複数回企画し、学生の確保につとめる。 オープンキャンパスで高校生や保護者から質問があった内容については、本人へはもちろん、高校訪問や高校教員対象の入試説明会などでも情報が共有できるように細やかに学生募集を行うことでも学生の確保につとめる。
うち受験対象者数(b)	72人	146人	
うち受験者数(c)	36人	61人	
うち入学者数(d)	29人	47人	
(受験率 c/b)	50.0%	41.8%	
(入学率 d/b)	40.3%	32.2%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：九州栄養福祉大学食物栄養学部食物栄養学科進学ガイダンス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	225人	259人	①取組概要 受験希望者を対象として、高校会場ガイダンス、九州各県・山口県の会場形式ガイダンス等で本学の建学の精神、保育学科の特色、取得目標免許資格などの説明を行った。 R3年度実施：高校会場38校、会場形式58会場 R4年度実施：高校会場43校、会場形式42会場 ※令和4年度入試(令和3年度実施)分について、参加者登録が完全にできていない状況があった。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 進学ガイダンス相談者から毎年10～20%前後の学生が入学している。したがって、進学ガイダンスにトータルで300名以上が相談するように募集活動を行いたい。 4月から始まる新年度の九州山口各県で実施される業者主催の会場形式進学相談会へは、例年教職員が様々な資料を持参して総出で参加している。今後更に丁寧に本学がめざす人材育成についてや学びの特長を説明できるよう、教職員力を合わせて準備する。引率教員へも積極的に新学部の案内を行い、オープンキャンパスや学校見学へつなげていけるようにする。 高校会場での進学ガイダンスも同様に多くの高校へ向向き、生徒へ新学部の魅力をアピールする。これまでも近接する既設学科である保育学科の教員は、学科全体でスケジュールを合わせ毎年多くの高校で出前講義を行い、食物栄養分野について高校生に分かりやすく魅力を伝えていく。1、2年次にそれらの出前講義に興味関心を持ち、2、3年で進学ガイダンスやオープンキャンパスに参加することで、本学のアドミッションポリシーの理解など進路研究をしっかりと行い受験・入学に進むるようサポートしている。結果、入学後のミスマッチを防ぐことにもなる。そのように、本学のガイダンス面談担当者は、入学後、さらに卒業までの生徒ひとりひとりの成長する姿を想像しながら、真摯に学生募集に取り組んでおり、今後も同様に受験生の確保を進めていく。
うち受験対象者数(b)	72人	97人	
うち受験者数(c)	7人	20人	
うち入学者数(d)	7人	20人	
(受験率 c/b)	9.7%	20.6%	
(入学率 d/b)	9.7%	20.6%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：九州栄養福祉大学の大学案内配布

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	1047人	930人	①取組概要 本学ホームページからの資料請求者へ学校案内を送付した。大学案内、募集要項に加え、送付時期に応じて各種案内や学部学科の最新のお知らせなど同封した。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 毎年受験対象者数の約10%が入学へ結びついている。このことから、入学案内は学生募集にとって大変重要であり、今後一層充実した入学案内の作成に努める。 ここでの数字は、本学のホームページからの資料請求者である。その他、各種進学情報媒体への学生募集告知を行い、資料請求につなげており、毎日発送業務を行っている。今後は新学部に関する情報やオープンキャンパス案内なども同封してPRを行い、ダイレクトメールやSNSを利用した学生確保につとめる。
うち受験対象者数(b)	419人	343人	
うち受験者数(c)	105人	63人	
うち入学者数(d)	48人	32人	
(受験率 c/b)	25.1%	18.4%	
(入学率 d/b)	11.5%	9.3%	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			①取組概要  ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
(受験率 c/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			①取組概要  ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
(受験率 c/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	

令和6年1月 ○日

高等学校校長 殿

九州栄養福祉大学  
新学部・学科設置準備室  
学長・室長 室井 廣一

## 新学部・学科設置のためのアンケート調査のお願い

平素より本学への格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は令和7年4月開設へ向けて、新学部「こども教育学部こども教育学科」および食物栄養学部の中に新学科「食環境データサイエンス学科」の設置準備を進めております。

※各学部・各学科の学びの内容、養成する人材等などについては別紙資料をご参考ください。

つきましては、新学部・学科の設置認可申請にあたり、「学生確保のための基礎資料」として地元高校生へのアンケート調査が必要になります。5項目の簡単なアンケート調査でございます。

学期末のお忙しい時期に大変恐縮ですが、何卒ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

### 設 置 学 科

九州栄養福祉大学

大学院 健康科学研究科 健康栄養学専攻

食物栄養学部 ———— 食物栄養学科(管理栄養士養成課程)

— 食環境データサイエンス学科(開設予定)

リハビリテーション学部 ———— 理学療法学科(理学療法士養成課程)

— 作業療法学科(作業療法士養成課程)

こども教育学部 こども教育学科(開設予定)

新学部・新学科設置準備アンケート依頼高校訪問一覧表および回答結果

○…回答あり

×…締切日まで回答なし

	高校名	人数 2年生	アンケート回収校	高校数	担当者
1	門司学園	119	○	25	上森
2	門司大翔館	126	○		
3	小倉西	236	○		
4	小倉工業	180	○		
5	小倉東	155	×		
6	常磐	194	○		
7	戸畑	239	○		
8	ひびき	228	○		
9	築上西	116	×		
10	青豊	280	○		
11	京都	234	○		
12	育徳館	155	○		
13	行橋	185	×		
14	苅田工業	151	○		
15	直方	153	×		
16	筑豊	113	○		
17	田川	161	○		
18	西田川	75	○		
19	田川科学技術	164	○		
20	東鷹	159	○		
21	嘉穂	231	○		
22	嘉穂東	215	○		
23	嘉穂総合	107	○		
24	北筑	276	○		
25	飯塚	223	○		
26	小倉南	192	○	3	寺本
27	北九州	197	○		
28	小倉商業	238	○		
29	敬愛	128	○	1	齋藤
30	北九州市立	188	○	1	和辻
31	若松	133	○	1	倉崎
32	九州国際大学付属	526	○	1	佐野
33	八幡中央	193	○	2	近藤 室井由
34	八幡南	237	○		
35	折尾	196	○	3	赤松
36	折尾愛真	287	○		
37	中間	197	○		
38	鞍手	224	○	1	笹部
39	東筑紫学園（併設校）	377	○	1	北嶋



【新学科 概要】

学部・学科	食物栄養学部 食環境データサイエンス学科	入学定員	50名
学 費	初年度納入金:145万円 (入学金23万円・授業料等122万円)	学 位	学士 (食環境データサイエンス)
学びの内容	食環境と健康に関する深い理解とデータサイエンスの技術を組み合わせた教育を行い、食品の生産・流通、医療・福祉、環境に関連する大量のデータを収集・分析するスキルを修得することで、社会の持続可能な発展に寄与するデータ駆動型のデータサイエンスの専門家を養成する。		
設置の理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の源である「食」に係る様々なデータを分析し、食についての安全性や世界的な食糧危機の課題等について多角的に捉えることのできる専門的知識を備えた人材を養成する。</li> <li>・人間が生きる上で欠かすことのできない食と農学に関する基礎知識から農園での演習を重ね、より具体的な食と農に関する専門知識を養う。</li> <li>・文部科学省が推奨する特定成長分野をけん引する高度専門分野の育成に寄与する。</li> <li>・食とデータサイエンスに係る企業と提携し、卒業後も研究を生かした就職につなげていく。</li> </ul>		
養成する人材像	本学は「建学の精神 勇気・親和・愛・知性の四つの心をバランス良く育てる」を基盤とした人格教育を行い、地域社会や福祉に役立つ使命感と信念を持ったデータサイエンティストを養成する。		
アドミッションポリシー	<p>本学科は、食環境と健康に関する深い理解と先端のデータサイエンス技術を統合した教育を通じて、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を実現する専門家を養成するために、以下に掲げる学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建学の精神(勇気・親和・愛・知性が調和する人間性を養う人格教育)に賛同する人</li> <li>2. 高等学校までに学習した全ての教科の基礎学力を習得し、論理的思考能力を有している人</li> <li>3. 食環境と健康のかかわりについて深い関心を持ち、AI・データサイエンスの技術を習得するために積極的かつ持続的な努力を惜しまない人</li> <li>4. 他者の気持ちや立場を理解し、思いやりと協調性を兼ね備えた人</li> <li>5. 新たな挑戦に積極的な志を持つ人</li> </ol>		
取得を目指す資格	上級データサイエンス・AI実務パスポート、基本情報技術者		
卒業後の進路	メーカー、流通・小売、サービス、商社、ソフトウェア・情報処理・ネット関連、官公庁・公社・団体、農業経営 etc.		
類似大学学部・学科	中村学園大学(栄養科学部 フードマネジメント学科、流通科学部 流通科学科) / 南九州大学(健康栄養学部 食品開発科学科) / 別府大学(食物栄養科学部)		

※設置される学科等の名称・内容などは予定につき、変更される場合があります。

<アクセス>

- JR南小倉駅 → 徒歩約15分
- JR小倉駅 → 西鉄バス「小倉駅入口」から約12分  
→ 「金田陸橋西」降車後徒歩約2分
- JR八幡駅 → 西鉄バス「八幡駅入口第一」から約20分  
→ 「下津」降車後徒歩約2分

政令指定都市北九州中心エリア若者の街下到達クロスロードで

AI×データを駆使した未来を拓く学びに挑戦し

身近にある第4次産業革命の先端を行こう

北九州初!!  
**2025年4月**  
開設予定(構想中)

※設置される学科等の名称・内容などは予定につき、変更される場合があります。

食物栄養学部

食環境データサイエンス学科

「食」と「データサイエンス」で、未来の食環境と健康を守る。

# FOOD × DATA SCIENCE

食農健康分野の専門的知識とデータサイエンスの

スキルを合わせ持つ人材を養成する。

それが「食環境データサイエンス学科」の使命です。

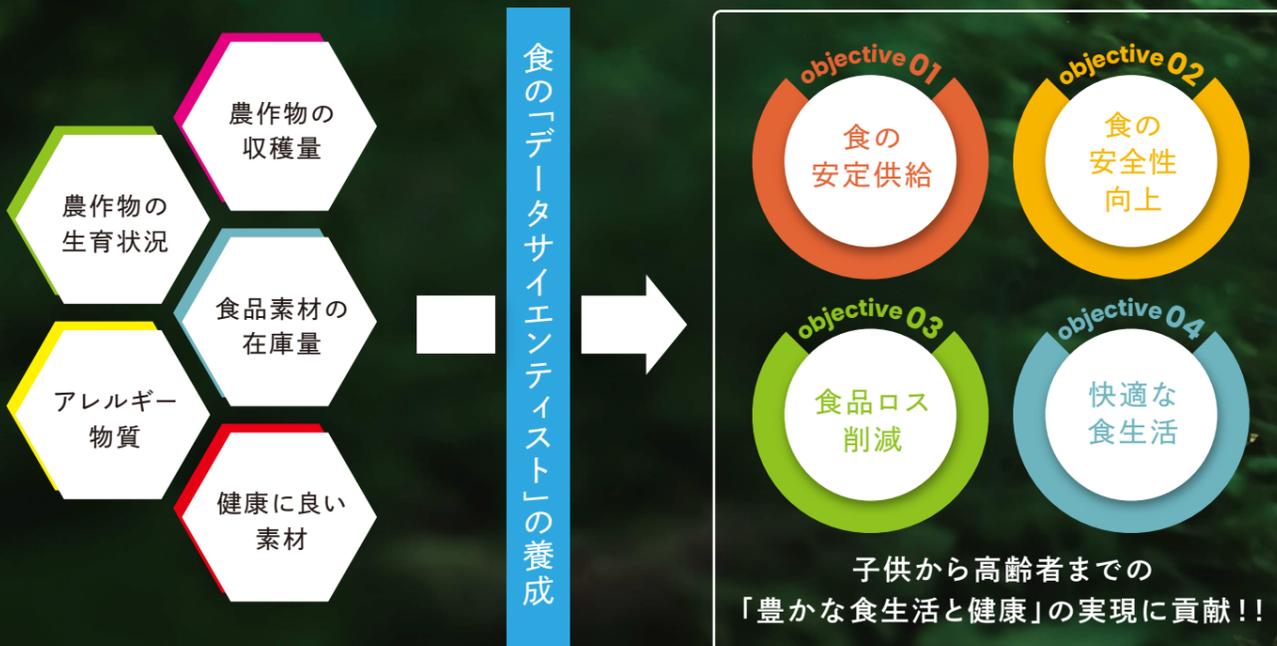
IoT (Internet of Things=モノのインターネット) やAI (人工知能) による第4次産業革命や、Society 5.0 と称される革新的デジタル社会の世界的進展を背景に、様々な領域においてデータを収集・分析・解釈することで新たな価値を生み出すことのできる「データサイエンティスト」が求められています。

食・環境健康分野も同様で、農作物や食品の生産、流通、健康への影響など多くのビッグデータが生成されており、既にAIによる課題発見と解決に対する取り組みも社会実装されていますが、食農健康分野の深い専門知識とデータサイエンスのスキルを合わせ持つ人材が足りないというのが現状です。

「食環境データサイエンス学科」では、社会的需要が急速に高まっている、食の「データサイエンティスト」を養成することで、未来の豊かな食生活と健康の実現に貢献したいと考えています。

現在の食環境における課題

未来の食環境での実現目標



## 【AI・データサイエンス分野における第一人者の期待の声】



元株式会社安川電機CTO  
(取締役常務執行役員  
技術開発本部長)  
新学部・学科設置準備室  
顧問  
熊谷 彰 氏

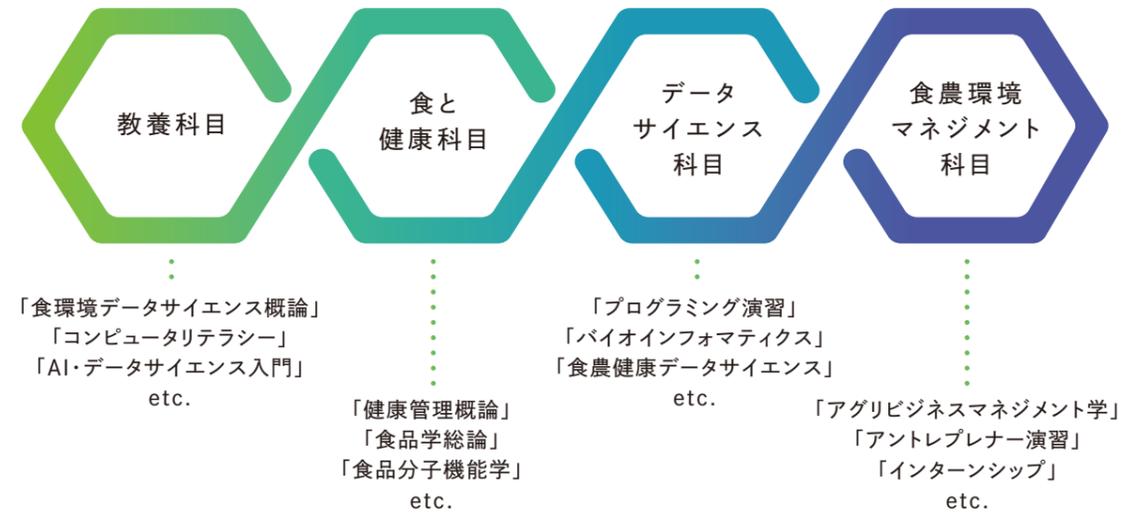
食環境データサイエンス学科の設立は、今日のデジタル社会における革新的な動きと密接に関連していると感じます。この学科が提供する教育は、データサイエンスの技術を食と農業、健康の分野に応用することで、これらの分野における新たな課題解決の道を切り開く人材を育成することが重要なテーマだと思います。特に、AIを活用した「食の番人」としての役割を担う専門家の育成は、将来的に食環境問題に対する持続可能な解決策を提案する上で重要な意味を持ちます。また、人格教育と地域社会との連携を重視する姿勢は、社会に貢献するデータサイエンティストの養成において欠かせない要素です。このような教育方針は、将来的に多方面での貢献が期待される人材を輩出し、社会の発展に大きく寄与するでしょう。そういう意味でも、この学科に対して大きな期待を抱いています。  
(特別客員教授就任予定)



**OPTIM®**  
日本のIT分野・特許資産  
個人ランキングNo.1  
株式会社オプティム  
(東証プライム企業)  
代表取締役社長  
菅谷 俊二 氏

人生100年時代と言われるまでに医療技術が進化を遂げた今日において、その100年をより健やかに、より若々しく生きたいという事が21世紀後半の人類に残された大きな夢の一つであると思います。本学に開設される食環境データサイエンス学科は、栄養学に農学、データサイエンスを融合した新しい領域のスペシャリストを生み出すことで人類の夢を、社会課題の解決を目指す学科です。栄養学とデジタルの融合は多くの人々に大きな希望をもたらします。若い皆様の豊かな才能と強い熱意で人類の次なる夢を実現するスペシャリスト、エキスパートの誕生に期待します。共に大いに学びましょう。  
(特別客員教授就任予定)

## 【食の教養科目に加え、様々な専門教育科目を履修】



## 【AIイノベーション・データサイエンスラボ「KIDS LABO.(キッズラボ)」を併設予定!!】



**KIDS LABO.**  
Kyushu Nutrition and Welfare University  
AI Innovation and Data Science Lab.

「政令指定都市北九州中心エリア、クロスロードでAI×データを駆使した未来を拓く学びに挑戦し、身近にある第4次産業革命を体験しよう」

九州栄養福祉大学の「KIDS LABO.」は、AIとデータサイエンスを駆使して、未来の可能性を切り拓くイノベーションラボです。子供から大人まで、あらゆる世代が集うこのラボでは、各人の才能を開花させるための環境を提供します。最先端の技術に触れながら、実社会への応用も模索します。学びとイノベーションが交差するこの場所(ジャンクション)で、新しい時代の先駆者を目指しましょう。

該当する番号に○をつけてください。

### 1. 卒業後の進路

#### 【設問】

卒業後の進路はどのように考えていますか。(複数選択可)

#### 【選択肢】

- ① 大学 ② 短期大学 ③ 専門職大学 ④ 専門職短期大学 ⑤ 専門学校 ⑥ 就職 ⑦ その他

※上記設問のうち、①～④を選択した方に質問です。

### 2. 進学を希望する場合の大学等の設置者

#### 【設問】

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(複数選択可)

#### 【選択肢】

- ① 国立 ② 公立 ③ 私立

### 3. 興味のある学問分野

#### 【設問】

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。

(複数選択可)

#### 【選択肢】

- ① 理学関係 ② 工学関係 ③ 農学関係 ④ 家政関係 ⑤ 保健衛生学関係 ⑥ その他

### 4. 新設組織の受験希望の有無

#### 【設問】

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食環境データサイエンス学科が開設された場合、  
受験を希望しますか。次より一つ選択してください。

#### 【選択肢】

- ① 第一志望として受験する ② 第二志望として受験する ③ 第三志望として受験する ④ 受験しない

### 5. 新設組織に合格した場合の入学希望の有無

#### 【設問】

上記4で①～③を選択した方に質問です。

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食環境データサイエンス学科を受験して合格した場合、  
入学を希望しますか。次より一つ選択してください。

#### 【選択肢】

- ① 入学する ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する ③ 入学しない

ご協力ありがとうございました。

新学部・新学科設置準備アンケート調査結果  
 食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

	高校名	人数 2年生	第1希望	第2希望	第3希望
1	小倉南	192	0	1	3
2	北九州	197	0	1	1
3	小倉商業	238	1	2	0
4	敬愛	128	5	3	1
5	北九州市立	188	0	0	3
6	若松	133	2	0	1
7	九州国際大学付属	526	3	5	7
8	八幡南	237	0	1	5
9	戸畑	239	1	0	2
10	折尾	196	1	0	3
11	折尾愛真	287	4	9	2
12	中間	197	1	2	7
13	鞍手	224	2	2	3
14	門司学園	119	1	4	2
15	門司大翔館	126	1	2	3
16	小倉西	236	0	1	1
17	小倉工業	180	0	1	2
18	ひびき	228	0	1	8
19	青豊	280	1	3	6
20	京都	234	0	0	3
21	育徳館	155	0	3	2
22	苅田工業	151	0	2	0
23	東鷹	159	1	3	4
24	嘉穂	231	1	1	5
25	常磐	194	2	2	3
26	筑豊	113	1	1	2
27	田川	161	0	0	1
28	西田川	75	2	2	1
29	田川科学技術	164	0	1	0
30	嘉穂総合	107	0	2	1
31	八幡中央	193	0	4	2
32	飯塚	223	1	3	3
33	嘉穂東	215	2	2	11
34	北筑	276	1	1	4
35	東筑紫学園（併設校）	377	6	8	17
	合計	7179	40	73	119

教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ムロイ ヒロイチ 室井 廣一 <平成16年4月>		政治学修士		学校法人東筑紫学園理事長 (令和4.4~令和8.3) 九州栄養福祉大学学長 (平成16.4~令和9.3) 東筑紫短期大学学長 (平成13.4~令和9.3)

教 員 の 氏 名 等												
(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)												
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 日 数
1	基(主専)	教授 (学科長)	ワタナベ ケイイチ 渡邊 啓一 <令和7年4月>		農学博士 農芸化学 修士		キャリアガイダンスⅠ※ キャリアガイダンスⅡ※ キャリアガイダンスⅢ※ キャリアガイダンスⅣ※ 食環境データサイエンス概論※ 生化学 フードウェルネスデータサイエンス バイオインフォマティクス マーケティングとデータサイエンス マネジメントとデータサイエンス 食環境地域連携演習 データサイエンス基礎演習 データサイエンス実践演習 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1前 1後 3前 2後 3前 3後 2後 3前 3後 4通	0.2 0.2 0.2 0.2 0.4 2 1 1 2 2 0.4 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州栄養福祉大学 食物栄養学部教授 (令3.4)	5日
2	基(主専)	教授	アカマツ タカフミ 赤松 貴文 <令和7年4月>		修士 (情報工学)		キャリアガイダンスⅠ※ キャリアガイダンスⅡ※ キャリアガイダンスⅢ※ キャリアガイダンスⅣ※ 食環境データサイエンス概論※ コンピュータリテラシー 確率統計学基礎 データサイエンスのための確率統計学 情報ネットワーク データベース入門 データサイエンス基礎演習 データサイエンス実践演習 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1前 1前 1後 2前 1後 2前 3前 3後 4通	0.2 0.2 0.2 0.2 0.4 1 2 2 2 2 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州栄養福祉大学 食物栄養学部教授 (平13.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)

調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ  氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 日 数
3	基(主専)	教授	ハギワラ ハヤト 萩原 勇人 ＜令和7年4月＞		博士(工学)		キャリアガイダンスⅠ※ キャリアガイダンスⅡ※ キャリアガイダンスⅢ※ キャリアガイダンスⅣ※ 食環境データサイエンス概論※ 食環境イノベーションデザイン※ AI・データサイエンス入門 プログラミング基礎 プログラミング演習 インターンシップ データサイエンス基礎演習 データサイエンス実践演習 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1前 1後 1後 1前 1後 3前-3後 3前 3後 4通	0.2 0.2 0.2 0.2 0.4 1.7 1 2 1 0.8 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1	東筑紫短期大学教授 (平13.4)	5日
4	基(主専)	教授	オオバ ヒデキ 大庭 英樹 ＜令和7年4月＞		農学博士		キャリアガイダンスⅠ※ キャリアガイダンスⅡ※ キャリアガイダンスⅢ※ キャリアガイダンスⅣ※ 食環境データサイエンス概論※ 化学 食品分子機能学 基礎栄養学 微積分学基礎 データサイエンスのための微積分学 データサイエンス基礎演習 データサイエンス実践演習 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2後 2前 1前 1後 3前 3後 4通	0.2 0.2 0.2 0.2 0.4 2 2 2 2 2 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州工業大学 先端研究・社会連携本部 (令4.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)

調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 日 数
5	基(主専)	准教授	サカジリ テツヤ 坂尻 徹也 <令和7年4月>		博士(理学)		キャリアガイダンスⅠ※ キャリアガイダンスⅡ※ キャリアガイダンスⅢ※ キャリアガイダンスⅣ※ 食環境データサイエンス概論※ 基礎化学 微生物学 食品衛生学 データサイエンスのための応用数学 フードウェルネスデータサイエンス バイオインフォマティクス データサイエンス基礎演習 データサイエンス実践演習 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1前 1前 1前 2前 3前 2後 3前 3後 4通	0.2 0.2 0.2 0.2 0.4 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州栄養福祉大学 食物栄養学部准教授 (令2.4)	5日
6	基(専他)	准教授	サルサワ ユウイチ 猿澤 雄一 <令和8年9月>		修士(理学)		データ解析基礎 データ解析演習 ニューラルネット基礎 ニューラルネット演習 食農健康データサイエンス 先端AI論	2後 2後 3前 3前 3前 3後	2 1 2 1 2 2	1 1 1 1 1 1	(株)オプティム 社長室 九州ユニット リーダー (平25.4)  (株)オプティム 社長室 九州ユニット リーダー (平25.4)	2日  3日

教 員 の 氏 名 等

(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)

調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日 数
7	その他	客員教授	クマガエ アキラ 熊谷 彰 ＜令和7年9月＞		工学士		食環境イノベーションデザイン※ インターンシップ	1後 3前-3後	0.3 0.2	1 2	元(株)安川電機 取締役常務執行役員・技 術開発本部長 (令5.3まで) 取締役 (令5.5まで)	
8	その他	教授	スギモト ヤスシ 杉元 康志 ＜令和7年9月＞		農学博士		食品学総論 食品加工学	1後 3前	2 2	1 1	九州栄養福祉大学 食物栄養学部教授 (平28.4)	
9	その他	教授	オキ ツトム 沖 勉 ＜令和8年9月＞		農学士 医学士		疾病の成り立ちと病態 臨床栄養学	2後 2後	2 2	1 1	九州栄養福祉大学 食物栄養学部教授 (令2.4)	
10	その他	教授	クスノセ チハル 楠瀬 千春 ＜令和8年4月＞		博士 (食物栄養学) 家政学士		応用栄養学	2前	2	1	九州栄養福祉大学 食物栄養学部教授 (平13.4)	
11	その他	教授	タケナミ マサヒロ 竹並 正宏 ＜令和8年4月＞		文学修士 家政学士		国際理解（海外研修）	2前-2後	1	2	九州栄養福祉大学 食物栄養学部教授 (平21.4)	

教 員 の 氏 名 等

(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)

調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 日 数
12	その他	教授	マツモト アキオ 松本 明夫 ＜令和8年4月＞		修士※ (教育学)		人間関係の心理	2前	2	1	九州栄養福祉大学 食物栄養学部教授 (平13.4)	
13	その他	教授	クラサキ ノブコ 倉崎 信子 ＜令和7年4月＞		博士(医学) 修士 (体育学、文学)		健康スポーツ科学Ⅰ 健康スポーツ科学Ⅱ 健康スポーツ科学Ⅲ 健康スポーツ科学Ⅳ 運動生理学	1前 1後 2前 2後 3後	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	九州栄養福祉大学 食物栄養学部教授 (平19.4)	
14	その他	教授	オオムラ ミチコ 大村 美智子 ＜令和8年9月＞		家政学士		公衆栄養学 食環境地域連携演習	2後 2後	2 0.3	1 1	九州栄養福祉大学 食物栄養学部教授 (平30.4)	
15	その他	教授	タバタ マコト 田畑 純 ＜令和7年4月＞		博士(学術)		基礎生物学 解剖生理学	1前 1前	2 2	1 1	九州栄養福祉大学 食物栄養学部教授 (令6.4)	
16	その他	教授	サノ ヨシタケ 佐野 幹剛 ＜令和7年4月＞		修士 (生涯発達) 学士 (英米学)		農園演習	1通	1	1	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 教授 (平23.4)	

教 員 の 氏 名 等

(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)

調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ  氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 日 数
17	その他	教授	イシバシ トシロウ 石橋 敏郎 ＜令和8年4月＞		修士 (地域教育支援) 学士 (教育学)		リハビリテーション概論※	2前	0.6	1	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 教授 (平25.4)	
18	その他	教授	ヒロシゲ ケイイチ 廣滋 恵一 ＜令和8年4月＞		博士(医学) 修士 (保健医療学) 学士(法学)		リハビリテーション概論※	2前	0.7	1	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 教授 (平25.4)	
19	その他	教授	ヨソモト タカミチ 四元 孝道 ＜令和8年4月＞		修士※ (保健学) 学士 (保健衛生学)		リハビリテーション概論※	2前	0.7	1	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 教授 (平26.4)	
20	その他	教授	フルカワ テツオ 古川 徹生 ＜令和7年9月＞		博士(工学)		線形代数基礎 データサイエンスのための線形代数 データ駆動型意思決定と可視化 人間とAI	1後 1後 3前 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	九州工業大学 大学院 生命体工学研究科教授 (平16.4)	
21	その他	教授	ホリオ ケイイチ 堀尾 恵一 ＜令和8年4月＞		博士 (情報工学)		機械学習基礎 機械学習演習 マルチモーダルAI技術と応用	2前 2前 3後	2 1 2	1 1 1	九州工業大学 大学院 生命体工学研究科教授 (平19.4)	

教 員 の 氏 名 等

(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)

調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 日 数
22	その他	教授	ハヤシ カツヒロ 林 勝裕 ＜令和7年4月＞		修士※ (商学)		マーケティング論 マーケティングリサーチ 流通システム論 消費者行動論 食と経済	2後 3前 2後 3前 1前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	元 保健医療経営大学 保健医療経営学部教授 (令5.3まで)	
23	その他	教授	ヨコヤマ カズヒコ 横山 和彦 ＜令和8年9月＞		情報工学 修士		センシングと信号処理 先端ロボティクス論	2後 3後	2 2	1 1	佐世保工業高等専門学校 教授 (令2.4)	
24	その他	准教授	ウメザキ ヨシオ 梅崎 義雄 ＜令和7年4月＞		機械工学士		実用英語の基礎Ⅰ 実用英語の基礎Ⅱ 実用英語 国際理解（海外研修）	1前 1後 2前 2前-2後	1 1 1 1	1 1 1 2	九州栄養福祉大学 食物栄養学部准教授 (平29.4)	
25	その他	准教授	ムロイ ユキコ 室井 由起子 ＜令和7年4月＞		博士(農学) 修士 (教育学) 学士 (食物栄養学)		農園演習 スポーツ栄養学 食環境地域連携演習	1通 3後 2後	1 2 0.3	1 1 1	九州栄養福祉大学 食物栄養学部准教授 (平24.4)	
26	その他	講師	ムライ ケイン 村井 慶史 ＜令和8年4月＞		学士(工学)		サプライチェーンマネジメント学※ アグリビジネスマネジメント学※ アントレプレナー論※ アントレプレナー演習※	3前 3後 2前 2後	0.4 0.4 0.4 0.2	1 1 1 1	(株)オプティム 社長室 知的財産ユニッ ト マネージャー (平30.8)	

教 員 の 氏 名 等

(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)

調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ  氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 日 数
27	その他	講師	ナカノ タツヒコ 中野 達彦 ＜令和8年4月＞		修士(工学)		サプライチェーンマネジメント学※ アグリビジネスマネジメント学※ アントレプレナー論※ アントレプレナー演習※	3前 3後 2前 2後	0.4 0.4 0.4 0.2	1 1 1 1	(株)オプティム 第3事業部アーキテクト ユニット エグゼクティ ブエンジニア (平26.4)	
28	その他	講師	キヨカワ シュンヤ 清川 隼矢 ＜令和8年4月＞		学士 (メディア学)		サプライチェーンマネジメント学※ アグリビジネスマネジメント学※ アントレプレナー論※ アントレプレナー演習※	3前 3後 2前 2後	0.4 0.4 0.4 0.2	1 1 1 1	(株)オプティム サービス開発統括本部 ソリューション開発部 九州ユニット サブマ ネージャー (平28.3)	
29	その他	講師	センジュウ カズヒサ 千住 和久 ＜令和8年4月＞		修士(工学)		サプライチェーンマネジメント学※ アグリビジネスマネジメント学※ アントレプレナー論※ アントレプレナー演習※	3前 3後 2前 2後	0.4 0.4 0.4 0.2	1 1 1 1	(株)オプティム サービス開発統括本部 ソリューション開発部 九州ユニット スタッフ (令2.4)	

教 員 の 氏 名 等

(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)

調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ  氏名  <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する平均 週当たり平均 日 数
30	その他	講師	オザキ リュウヤ 小崎 竜也  <令和8年4月>		学士 (情報工学)		サプライチェーンマネジメント学※ アグリビジネスマネジメント学※ アントレプレナー論※ アントレプレナー演習※	3前 3後 2前 2後	0.4 0.4 0.4 0.2	1 1 1 1	(株)オプティム サービス開発統括本部 プロダクト開発部 Biz DSユニットサブマネー ジャー (合3.1)	

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	人	人	2人	1人	3人	
	修 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	人	1人	人	2人	1人	4人	
	修 士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

九州栄養福祉大学  
食物栄養学部食環境データサイエンス学科

事前相談の結果、付された附帯事項の対応等について

## 【付された附帯事項】

(遵守事項)

完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える基幹教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想を策定し、着実に実行すること。

## 【附帯事項に対する対応】

食環境データサイエンス学科の教員組織は、開設時に食物栄養学部 食物栄養学科から異動する教員 3 名、併設校 東筑紫短期大学 食物栄養学科から異動する教員 1 名、及び新規に着任する教員 1 名、合計 5 名の基幹教員で始動する。2 年目には、さらに 1 名の教員が着任し、完成年度には基幹教員 6 名で構成される教員組織を計画している。

この教員構成は、入学定員 50 人（家政関係）に対して、大学設置基準第 10 条の別表第 1 に定められる必要な基幹教員数 6 名を満たし、加えて大学全体での別表第 2 の基幹教員数も満たしている。完成年度の基幹教員の職位及び年齢構成は、下記の表のとおり各年代でバランス良く配置され、教育研究の高度化に応えられる体制を整えている。また、基幹教員は、食環境データサイエンスの各分野とそれに近接する領域の専門家であり、全員が博士または修士の学位を有している。さらに、産業界との連携を強化するため、食農健康データサイエンス関連の実務経験を持つ教員も 1 名配置する。

完成年度までに定年を迎える教員については、「満 60 歳以降に雇用される者の役職及び職位等委嘱に関する規準」第 6 条に基づき、定年延長により雇用を維持する。さらに、該当分野で優れた教育研究業績を有する教員を継続的に公募することで、後任となる基幹教員の育成及び採用を図り、本学科の教育研究が円滑に遂行されるよう、教員組織の体制強化に努める。また、他学科等から移籍する教員の補充についても、新規に教員を採用することで他学科等の教育の質を従来と同等に維持する予定である。

完成年度における基幹教員の職位及び年齢構成（単位：人）

職位	学位	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	計
教授	博士	—	—	—	2	1	3
	修士	—	—	1	—	—	1
准教授	博士	—	—	1	—	—	1
	修士	—	1	—	—	—	1
計	博士	—	—	1	2	1	4
	修士	—	1	1	—	—	2

※平均年齢：59.2 歳

## 【届出書への反映箇所】

附帯事項に対する対応は、届出書の中の「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」の「教員研究実施組織等の編製の考え方及び特色」（P. 21）に反映している。